



ASF 株式会社



ASF 株式会社
ASF 2.0 取扱説明書

	本取扱説明書について	この取扱説明書の使い方	
	車両外観と運転席周り	イラスト目次	
	安全上の注意事項	車両全般の安全について、シートベルトおよびエアバッグなど	
	各部の操作と充電	車両の装備の使い方	
	メーターパネル	メーターパネルの説明、表示灯と警告灯	
	運転操作	運転の基本操作と運転支援機能	
	車のお手入れ	車両のメンテナンス、定期点検	
	万一のとき	故障時や緊急時の対処方法	
	車両の仕様	テクニカルデータ、警告ラベルの説明	
	困ったときは	車両の異常を発見したとき	

はじめに

この度は ASF 株式会社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご購入いただいたお車を安全かつ快適に末永くご愛用いただけるよう、本取扱説明書をよくお読みいただき、お車の正しい使い方や日頃のメンテナンスについてご理解ください。

本取扱説明書に掲載した情報は、本取扱説明書を作成する時点のものです。ASF 株式会社は製品の改良を継続的に行っており、本取扱説明書の内容と異なる場合があります。この取扱説明書はオプション装備の内容が含まれます。お客様のお車の仕様と異なることがありますのでご了承ください。ご不明な点は販売店にお尋ねください。

ASF 2.0 商品概要

ご購入いただいた ASF 2.0 は EV (電気自動車) です。EV は、その構造上、エンジン搭載車とは運転操作や走行特性が異なる部分があります。ASF 2.0 は、運転を支援するさまざまな安全機能を備えています。例えば駐車アシスト、車両接近通報装置、電子式横滑り防止装置、ヒルスタートアシスト (坂道発進サポート) 、前方衝突被害軽減ブレーキ、車線逸脱警報は、衝突の回避や衝突の被害を軽減するように作動します。これらの安全装備は、使い方を誤ると正常に機能しないため、本取扱説明書をよく読んで理解してください。

はじめに	2
ASF 2.0 商品概要	2
本取扱説明書について	
本取扱説明書の表示、記号	7
車両外観と運転席周り	
車両前面	8
車両後面	8
運転席ドア周辺	9
前席正面	9
安全上の注意事項	
安全上の注意事項	10
一般注意事項	10
高電圧の注意事項	11
シートベルト	12
一般注意事項	12
正しい着座姿勢	12
シートベルトの使い方	13
シートベルト着用忘れ警告灯	13
エアバッグ	14
概要	14
エアバッグの作動条件	14
エアバッグ警告灯	16
盗難防止システム	16
概要	16
EDR (イベントデータレコーダー)	17
自動車イベントデータ記録システム	17

各部の操作と充電

ドアの解錠と施錠	18
キー	18
車外からの解錠と施錠	18
車内からの解錠と施錠	20
バックドアの非常時のロック解除	20
車内の装備	22
前席正面の装備の配置	22
ライトコントロールスイッチ	23
マルチファンクションスイッチ	23
ワイパーレバー	24
ルームミラー	25
車内照明灯	25
ライトスイッチャレバー	26
ホーン	28
空調システム	28
空調コントロールスイッチ	28
マルチインフォメーションディスプレイの空調表示画面	29
一般的な操作	29
送風口の位置	31
パワーウィンドウとサイドミラー (ドアミラー)	31
パワーウィンドウの操作	31
ドアミラーの操作	32
車内の収納スペース	33
ダッシュボードの収納ボックス	33
その他の収納部	33
シートの調節	35

シートポジション（正しい運転姿勢）	35
シートの調節機能	35
マルチメディア	36
ホーム画面	36
車両機能 / 設定	37
Bluetooth（ブルートゥース）	37
USB メディア再生	38
スマートフォンの接続	39
設定	40
ナビゲーション（オプション）	41
その他のアプリ	41
他の車内装備	41
サンバイザー	41
アシストグリップ	41
12V 電源ソケット	42
USB ポート	42
小物フック	42
100V 電源	43
動力バッテリー	43
動力用の高電圧バッテリー	43
充電	45
充電の注意事項	45
充電作業	47
メーターパネル	
メーターパネル	51
メーターパネルの外観	51
メーターパネルの機能説明	52

メーターパネルの表示灯と警告灯	53
表示灯 / 警告灯の一覧	53
表示灯 / 警告灯の説明	54
運転操作	
運転の前に	58
走行前の安全点検	58
走行開始後の確認	58
乗車時の留意事項	59
駐車時の留意事項	59
エコドライブ	59
悪条件下の運転に対するアドバイス	59
慣らし運転	61
運転操作と運転支援機能	62
車両電源オンと発進	62
ギアセレクターレバーの操作	63
車両電源オフ	64
パーキングブレーキ	65
駐車アシスト	65
バックカメラ	67
車両接近通報装置	67
ESC（電子式横滑り防止装置）	67
電動パワーステアリング（EPS）	68
アンチロックブレーキシステム（ABS）	68
制動力配分機能（EBD）	69
ヒルスタートアシスト（坂道発進サポート）	69
前方衝突被害軽減ブレーキ（AEBS）	69
後方衝突被害軽減ブレーキ	70

車線逸脱警報	70
先行車発進通知機能	71
自走事故防止機能	72
ソーラー充電システム	72
回生機能	72
車のお手入れ	
一般注意事項	74
メンテナンスについて	74
メンテナンススケジュール	75
定期点検	77
定期的なメンテナンス	77
車体の腐食防止	77
ボディの清掃	77
車内の清掃	79
お客様自身にできるメンテナンス	80
注意事項	80
日常の点検	80
車両を長期保管するとき	80
ボンネットの開閉	81
ワイパー/ブレードの点検と交換	82
タイヤの保守	83
空調システムの保守	85
点検と整備	86
ボンネット内の点検箇所	86
ウィンドウウォッシャーシステム	87
冷却システム	87
ブレーキシステム	88

12V バッテリー	89
タイヤの交換	91
ヒューズ	92
万一のとき	
故障時の措置	93
ドアの解錠 / 施錠ができない	93
車両電源が入らない	94
ディスプレイの電源が入らない（ブラックアウト）	94
走行中に車両電源が落ちた	94
ジャンプスタート（他車の電力で起動）	95
ハザードランプの使用	96
車載工具セット	96
発炎筒	97
緊急時の措置	97
タイヤのパンク	99
車両のけん引と搬送	100
車両の仕様	
テクニカルデータ	101
車両寸法	101
各部の寸法と諸元	102
動力用モーター	102
動力バッテリー	103
動力性能	103
油脂類	103
ホイールアライメント	103
ホイール / タイヤ	103

その他	103
ラベル / プレートの貼付位置	104
VIN (車台番号)	104
車両情報.....	104
OBD 診断機の接続端子	104
警告ラベル.....	104

困ったときは

こんなときは ?	107
車両の異常を発見したとき	107
側溝などに脱輪したときの救援	107
メーターパネルに故障が表示されたとき	108

本取扱説明書の表示、記号



警告

安全上の重要事項です。誤った使い方は、生命への危険や重大な傷害を負うおそれがあります。



注意

誤った使い方は、傷害や車両損傷につながるおそれがあります。



知識

知っておくと便利な機能や、車両の寿命を延ばすことができる情報です。



高圧危険

EV特有の高電圧により、守らないと生命への危険や重大な傷害が生じるおそれがあります。

矢印のイラスト



イラスト中の該当する部位を示します。

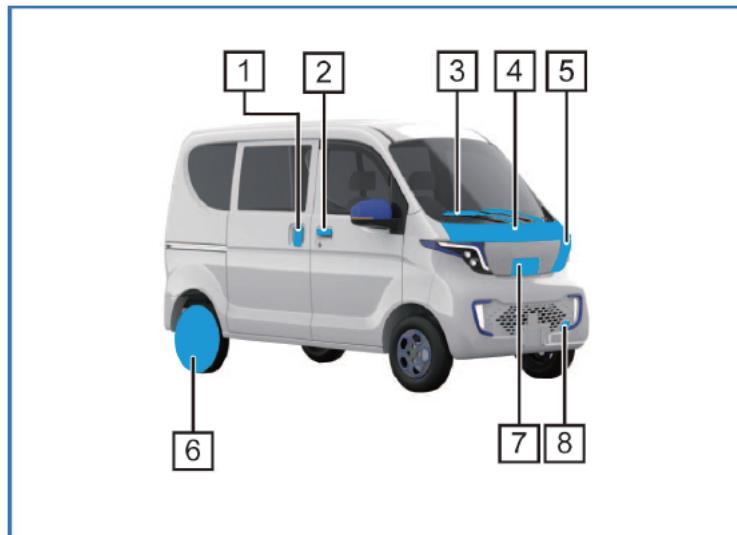


物体の運動方向を示します。



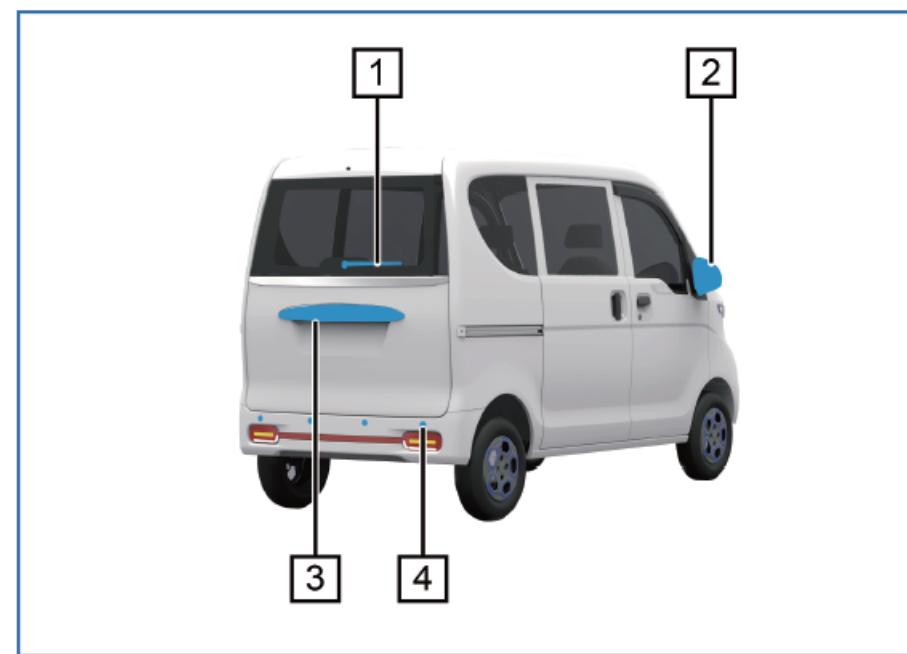
物体の回転方向を示します。

車両前面



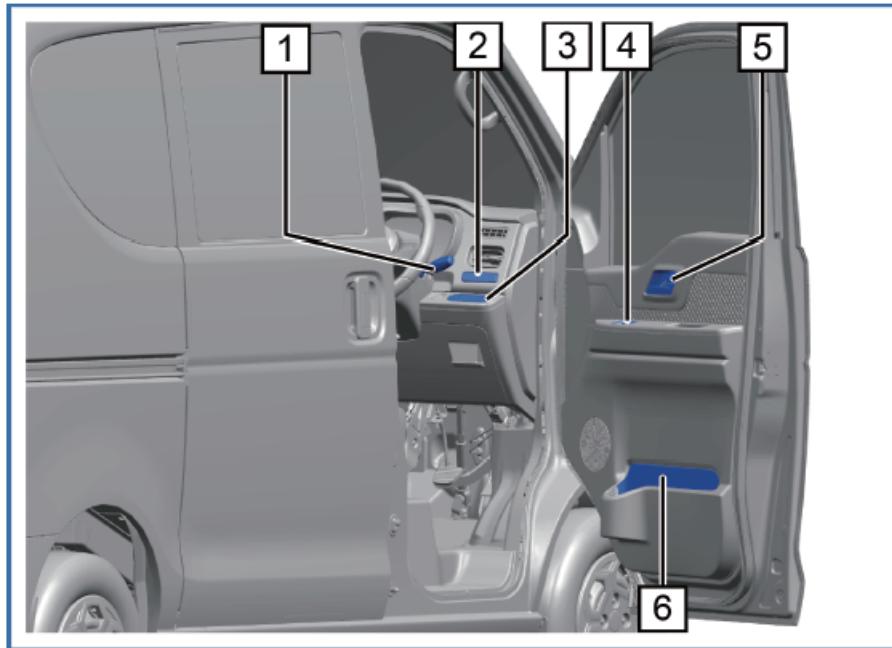
1. スライドドアハンドル (19 ページ)
2. 前席ドアハンドル (19 ページ)
3. ワイパー (24、82 ページ)
4. ボンネット (81 ページ)
5. ヘッドライト (26 ページ)
6. タイヤ、ホイール (83、91、99、103 ページ)
7. 充電ポートカバー (47 ページ)
8. けん引フック (96、100 ページ)

車両後面



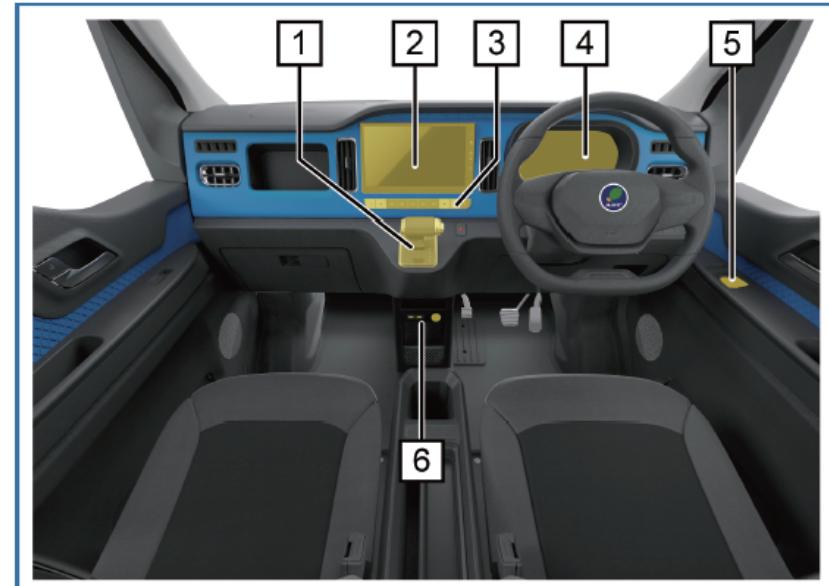
1. リアワイパー (24、82 ページ)
2. サイドミラー (ドアミラー) (32、37 ページ)
3. バックドアハンドル (19 ページ)
4. 超音波センサー (65 ページ)

運転席ドア周辺



1. ライトスイッチレバー (26 ページ)
2. マルチファンクションスイッチ (23 ページ)
3. ライトコントロールスイッチ (23 ページ)
4. ドアロック、パワーウィンドウスイッチ (20、31 ページ)
5. 前席ドアハンドル (20 ページ)
6. フロントドアポケット (34 ページ)

前席正面



1. ギアセレクターレバー (63 ページ)
2. マルチインフォメーションディスプレイ (36 ページ)
3. 空調コントロールスイッチ (28 ページ)
4. メーターパネル (51 ページ)
5. パワーウィンドウスイッチ (31 ページ)
6. USB ポート、12V 電源ソケット (42、44 ページ)

安全上の注意事項

一般注意事項

- 車両の電気装備は、低電圧（12V）システムと高電圧システムがあります。ライト、ルームランプ、メーターパネル、オーディオなどは低電圧システムです。一方で、走行モーター やエアコンコンプレッサーなどは高電圧で作動します。
- 高電圧システムの部品には警告ラベルが貼り付けられています。感電の危険があるため、高電圧ラベルの部品や橙色の高電圧ケーブルには触れないでください。
- 車両電装品の分解や改造を行わないでください。感電や車両火災の原因になります。
- 衝突事故や路上故障の際は、安全を確保できる場所に車を止めて、車両電源をオフにしてください。緊急停止したことが他の道路利用者にわかるように三角表示板などで知らせ、直ちに販売店に連絡してください。臭いや煙で車両火災の疑いを感じたら、直ちに停車してパーキングブレーキを作動させ、車両電源をオフにして車外に脱出してください。

! 警告

- 危険回避を除いて、急発進や急加速、急なステアリング操作など「急」の付く操作を行わないでください。衝突事故につながるだけではなく、乗員のケガや車両が損傷する原因になります。
- 凹凸の多い道路、未舗装路、ぬかるみ、積雪路では慎重に走行してください。
- 走行時は、すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトの役割は、万一のときに乗員が投げ出されることを防ぐだけではありません。エアバッグが正しく機能するためにも重要です。
- 過積載は法令違反となるだけではなく、車両を損傷することにつながります。

! 注意

車両に装備を追加する場合は、ASF 株式会社が承認した整備工場で実施してください。ASF 株式会社が認可していない改造が施された場合、車両保証の適用を受けられない可能性があります。

衝突事故が発生したとき

車両が大きく損傷する事故が発生した場合は、以下の事項を守って人身の安全を確保してください。

- 漏電による感電を防ぐため、高電圧システムの部品に触れないでください。
- 火傷（化学熱傷を含む）を防ぐため、車両から漏れた液類に触れないでください。
- 車両を無理に動かそうとしないでください。また、損傷部位を不用意に点検しないでください。

- 車両の搬送（けん引を含む）が必要な場合は販売店に連絡してください。
- 臭いや煙で車両火災の疑いを感じたら、車両電源をオフにして車外に脱出してから販売店に連絡してください。

高電圧の注意事項

この車には、直流の高電圧が作用する部位があります。高電圧の警告ラベルが貼り付けられている部品を脱着しないでください。高電圧部品の周囲で作業するときは、感電を避けるために直接触れないでください。



高圧危険

- 充電ポートや充電に関する部品の分解や改造を行わないでください。正常に充電できなくなったり、車両火災の原因になります。
- 高電圧バッテリー（動力バッテリー）の脱着や分解を行わないでください。衝突事故の救援作業であっても、レスキューによる高電圧バッテリーの取り外しや切断作業は禁止します。バッテリーハウジングの変形や内部物質の漏れは、深刻な二次災害につながります。
- 橙色（高電圧規格）のケーブルには大電流が流れます。ケーブルの切断や、コネクターの抜き差しは厳禁です。
- 充電プラグを抜き差しするときなど、充電作業者の近くにお子さまを近づけないでください。

動力用の高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリー（動力バッテリー）は周辺温度の影響を受けます。バッテリーの性能は適正な温度環境下で維持されます。

⚠ 注意

- 高電圧バッテリーの性能を長期にわたって維持するために、高温または低温の環境下に車両を長期間放置しないでください。
- 1回の満充電で走行できる距離は、車両メーカーが定める条件下で測定されたものです。周辺温度の変化はバッテリー容量に影響を与えます。一般に、気温が低いとバッテリー容量も少くなり、走行できる距離が短くなります。これはバッテリーの正常な現象であり、不具合ではありません。
- 高電圧バッテリーの修理や脱着には専門知識と技術が必要です。ASF 株式会社が承認した整備工場でのみ作業が認められています。
- 車両を長期保管する場合は、高電圧バッテリーの充電レベルを半分程度にします。1か月に1回の頻度でバッテリーを定期的に充電し、充電レベルを 60% 程度に回復させてください。長期間放置すると過放電になり、バッテリーが正常に機能しなくなることがあります。

高電圧システムの異常を知らせる警告が表示された場合は、安全を確保できる場所に車を止めて、車両電源をオフにしてください。緊急停止したことが他の道路利用者にわかるように三角表示板などで知らせ、直ちに販売店に連絡してください。

シートベルト

一般注意事項

この車は、運転席および助手席に 3 点式シートベルトを備えています。運転中は必ずシートベルトを着用してください。助手席の乗員がシートベルトを着用したことを確認してから、車を発進させてください。シートベルトの未着用は法令違反になるだけではなく、万一のときに重大な傷害を負うリスクが大幅に高まります。また、エアバッグの保護効果を発揮することができません。

⚠ 警告

- 走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。万一の危険回避時や車両衝突時に、乗員の身体が前方に投げ出されないように正しく着用してください。
- シートベルトを正しく着用しないと重大な傷害を負うおそれがあります。シートベルトで肩部と腰部を確実に保持してください。肩部のシートベルトが首に密着しない位置に調節してください。腰部のシートベルトは、できるだけ低い位置に着用してください。
- シートベルトを着用したときに、キー、眼鏡、ボールペンなど鋭利な物がシートベルトと身体の間に挟まれないようにしてください。
- シートベルトにねじれやたるみがないか確認してください。
- 走行中はシートベルトを外さないでください。
- 1 本のシートベルトを複数の乗員で共用しないでください。
- ASF 2.0 の助手席シートベルトは、小さなお子さまが使用することを前提に設計されていません。詳しくは販売店にお尋ねください。
- 妊娠の方や身体に障害のある方は、シートベルトの着用が適さない場合があります。必ずかかりつけの医師に相談してください。

⚠ 注意

シートベルトの脱着、分解、改造を行わないでください。

シートベルトの役割

1. 急制動時や衝突事故の際、シートベルトが乗員の身体を拘束して、前方に投げ出されることを阻止します。また、乗員の身体に作用する衝撃エネルギーの一部を吸収し、負傷の程度を軽減することができます。
2. シートベルトは、走行中の乗員の正しい姿勢を保持する機能があります。ブレーキをかけたときやカーブを曲がる際、乗員の身体が大きく動くとシートベルトのロック機構が働いて、動きを抑制します。

正しい着座姿勢

走行中の姿勢を正しく保つことは、安全な運行に極めて重要です。特にドライバーは、いつでも危険回避の操作ができるように正しい姿勢を保持してください。



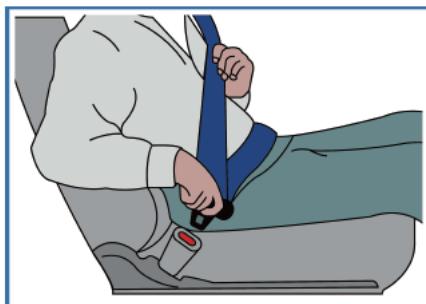
- 背筋を伸ばしてシートに深く腰掛けます。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、膝が少し曲がるようにシートの前後位置を調節します。
- ステアリングホイールの 3 時と 9 時の位置を握ったとき、シートの背もたれから背中が離れないように背もたれの角度を調節します。
- ステアリングホイールを抱え込むような姿勢にならないようにしてください（ステアリングホイールに近づきすぎないでください）。
- シートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

- 走行中は、頭や腕を車外に出さないでください。
- 走行中は、シートの背もたれを傾けすぎないでください。危険回避の運転操作が困難になるだけではなく、万一のときにシートベルトの保護効果を発揮できません。
- ステアリングホイールを抱え込むような姿勢で運転しないでください。エアバッグが作動したときに重大な傷害を負うリスクがあります。

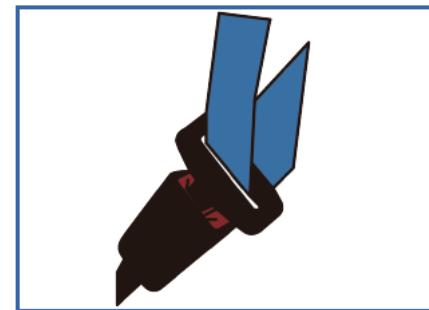
シートベルトの使い方

シートベルトを着用する



1. シートポジションを調整した後、正しい姿勢を保持します。
2. シートベルトのタング（金具）を持って、ベルトのねじれがないことを確認しつつ、バックル（留め具）の位置までシートベルトを引き出します。
3. カチッと音がするまで、タングをバックルに差し込みます。
4. 肩部のシートベルトを少し強めに素早く引き出したときに、ベルトロック機構が作動することを確認します。
5. 肩部のシートベルトが首に密着しない位置に調節してください。腰部のシートベルトは、できるだけ低い位置に着用してください。

シートベルトを外す



1. バックルの赤いボタンを押します。シートベルトが自動的に巻き取られて収納されます。
2. シートベルトがねじれているときなど、自動的に巻き取られなかった場合は、少しだけ引き出して再度巻き取らせます。

シートベルト着用忘れ警告灯

この車は、シートベルトの着用忘れを知らせる警告灯 を装備しています。運転席と助手席の乗員がシートベルトを着用していない場合に点灯します。

- 車両電源がオン（発進できる状態）で、速度が約 10km/h 以下のとき、シートベルトを着用するまで警告灯が点灯します。
- 速度が約 10km/h を超えると、警告灯が点滅するとともに警告音が鳴ります。一定時間が経過してもシートベルトを着用しなかった場合、警告灯が常時点灯に変わります（警告音は停止します）。

⚠ 注意

シートベルト着用忘れ警告灯が正常に機能しないときは、販売店で点検を受けてください。

エアバッグ

概要



運転席と助手席の前面にエアバッグを装備しています。運転席エアバッグはステアリングホイールの中央に組み込まれ、助手席エアバッグはダッシュボードに収納されています。エアバッグ収納部には「AIRBAG」の刻印があります。

万一の車両衝突時、エアバッグの制御ユニットが一定以上の衝撃を感じると、エアバッグに電気信号を送ります。この電気信号によりエアバッグが点火され、ガスの圧力でエアバッグが瞬時に展開します。



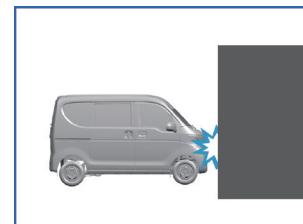
- エアバッグは、衝撃の大きな衝突事故の際にシートベルトの乗員保護機能を補完する装備です。エアバッグの保護効果を発揮するためには、シートベルトを着用していることが前提です。
- AIRBAG の刻印がある部位にステッカーなどを貼り付けないでください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



エアバッグシステムの脱着、分解、改造を行わないでください。

エアバッグの作動条件

エアバッグは、次のような場面で作動します。



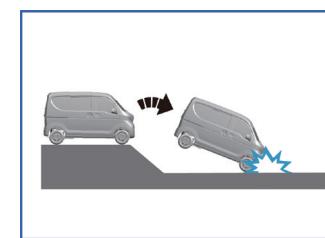
壁や前方の車両などに衝突したとき



溝や大きな段差がある場所に落ちたとき

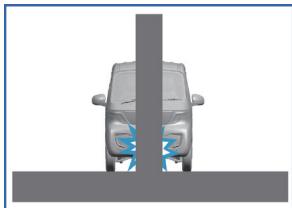


路上の大きな突起物などに乗り上げたとき、ぶつかったとき

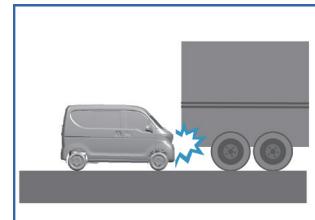


タイヤが地面から離れるほど大きくジャンプして着地したとき

次のような場合、衝撃を検知できずエアバッグが作動しないことがあります。



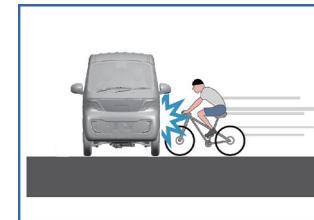
電柱や杭など、細長い物体に衝突したとき



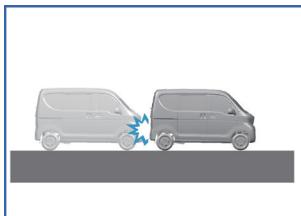
荷台が高いトラックなどに追突して車体下部に潜り込んだとき



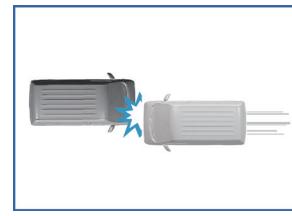
車体側面が電柱などにぶつかったとき



自転車や二輪車などにぶつかったとき



後方から追突されたとき



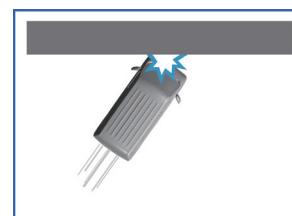
オフセット衝突時（車体前面の一部だけが衝突したとき）



側面衝突時（出会い頭の衝突時）



車両が横転したとき



壁などに斜め方向からぶつかったとき



側面衝突時（他車が斜め後方から接近して車体側面にぶつかったとき）

 警告

- エアバッグは、正しい姿勢でシートに座った状態でのみ、保護効果を発揮します。着座姿勢が悪いときや、ステアリングホイールやダッシュボードに寄りかかっていると、エアバッグの作動によって重大な傷害を負うおそれがあります。
- エアバッグシステムは、シートベルトの機能を補完する保護装置です。シートベルトを着用していないと保護効果を発揮できません。
- ドライバーは、正しい運転姿勢でステアリングホイールとの距離を保ってエアバッグが展開する空間を確保してください。
- エアバッグシステムは、小さなお子さまが使用することを前提に設計されていません。車両衝突時に小さなお子さまがエアバッグの衝撃を受けると、生命への危険や重大な傷害を負うおそれがあります。詳しくは販売店にお尋ねください。

 注意

- AIRBAG の刻印がある部位に強い衝撃を与えないでください。正常に機能しなくなるおそれがあります。
- エアバッグシステムの作動後は再使用ができません。すみやかに販売店で修理してください。

盗難防止システム

概要

車両電源をオフにして降車した後、リモコンキーですべてのドアをロックすると盗難防止システムが自動的に作動します（スタンバイモード）。スタンバイモードのときに、いずれかのドアを不正に開けると盗難防止警報が起動します。

盗難防止警報の作動

盗難防止システムがスタンバイモードのときにドアが不正に開けられると、ターンシグナル（ウインカー）の点滅とホーン音によって周囲に異常を知らせます。

リモコンキーのロック解除ボタンを押すと、警報が停止します。

エアバッグ警告灯

メーターパネルにエアバッグ警告灯  があります。

走行中にエアバッグ警告灯が点灯したときは、エアバッグシステムが正常に作動しないおそれがあります。すみやかに販売店で点検を受けてください。

EDR (イベントデータレコーダー)

自動車イベントデータ記録システム

この車は EDR (イベントデータレコーダー) を搭載しています。EDR は、車両の運行にかかわる重要な情報をリアルタイムで記録します。EDR は、CAN (車両のさまざまな制御装置を接続する通信システム) を使って運行情報を収集します。

例えば、車両に作用する前後方向や横方向の加速度が一定レベルを超えると、衝突事故が発生したと認識します。このとき EDR は、衝突の直前から衝突後に至る数秒間の走行速度、動力用モーターの回転速度、ブレーキペダルの踏み込み、車体の加速度（減速の大きさ）、ステアリングホイールの操作状態、シートベルト着用の有無などのデータを記録します。

EDR が記録するデータの種類

記録されるデータ	説明
前後加速度	衝突に至るまでの前後方向の加速度 (減速の大きさ)
横加速度	衝突に至るまでの横方向の加速度 (減速の大きさ)
デルタ V (前後方向の加速度の変化量 = 衝撃の大きさ)	衝突した瞬間の前後方向の加速度
デルタ V の最大値	※このデータは、「デルタ V の最大値に到達するまでの時間」とともに評価されます。
デルタ V の最大値に 到達するまでの時間	※このデータは、「デルタ V の最大値」とともに評価されます。
走行速度	事故発生時の走行速度
VIN	車両識別番号（車台番号）
ブレーキ操作	ドライバーがブレーキペダルを 踏んだかどうかを検出

EDR のデータの読み取り

EDR に記録されたデータは、専用の読み取り装置を使用して解析します。データの解析は、車両メーカーの他に事故調査会社などの第三者組織を行うことがあります。読み取ったデータは事故の検証などに利用されます。詳しくは販売店にお尋ねください。

EDR データの利用に関する規約

ASF 株式会社は、次の場合に EDR に記録されたデータを開示することがあります。

- 車両所有者の同意があったとき
- 警察、裁判所または政府機関からの公式な要請があったとき

その他、車両の安全性向上のために、研究開発の目的で EDR のデータを利用することがあります。この場合は、車両所有者の個人情報が特定されない範囲でデータを第三者組織に開示することができます。

ドアの解錠と施錠

キー

この車は、2本のリモコンキーが付属しています。リモコンキーには、非常用のメカニカルキーが収納されています。

リモコンキー



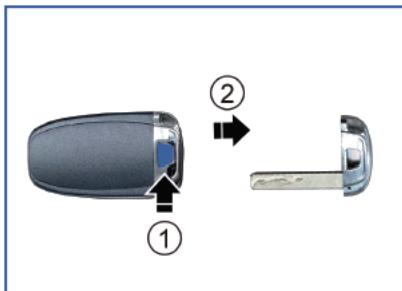
1. ロックボタン
2. ロック解除ボタン
3. ドアミラーコローズボタン

メカニカルキー

リモコンキーの電池残量が不足したときなど、メカニカルキーを使用して運転席ドアの解錠と施錠ができます。

メカニカルキーを使用したいときは、リモコンキーの裏にあるメカニカルキーのロックを解除して引き抜きます。

メカニカルキーの使用後は、しっかりとロックされるまでリモコンキーに差し込みます。



1. メカニカルキーのロック解除
2. メカニカルキーを引き抜く

注意

車両の盗難防止システムがスタンバイモードのとき、メカニカルキーを使ってドアを開けると盗難防止警報が作動します。

知識

リモコンキーの電池残量不足や、リモコンキーが正常に機能しない場合、メカニカルキーを使って運転席ドアの解錠と施錠ができます。

車外からの解錠と施錠

リモコンキーでの解錠と施錠



車両がロックされているときに、リモコンキーのロック解除ボタンを押すと解錠されます。このときターンシグナル（ワインカー）が2回点滅します。車両電源がオフで、すべてのドアが閉まっているとき、リモコンキーのロックボタンを押すと車両がロックされます。このときターンシグナル（ワインカー）が1回点滅します。

知識

いずれかのドアが完全に閉まっていない場合（半ドアなど）、リモコンキーのロックボタンを押しても車両がロックされず、ホーンが2回鳴ります。

自動再ロック機能

リモコンキーで解錠した後、約30秒以内にいずれのドアも開けなかった場合、自動的に再施錠されます。

メカニカルキーでの解錠と施錠



運転席ドアにキーシリンダーがあります。

- キーシリンダーに差し込んだキーを時計方向に回すとドアが解錠されます。
- キーを反時計方向に回すとドアが施錠されます。



注意

防犯のため、車から離れるときは必ず施錠してください。

車外からドアを開ける

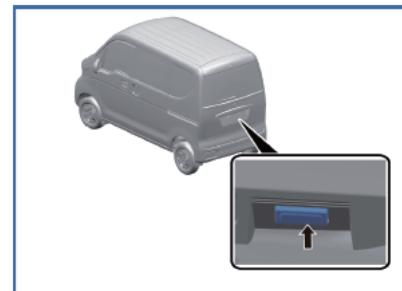


- 車両をロック解除した後、フロントドアのハンドルを引き上げます。



- 車両をロック解除した後、スライドドアのハンドルを後方に引ききます。

バックドアを開ける



バックドア中央のハンドル部分に、ロック機構を解除するスイッチがあります。車両をロック解除した後、スイッチを押すとバックドアのロック機構が解除されます。その後、ハンドルを持ってバックドアを引き上げます。

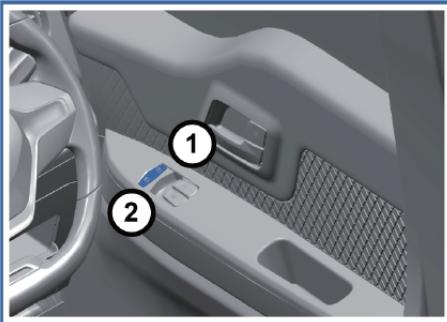


警告

- 走行を開始する前に、バックドアが半ドア状態になっていないか確認してください。走行中に意図せずバックドアが開いて、交通事故を招くおそれがあります。
- バックドアを開けるときは、周囲に人や物がないか注意してください。天井の低い場所では、バックドアが接触しないことを確かめてから全開してください。
- 運転中はバックドアの開閉操作を行わないでください。
- バックドアを閉めるときに、指などが挟まれないか確認してください。

車内からの解錠と施錠

通常の操作



1. ロック解除ボタン
運転席ドアのロック解除ボタンを押すと、すべてのドアがロック解除されます。
2. ロックボタン
運転席ドアのロックボタンを押すと、すべてのドアがロックされます。

車両衝突時の自動ロック解除

車両電源がオンのとき、衝突による衝撃が検出されると、すべてのドアが自動的にロック解除されます。

走行開始後のオートロック機能

走行速度が約 15km/h に達すると、すべてのドアが自動的にロックされるオートロック機能を装備しています。

車両電源オフ時の自動ロック解除

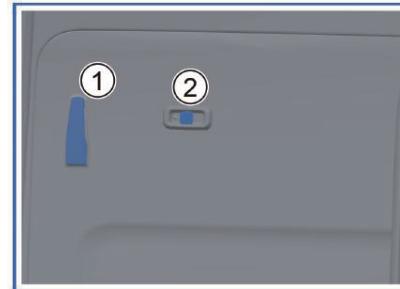
車両電源がオンからオフになると、すべてのドアが自動的にロック解除されます。

車内からドアを開ける（フロントドア）



車両がロックされているとき、運転席ドアのスイッチを矢印の方向に引くと、すべてのドアがロック解除されます。スイッチを矢印とは逆方向に押すと、すべてのドアがロックされます。

車内からドアを開ける（スライドドア）



1. 車両がロック解除されているとき、ドアハンドルを引いてスライドドアを開けます。
2. 車両がロックされているときは、スイッチを前方に押してロックを解除した後、ドアハンドル①を引いてスライドドアを開けます。

i 知識

Pギア以外のとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が完全に閉まっているないと警告音が鳴ります。

バックドアの非常時のロック解除



バックドア内側に、非常時のロック解除用のレバーがあります。レバーを覆っているカバーを工具でこじ開けます。



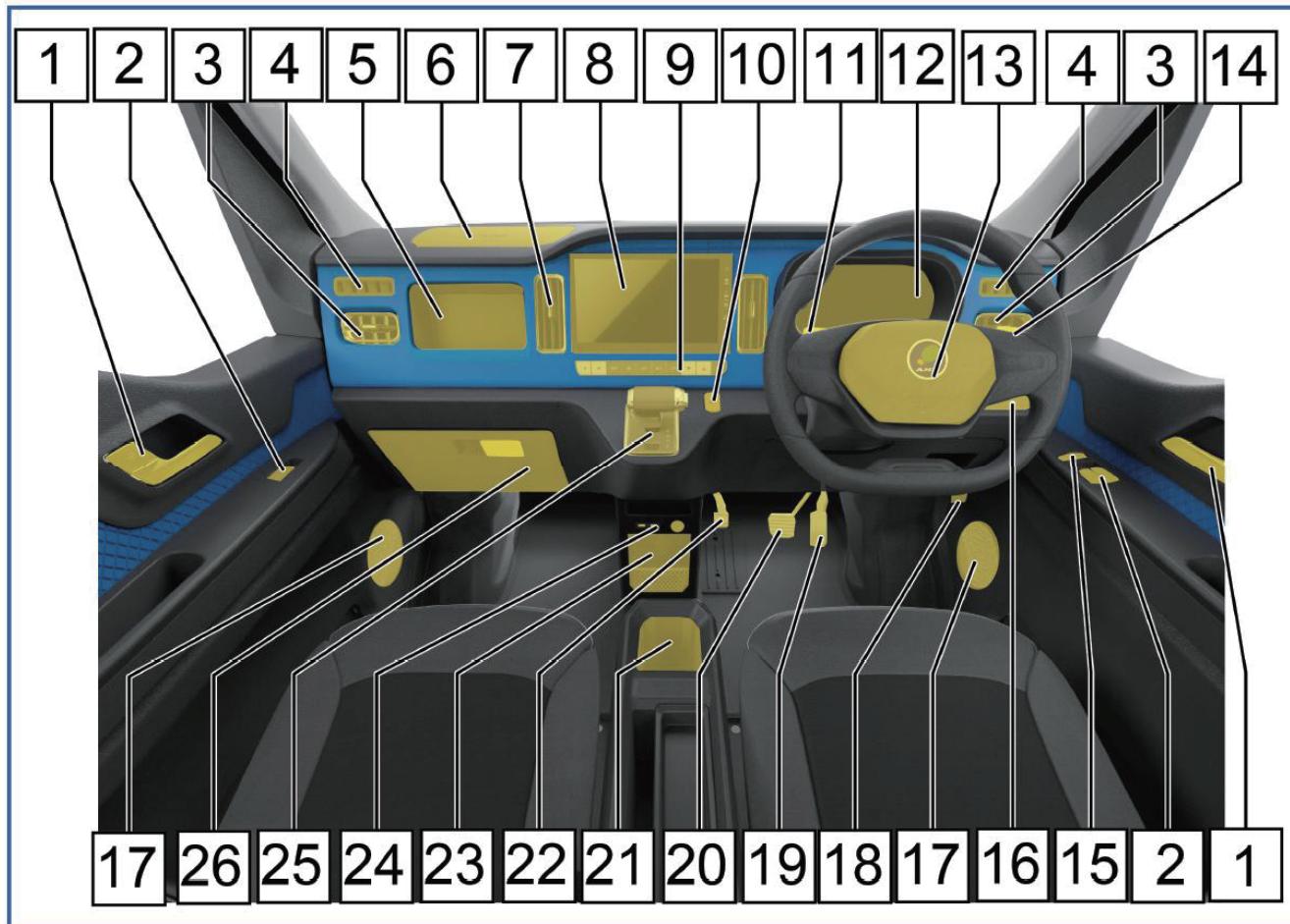
レバーを矢印の方向に倒すと、バックドアがロック解除されます。バックドアを手で押して開けます。

 知識

車両電源がオフのときは、非常時のロック解除機構を使ってバックドアを開けることができます。

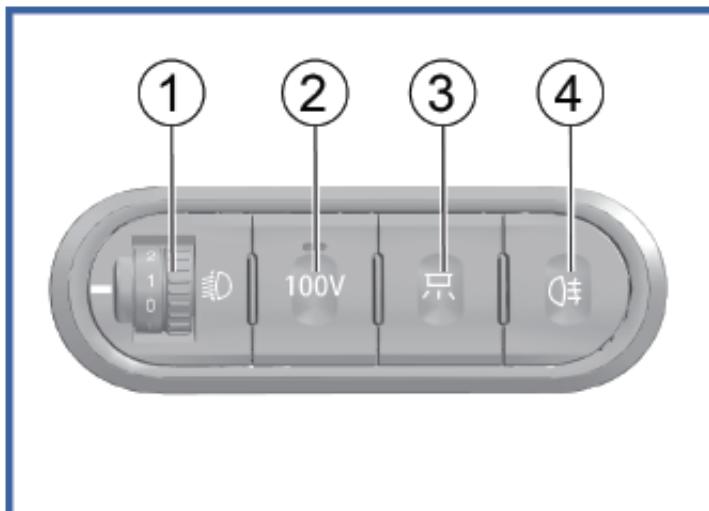
車内の装備

前席正面の装備の配置



1. ドアハンドル
2. パワーウィンドウスイッチ
3. 送風口
4. デフロスターベンチレーション
5. コンソール収納ボックス
6. 助手席エアバッグ
7. 送風口
8. マルチインフォメーションディスプレイ
9. 空調コントロールスイッチ
10. ハザードランプスイッチ
11. ワイパーレバー
12. メーターパネル
13. ホーン、運転席エアバッグ
14. ライトスイッチレバー
15. 集中ドアロックスイッチ
16. ライトコントロールスイッチ
17. スピーカー
18. ボンネットオープナー
19. アクセルペダル
20. ブレーキペダル
21. カップホルダー
22. パーキングブレーキペダル
23. センターコンソール収納ボックス
24. USBポート、12V電源ソケット
25. ギアセレクターレバー
26. グローブボックス

ライトコントロールスイッチ



1. ヘッドライトレベライザー

ダイヤルを回してヘッドライトの高さ（照射角度）を調整します。

2. 100V 電源スイッチ

非常用の 100V 電源システムがオンになります。

3. 大型 LED 荷室ランプスイッチ

大型 LED 荷室ランプが点灯／消灯します。

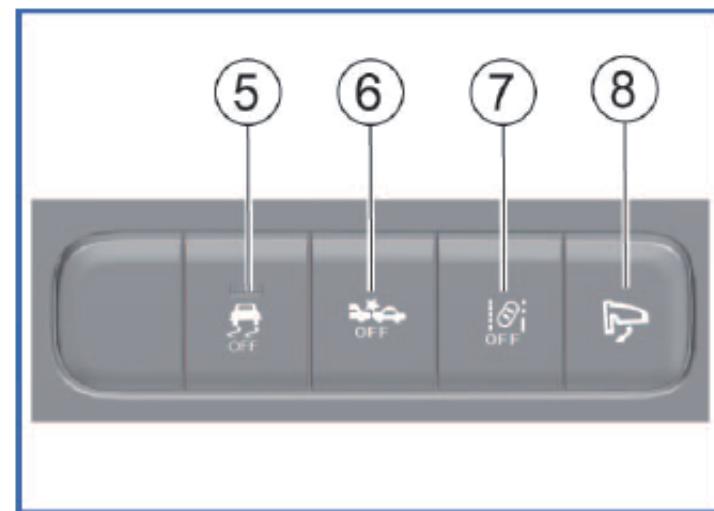
4. リアフォグランプスイッチ

ヘッドライトが点灯しているときに押すと、リアフォグランプが点灯／消灯します。



リアフォグランプは、霧や強い雨で運転視界が悪いときだけ使用してください。

マルチファンクションスイッチ



5. ESC オフスイッチ

ESC 機能がオフになります。再度押すとオンになります。



警告

通常は ESC をオフにしないでください。ESC が作動して、ぬかるみから脱出できない場合など、緊急時のみ ESC をオフにしてください。

6. 衝突被害軽減ブレーキオフスイッチ

スイッチを 2 回押すと衝突被害軽減ブレーキ機能（前方および後方）がオフになります。再度押すとオンになります。

7. 車線逸脱警報オフスイッチ

警告機能がオフになります。再度押すとオンになります。

8. ドアミラースイッチ

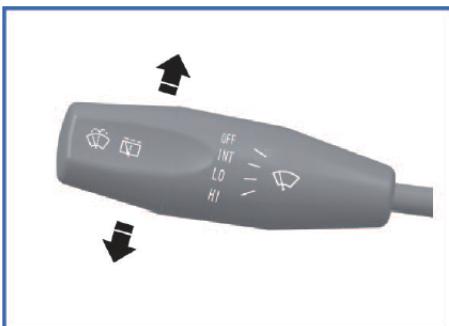
スイッチ操作でドアミラーを折りたたむことができます。

i 知識

リモコンキーによる解錠操作に合わせてドアミラーを自動的に展開する機能もあります。

ワイパーレバー

フロントワイパー



1. OFF: 停止
2. INT: 間欠作動
3. LO: 低速作動
4. HI: 高速作動

OFF (停止)

- フロントワイパーが定位置で作動停止します。

INT (間欠作動)

- フロントワイパーが一定の時間間隔で作動します。

LO (低速作動)

- フロントワイパーが低速で連続作動します。

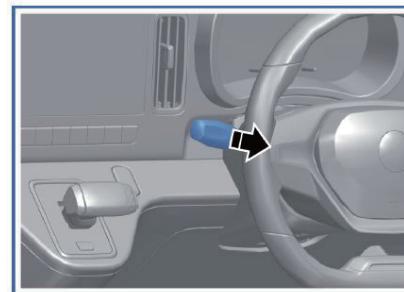
HI (高速作動)

- フロントワイパーが高速で連続作動します。

⚠ 注意

- ウィンドウガラスが乾いている状態でワイパーを作動させると、ガラス表面に傷が付く原因になります。また、モーターの負荷が大きく損傷につながることがあります。
- ワイパーが凍結しているときや、雪が積もっているときは、ワイパーを作動させないでください。
- 樹液や虫の死骸などが付着してガラスの汚れが酷い場合は、ワイパーゴムの過度な損耗を防ぐために、清掃してからワイパーを使用してください。

ウォッシャー（フロント）



ワイパーレバーを手前に引くと、レバーを引いている間、ウォッシャー（フロント）が作動します。

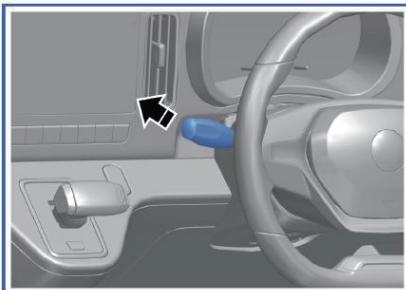
ウォッシャー（フロント）の作動中はフロントワイパーが払拭動作を行います。

ウォッシャー（フロント）の停止後は、フロントワイパーが数回作動して停止します。

⚠ 注意

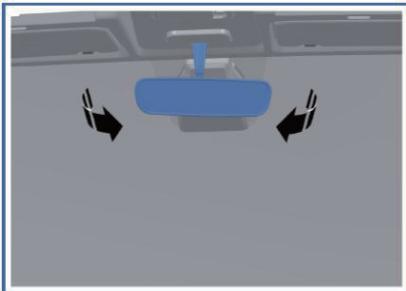
- ウォッシャー液が不足していて噴射されない場合、ウォッシャーを作動させないでください。モーターが損傷する原因になります。
- ウォッシャー液は、取扱説明書に記載されている専用品または推奨品を使用してください。
- ワイパーが凍結しているときや、雪が積もっているときは、ワイパー / ウォッシャーを作動させないでください。

リアワイパー / ウォッシャー (リア)



バックドアが閉まっている状態でワイパー レバーを前に押すと、レバーを押している間、リアワイパーとウォッシャー(リア)が作動します。

ルームミラー



ミラーを手で動かして適切な向きに調節します。

車内照明灯

フロントシーリングランプ



フロントシーリングランプは3つのスイッチ位置があります。

1. ON: シーリングランプが点灯します。
2. OFF: シーリングランプが消灯します。
3. DOOR: いずれかのドアを開くとシーリングランプが点灯します。すべてのドアを閉めると消灯します。

大型 LED フロントルームランプ



フロントシーリングランプの補助灯として、シーリングランプの後方に大型 LED フロントルームランプを備えています。

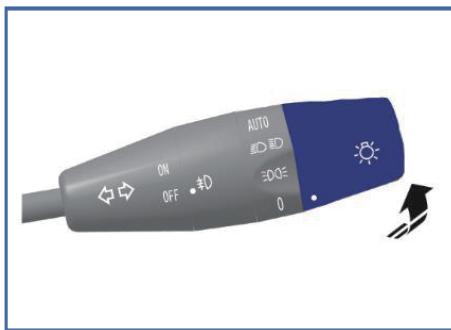
スイッチを後方に倒すとルームランプが点灯し、前に倒すと消灯します。

大型 LED 荷室ランプ



メーターパネルの右側に配置されたライトコントロールスイッチに、大型 LED 荷室ランプのスイッチがあります。車両電源がオンのときにスイッチを押すと大型 LED 荷室ランプが点灯し、再度押すと消灯します。

ライトスイッチレバー



主なライトは、ステアリングホイール右側のスイッチレバーで操作します。ライトの点灯状態は、メーターパネルの表示灯で確認できます。

消灯

車両電源がオフのとき、「0」の位置でライトが消灯します。

昼間走行灯（デイライト）

車両電源がオンのときは、「0」またはAUTOの位置でデイライトが点灯します。スイッチを車幅灯またはロービームの位置にすると、デイライトが消灯します。

車幅灯

位置にすると車幅灯が点灯します。

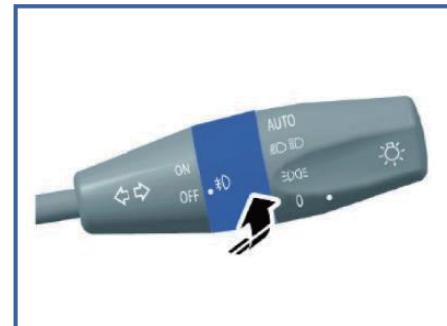
ロービーム

位置にするとヘッドライトロービームが点灯します。

オートライト機能

スイッチを「0」またはAUTOの位置にしておくと、車両電源がオンのときに周囲の明るさに合わせて車幅灯とヘッドライトが自動的に点灯／消灯します。

フロントフォグランプ



車幅灯またはヘッドライトの点灯中、ライトスイッチレバーのリンクをON位置にすると、フロントフォグランプが点灯します。

ヘッドライトの高さ調整



ライトコントロールスイッチのダイヤルを回すと、ヘッドライトの高さ（照射角度）を0～3の4段階で調整できます。

「0」が基本位置です。

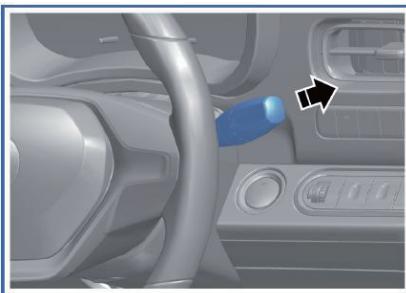
ダイヤル位置	参考条件
0	荷室に積載なし
1	2名乗車で、荷室に軽貨物を積載している
2	2名乗車で、荷室全体に貨物を積載している
3	1名乗車で、荷室全体に貨物を積載している（または2名乗車で、重量物を積載している）



注意

乗員数や積荷の状態に合わせて、ヘッドライトの高さを調整してください。

ハイビーム

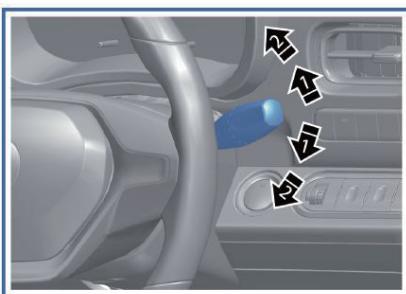


ライトスイッチが「0」、AUTO、または 位置のいずれかのとき、スイッチレバーを前方に押すとハイビームが点灯します。スイッチレバーを手前（元の位置）に引くとロービームに切り替わります。

ヘッドライトの点滅（パッシングライト）

ライトスイッチレバーをロービーム位置から手前に引いている間、パッシングライト（ハイビームヘッドライト）が点灯します。レバーは、手を離すと元の位置に戻り、パッシングライトが消灯します。

ターンシグナル（ワインカー）



ライトスイッチレバーを上下いずれかの方向に動かすとターンシグナルが作動します。

ターンシグナルを作動させてステアリングホイールを回した後、ステアリングを直進状態に戻すときにライトスイッチレバーも基本位置に戻り、ターンシグナルが消灯します。

ワンタッチワインカー機能

ライトスイッチレバーを上下いずれかの方向に動かし、軽い抵抗を感じる位置でレバーから手を離します。ターンシグナルが数回点滅して消灯します。車線変更時などに便利な機能です。



注意

ターンシグナルは道路交通法に従って使用してください。ワンタッチワインカー機能だけで車線変更の動作を完了できないときは、ワインカーを連続作動させてください。

リアフォグランプ



ヘッドライトの点灯中にライトコントロールスイッチのスイッチ を押すと、リアフォグランプが点灯します。

ハザードランプ



スイッチを押すとハザードランプが作動して、すべてのターンシグナルが同時に点滅します。

スイッチを再度押すとハザードランプが停止します。

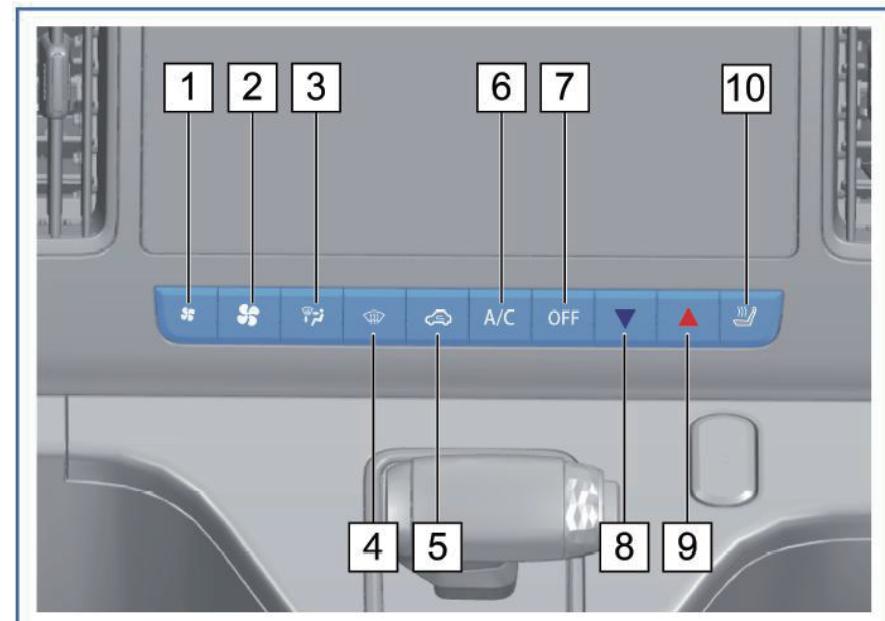
ホーン



ステアリングホイール中央のパッド面がホーンボタンになっています。ボタンを押すとホーンが鳴ります。

空調システム

空調コントロールスイッチ



1. 風量ボタン、風量を下げる
2. 風量ボタン、風量を上げる
3. 送風モードの切り替え
4. ウィンドスクリーンデフロスター / デフォッガー
5. 内気循環 / 外気導入の切り替え
6. A/C ボタン（エアコンコンプレッサー作動）
7. エアコン OFF ボタン
8. 温度ボタン、温度を下げる
9. 温度ボタン、温度を上げる
10. 運転席シートヒーター

マルチインフォメーションディスプレイの空調表示画面



マルチインフォメーションディスプレイが起動している状態で空調コントロールスイッチを操作すると、ディスプレイが空調システムの表示画面に切り替わります。空調システムの画面には、設定温度、送風量、送風モード、エアコンコンプレッサーのオン / オフ、デフロスターのオン / オフ、内気循環 / 外気導入などの作動状態が表示されます。

一般的な操作

A/C ボタン

車両電源がオンのときに A/C ボタンを押すと、空調システムの冷房機能が作動します。マルチインフォメーションディスプレイの A/C アイコンが点灯します。

A/C ボタンを再度押すと、冷房機能が停止して A/C アイコンが消灯します。このとき、空調機能の設定（設定温度、送風量、送風モード）がシステムに一時的に記憶されます。A/C ボタンをもう 1 度押すと、記憶した設定が呼び出されます。

エアコン OFF ボタン

空調システムが作動しているときにエアコン OFF ボタンを押すと、空調機能がすべてオフになります。

内気循環 / 外気導入の切り替えボタン

ボタンを押すたびに内気循環モードと外気導入モードが切り替わります。内気循環モードのときに表示灯が点灯します。

内気循環モードでは、車外から空気を取り込まずに車内の空気を循環させます。外気導入モードでは、一定の割合で車外の新鮮な空気を取り込んで換気します。

内気循環モードは、次のような場面で使用することを推奨します。

- 未舗装路など、砂塵や埃が多い場所を走行するとき
- 排気ガスなどで外気が汚れていて、人体に有害な物質を取り込みたいとき
- 急速冷房や急速暖房のとき



警告

- 内気循環モードを長時間連続使用しないでください。車内の酸素が不足して、疲労や目まいを起こすことがあります。
- 内気循環モードではウィンドウガラスが曇りやすくなって、良好な運転視界を確保しにくくなることがあります。

ウインドスクリーンデフロスター / デフォッガー ボタン

デフロスター / デフォッガー ボタンを押すと、外気導入モードが選択されて送風量が最大になります。ウィンドウガラスの曇りを取り除く（または曇りにくくする）ために、主にフロントウィンドウとサイドウィンドウに向けて送風されます。デフロスター / デフォッガーの作動中はマルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点灯します。ボタンを再度押すと、デフロスター / デフォッガー機能が停止してアイコンが消灯します。

温度ボタン

温度ボタンで空調システムの設定温度（送風温度）を調整します。

設定は 6 段階あり、「1」が最低温度（1 ~ 3 は冷風）、「6」が最高温度（4 ~ 6 は温風）です。

風量ボタン

風量ボタンで送風量を調整します。

設定は8段階あり、「1」が最小風量、「7」が最大風量です。「0」になると送風が停止します。



知識

エアコン OFF ボタンを押したときも送風が停止します。

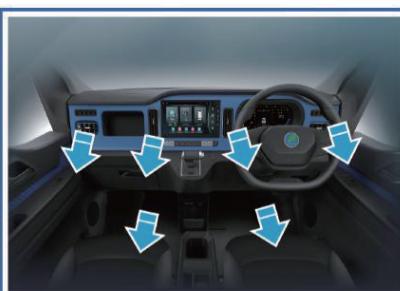
送風モードの切り替えボタン

送風モード切り替えボタンの操作により、5通りの送風モードを選択できます。



1. 正面に送風

主に正面（中央および左右）の送風口が開き、乗員の上半身に向けて送風されます。



2. 正面と足元に送風

主に正面（中央および左右）の送風口と、足元の送風口が開き、乗員の上半身と足元に向けて送風されます。



3. 足元に送風

主に足元の送風口が開き、乗員の足元に向けて送風されます。



4. 足元に送風+デフロスター/デフォッガー

主に足元の送風口が開き、乗員の足元に向けて送風されます。さらに、デフロスター/デフォッガー用の送風口からも空気が送り出されてウィンドウを曇りにくくします。



5. デフロスター/デフォッガー

主にデフロスター/デフォッガー用の送風口から空気が送り出されます。

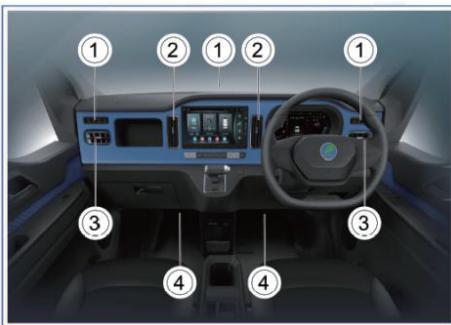
運転席シートヒーター

車両電源がオンのときにボタン を押すと、運転席シートに組み込まれているヒーターが作動します。作動中はボタンの表示灯が点灯します。ボタンを再度押すとシートヒーターがオフになります。

⚠ 注意

- シートヒーターを長時間連続使用しないでください。低温火傷の原因になります。皮膚が過敏な方は、シートヒーターの使用を控えてください。
- シートに硬い物や鋭利な物を押し付けないでください。シートヒーターの部品が損傷する原因になります。

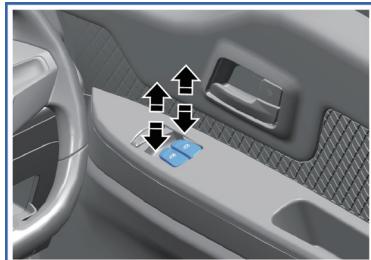
送風口の位置



- デフロスター / デフォッガー
- 正面中央
- 正面左右
- 足元

パワーウィンドウとサイドミラー（ドアミラー）

パワーウィンドウの操作



運転席および助手席のドアアームレストにパワーウィンドウスイッチがあります。運転席ドアには、運転席側と助手席側のパワーウィンドウを操作するスイッチが並んで配置されています。

車両電源がオンのときにスイッチを操作するとウィンドウが昇降します。

- スイッチを押し下げるとき、ウィンドウが下がります。
- スイッチを引き上げるとき、ウィンドウが上がります。

パワーウィンドウスイッチのワンタッチオーブン機能

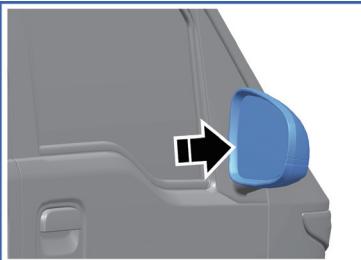
パワーウィンドウスイッチにはワンタッチオーブン機能があります。スイッチを押し下げるとき、途中で抵抗を感じる位置があります。この位置からさらに押し下げるとき、スイッチから指を離してもウィンドウが全開位置まで自動的に下がります。ワンタッチオーブン機能の作動中に、スイッチを押し下げるか引き上げると、その位置でワンタッチオーブン機能が中断されます。

⚠ 警告

お子さまやペットがパワーウィンドウスイッチを誤って操作すると、ウィンドウに挟まれて危険です。

ドアミラーの操作

ドアミラーガラスの位置調整



ドアミラーガラスの上下左右を指で押し
て、適切な向きに調整してください。

自動展開機能



ドアミラーは電動で折りたたむことができます。

マルチインフォメーションディスプレイ
に、ドアミラー自動展開機能のオン / オ
フメニューがあります。

自動展開機能がオンのとき

リモコンキーで車両をロック解除すると、ドアミラーが展開します。

自動展開機能がオフのとき

リモコンキーの操作に連動した自動展開機能は作動しません。必要に応じ
て手動でミラーを折りたたむ、または展開します。



- 折りたたむとき：ドアミラーのカ
バーを手で持ち、ゆっくりと後方に
折りたたみます。
- 開くとき：ドアミラーのカバーを手
で持ち、固定される感触がある位置
までゆっくりと開きます。

注意

ドアミラーに強い力を加えないでください。破損する原因になります。

マルチファンクションスイッチのドアミラースイッチ



メーターパネルの右側に配置されたマル
チファンクションスイッチに、ドアミラー
スイッチが取り付けられています。

車両電源がオンのときにスイッチを押す
と、ドアミラーが電動で折りたたまれま
す。スイッチを再度押すと電動で展開し
ます。

注意

- ドアミラー電動機能の作動中は、手で動かさないでください。
部品が破損する原因になります。
- 凍結などによりドアミラーが動かないときは、無理に動かさないでください。
- ドアミラーガラスの汚れを取り除くときに、硬い物や強い力で擦らないでください。

車内の収納スペース

ダッシュボードの収納ボックス



助手席の正面に収納スペースがあります。

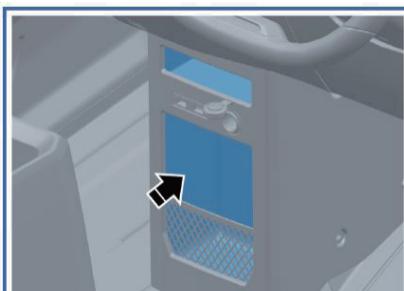


ダッシュボードの右下（運転席の足元）に小物入れがあります。



警告

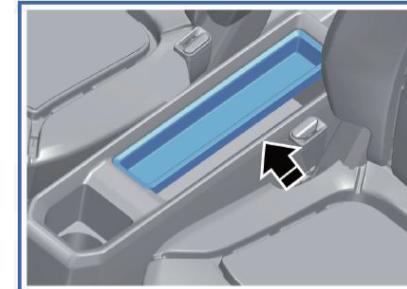
運転中に小物入れの荷物が飛び出ないように注意してください。



マルチインフォメーションディスプレイの下部に収納スペースがあります。

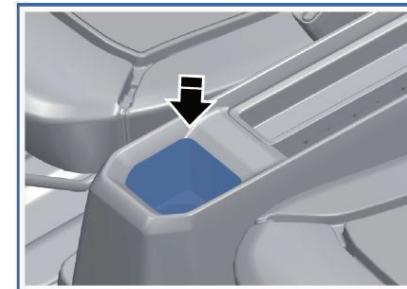
その他の収納部

センターコンソールの収納スペース



運転席と助手席のシート間に、収納スペースを用意しています。

カップホルダー



センターコンソールの収納スペースの前方にカップホルダーがあります。



警告

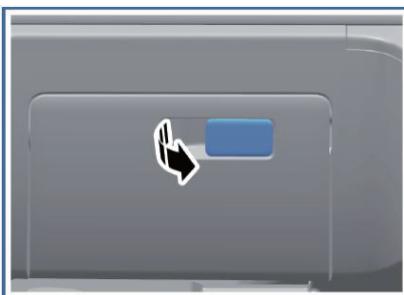
- 走行中にカップホルダーの飲み物がこぼれないように注意してください。
- 火傷の原因になるため、カップホルダーに熱い飲み物を置かないでください。

フロントドアポケット



ドア下部に収納ボックスがあります。

グローブボックス

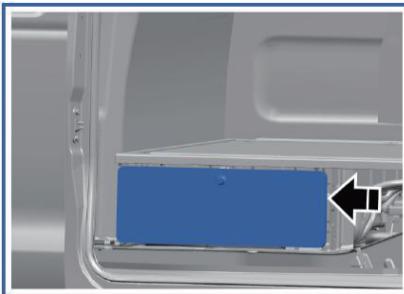


助手席の足元に、蓋付きの収納ボックスがあります。ハンドルを引くとグローブボックスの蓋が開きます。閉めるときは、力ちッと手ごたえがあるまで手で蓋を押します。



走行中はグローブボックスを開けたままにしないでください。

荷室の引出し



助手席側のスライドドアを開けると、小物を入れる引出しが荷室の床下にあります。

オーバーヘッドコンソール



運転席と助手席の頭上前方に収納スペースがあります。ボタンを押すと蓋が開きます。



警告

- 走行中は蓋を開けたままにしないでください。
- 外気温度が高いときや直射日光が当たると、オーバーヘッドコンソールの中は高温になります。ライターや液類などの可燃物を入れないでください。車両火災の原因になります。

シートの調節

シートポジション（正しい運転姿勢）

正しい姿勢で運転することは、運転中の疲労軽減につながるだけではなく、走行安全性に大きく影響します。また、シートベルトとエアバッグの保護効果を最大限に発揮するためにも正しい運転姿勢が大切です。

エアバッグは、正しい姿勢でシートベルトを着用しているときに最大の保護効果を発揮します。例えば、ステアリングホイールとの距離が近すぎる場合、エアバッグが展開したときに衝撃を受けて負傷することがあります。



警告

- 走行中はシート位置を調節しないでください。運転姿勢が乱れて事故につながるおそれがあります。
- シートの背もたれを傾けすぎないでください。ステアリング操作が難になって安全運転に支障が生じます。また、シートベルトとエアバッグの保護効果を発揮できなくなります。
- 正しい姿勢で着座した後、シートベルトの位置を確認してください。シートベルトの誤った使い方は、重大な傷害を負うリスクが高まります。

シートの調節

- 背筋を伸ばしてシートに深く腰掛けます。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、膝が少し曲がるようにシートの前後位置を調節します。
- ステアリングホイールの3時と9時の位置を握ったとき、シートの背もたれから背中が離れないように背もたれの角度を調節します。
- 正面を向いたときに運転視界が確保されているか、メーターパネルの表示を読み取れるか確認します。

シートの調節機能

運転席シート

運転席シートは4方向に調節できます。



- 前後方向のスライド：座面前部のレバーを引き上げて、シート全体を前後に動かします。レバーから手を離すと前後位置が固定されます。
- 背もたれの傾き：座面の横にあるレバーを引いて、背もたれの角度を調節します。レバーから手を離すと、背もたれの角度が固定されます。

助手席シート

運転席シートと同様に、4方向に調節できます。



警告

- シート位置を調節した後は、確実に固定されていることを確認してください。
- シート以外の場所に乗員を乗せたまま走行しないでください。
- 助手席シートの前後位置は、エアバッグが展開するスペースを確保するために、後方寄りに調節してください。

マルチメディア

ホーム画面

マルチインフォメーションディスプレイを起動するとホーム画面が表示されます。ディスプレイの操作中に画面右の HOME ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

ホーム画面は 4 つの表示領域に分かれています。



1. 画面上部のステータスバー
2. ウィンドウ
3. 機能タブ
4. 画面下部のファンクションメニュー

1. 画面上部のステータスバー



ホームボタン、時刻、画面分割ボタン、戻るボタンなどが並んでいます。

□ ホームボタン

ホーム画面に切り替わります。

□ 画面分割ボタン

画面分割機能に対応しているアプリを利用中に、表示画面が分割されます。

□ 戻るボタン

直前に表示されていた画面に切り替わる、または現在のアプリを終了します。

2. ウィンドウ



3. 機能タブ



4. 画面下部のファンクションメニュー



ホーム画面に 3 つのウィンドウが表示されます。

1. ソーラー充電
2. オーディオ
3. 車両機能 / 設定

オーディオ、Bluetooth、アプリなどのボタンが並んでおり、タップすると各機能の操作画面に切り替わります。

モバイルコネクト（スマートフォン接続）、ビデオ、エアコン、設定、BT (Bluetooth) 音楽のボタンが並んでおり、タップすると各機能の操作画面に切り替わります。

車両機能 / 設定

マルチインフォメーションディスプレイは、車両のさまざまな情報を知らせるインフォメーション画面として機能します。

空調システム（エアコン）情報



設定温度、送風量、送風モードなど、空調システムの作動状態が表示されます。

ドアの開閉情報



運転席と助手席のドア、後部スライドドア、バックドアの開閉状態が表示されます。

ソーラー充電の情報



ソーラー充電システムの出力電圧 / 電流、入力電圧 / 電流、システムの作動状態、故障の有無、積算充電時間や充電電力量などが表示されます。

サイドミラー（ドアミラー）の自動展開機能の設定



ドアミラーの自動展開機能のオン / オフを選択できます。

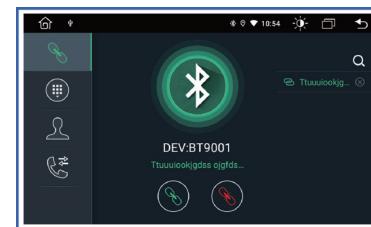
Bluetooth（ブルートゥース）

この車は Bluetooth 接続機能を備えています。スマートフォンを車両に無線接続することで、ハンズフリー通話、スマートフォンに登録している電話帳データの同期、通話履歴の呼び出しができます。また、スマートフォンに保存してある音楽 / ビデオ再生ができます。

知識

スマートフォンの機種やソフトウェアバージョンによって Bluetooth 接続できない場合があります。または利用できる機能が異なります。

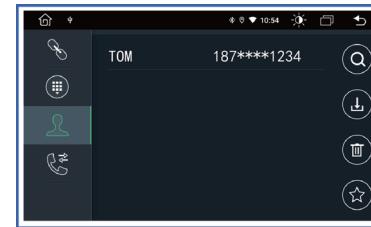
通話



ホーム画面右の機能タブに表示されている Bluetooth ボタンをタップします。

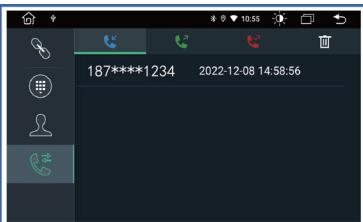
デバイス（スマートフォン）の接続、電話番号を入力するためのダイヤルアップ、電話帳、通話履歴のボタンがあり、ハンズフリー通話での着信および発信ができます。

電話帳



スマートフォンに登録している電話帳データをマルチメディアシステムに同期することや、電話帳からの番号検索、新規の電話番号の保存などができます。

通話履歴



音楽 / ビデオ



最近の通話履歴を呼び出して発信することができます。

スマートフォンに保存してある音楽をマルチメディアシステムで再生できます。

i 知識

スマートフォンの機種やソフトウェアバージョンによって再生できない場合があります。

USB メディア再生



ダッシュボードの中央下部に配置されている USB ポートを利用して、音楽 / ビデオを保存した USB デバイスを車両に接続できます。

USB ミュージック



USB デバイスを接続すると USB メディア再生画面が表示されます。デバイスに保存されている音楽ファイルの中で、先頭に保存されているファイルが自動再生されます。以前に再生したことがあるデバイスを再接続すると、最後に再生されたファイルが選ばれます。

i 知識

- USB デバイスに保存されているファイルの形式をマルチメディアシステムがサポートしていない場合は再生できません。
- 接続した USB デバイスをマルチメディアシステムが認識できない場合は、ポップアップ画面でメッセージが表示されます。

USB メディア再生画面では次の操作ができます。

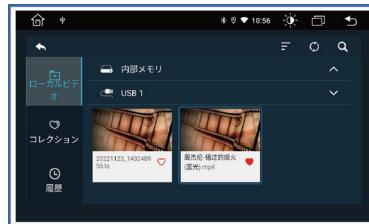
- 音量調整、ミュート
- 再生、一時停止
- リピート再生（1 曲だけを繰り返す、またはファイルリスト全体を繰り返す）
- ランダム再生
- スキップ（前 / 後の選曲）

USB ビデオ



USB ミュージックと同様に、USB デバイスに保存されているビデオファイルが再生されます。

● 知識

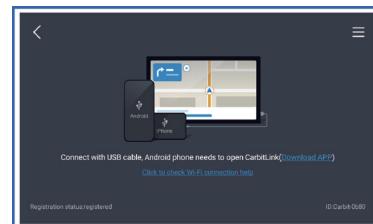


マルチメディアシステムはメモリー機能を持っており、メディアファイルを保存することもできます。ビデオフォルダー選択メニューで、内部メモリーと USB を切り替えることができます。

⚠ 注意

USB メディア再生機能は、USB デバイスを接続したときだけ使用できます。

スマートフォンの接続



スマートフォンは、Wi-Fi（無線）または USB ポート（有線）によりマルチメディアシステムに接続します。スマートフォンとの接続が確立されると、スマートフォンの画面をマルチインフォメーションディスプレイに表示するミラーリング機能や、マルチインフォメーションディスプレイでスマートフォンを操作する機能を利用できます。

● 知識

スマートフォンの機種やソフトウェアバージョンによって利用できる機能が異なります。

USB での接続方法

- Android の場合、USB を介してスマートフォンを接続した後、転送ファイル接続オプションを選択します。
- iPhone の場合、USB を介してスマートフォンを接続した後、スマートフォンに表示されるポップアップ画面で「信頼」を選択します。

設定



「ネットワークとインターネット」、「カーディナリティメント」、「アプリと通知」、「ストレージ」、「メモリー」、「アカウント」、「システム」の各設定ができます。

ネットワークとインターネット

WLAN:

Wi-Fi 接続することで、スマートフォンとマルチメディアシステムが連携されます。

プライベート DNS:

オフ、オート、プライベート DNS プロバイダーのホスト名などのモードを選択できます。

カーディナリティメント



一般:

後退時のミュート機能のオン / オフや、初期設定への復元ができます。

画面表示:

昼間と夜間の画面明るさをスライダーで設定できます。

音量:

メディア再生、ナビゲーションガイド、Bluetooth (ブルートゥース) 、着信、システムの各音量を設定できます。

音声:

音響効果 (EQ、バランス、ラウドネス、フィルター、最適なリスニング位置、インテリジェントベースなど) を設定できます。

ナビゲーション:

ナビゲーションミックスで、ナビゲーションとメディアの音量のバランスを設定できます。

ブルートゥース:

Bluetooth の自動接続や自動応答などを設定できます。

アプリと通知

最近使用したアプリや通知を確認できます。

ストレージ

マルチメディアシステムのストレージ容量を確認できます。ストレージ管理ツールをオンにすると、バックアップ済みの写真やビデオをマルチメディアシステムのストレージから削除して空き容量を増やします。

メモリー

メモリー容量、メモリーの平均使用量、空き領域などを確認できます。

アカウント

アカウントの追加やデータの自動同期などを設定できます。

システム

言語と入力方法:

言語の選択、入力方式の変更、仮想キーボード設定、物理キーボード設定、スペルチェックツール設定、個人辞書設定、ポインター速度設定ができます。

日時:

時刻の表示形式、時刻とタイムゾーンの自動確認機能を設定できます。

システム情報：

デバイス名、ハードウェアモデル、Bluetooth アドレス、WLAN アドレスなどの情報を表示します。

ナビゲーション（オプション）



オプションでナビゲーションを選択できます。

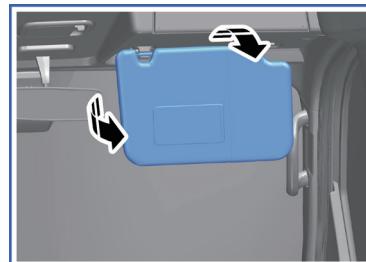
その他のアプリ



空調、ソーラー充電、ビデオ、Bluetooth、音楽、車両情報、フォトギャラリー、ES ファイルブラウザー、カーリンフォティメントの設定など、さまざまなアプリが表示されます。

その他の車内装備

サンバイザー



運転席と助手席の頭上前方にサンバイザーがあります。日差しが眩しいときに下げて視界を確保します。サンバイザーのルームミラー側のフックは取り外しが可能で、横からの日差しが眩しいときはフックを外して横に向けることができます。

アシストグリップ



運転席と助手席のサイドウィンドウ前方にアシストグリップが取り付けられています。走行中に身体を安定させたいときにアシストグリップを握って支えます。

⚠ 注意

- アシストグリップは乗降時に使用しないでください。破損により姿勢を崩して傷害を負うおそれがあります。
- アシストグリップに重い荷物をぶら下げたり、強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

12V 電源ソケット



ダッシュボードの中央下部に 12V 電源ソケットがあります。



注意

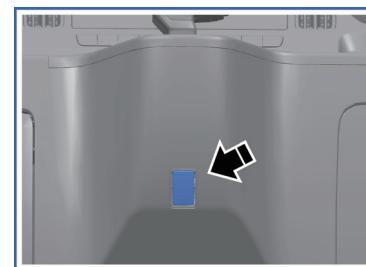
- 12V 電源ソケットは、消費電力の小さな電気アクセサリーを使用するための電源です。
- 12V 電源ソケットをタコ足配線しないでください。不適切な使用は車両火災の原因になります。
- 車両から離れるときは、安全のため電源ソケットに差し込んだプラグを抜いてください。

USB ポート



ダッシュボードの中央下部に 5V/2A の USB ポートが 2 口あります。片方は USB メディアのデータ転送とデバイスの充電に使用できます。もう一方は充電専用です。

小物フック



12V 電源ソケットの上方に、手荷物などを掛けておくフックがあります。フックの許容荷重は 2kg です。



注意

- 許容荷重を超える重さの荷物をぶら下げないでください。
- 駐車時に車内が高温になるときはフックを使わないでください。

100V 電源



カップホルダーの下方に 100V 交流電源コンセントが取り付けられています。この AC100V コンセントは、パソコンや携帯端末などの充電に使用できます。また非常時には、家電製品も利用可能です。(最大 1500W)



100V 電源システムは、メーターパネルの右側に配置されたライトコントロールスイッチにあるスイッチでオン / オフします。車両電源がオンのときにスイッチを押すと、100V 電源システムが作動してスイッチの表示灯が点灯します。スイッチを再度押すとシステムが停止して表示灯が消灯します。

⚠ 注意

- 100V 電源システムは、動力用の高電圧バッテリーから交流の電力が供給されます。バッテリーの過放電を避けるために、この電源は運転時のみ使用してください。
- 100V 電源システムの使用時は安全に十分配慮してください。異臭や煙を感じたら直ちに使用を中止して、販売店に連絡してください。

動力バッテリー

動力用の高電圧バッテリー

動力バッテリーの使用環境の温度について

高電圧バッテリー（動力バッテリー）は周辺温度の影響を受けます。バッテリーの性能は適正な温度環境下で維持されます。

バッテリーの良好な性能を維持するとともに耐用年数を延ばすために、 $-30^{\circ}\text{C} \sim +55^{\circ}\text{C}$ の温度範囲で車両を使用することが重要です。

⚠ 注意

高温 ($+60^{\circ}\text{C}$ 以上) または低温 (-40°C 以下) の環境下に、連続して 24 時間以上車両を置かないでください。

動力バッテリーのメンテナンス

バッテリーの良好なコンディションを維持するとともに耐用年数を延ばすため、少なくとも 2 週間に 1 回の頻度で定期的にバッテリーを充電してください (普通充電による満充電)。

車両を使用しない期間が 15 日を超える場合、バッテリーの性能低下や内部の損傷を避けるために、バッテリー電力残量が 50 ~ 70% を維持するように定期的に充電してください。

長期間 (3 か月以上) にわたって車両を使用しない場合、バッテリーの電力残量を 50% に維持することを推奨します。残量が不足したときは充電し、残量が多すぎるとときは走行 (放電) してから車両を保管してください。

 注意

- 動力用の高電圧バッテリーは特別な化学製品で、正しい使い方とメンテナンスが重要です。バッテリーへの負担が大きくなる急速充電を多用せず、日常的に普通充電を使用することで良好なコンディションが維持されます。
- バッテリーの化学的特性により、充電できる電力量は長年の使用で少しづつ減ります。したがって航続可能距離も徐々に短くなります。これはバッテリーの特性であり不具合ではありません。一方、航続可能距離が短期間で大幅に短くなるなど技術的な問題が疑われる場合は早めの処置が大切です。すみやかに販売店で点検を受けてください。

動力バッテリーの廃棄

車両を廃棄するときは地域の法令等を遵守してください。バッテリーに含まれる化学物質は、多くの地域・自治体で処分方法が規定されています。以下の説明は処分方法の一例であり、詳しくは販売店にお尋ねください。

- バッテリーを廃棄するときは電解液の揮発を避けるため、絶縁性のビニール袋で完全に密封する必要があります。密封したバッテリーは、樹脂など絶縁性の保管箱に入れて運搬します。リサイクルの回収業者に引き渡すまでは、換気が良好な乾燥した場所に置きます。
- バッテリー電解液は、完全密閉できる絶縁性の容器に入れて、リサイクルの回収業者に引き渡すまで換気が良好な乾燥した場所で保管します。
- バッテリーを解体する際、合成ゴムの一種であるクロロブレンゴムを主成分とする接着剤が剥がれます。この素材は、環境汚染物質に指定されていなくても自然界で分解されないため、地域のルールに沿って廃棄しなければなりません。

バッテリー本体またはバッテリーを構成する部品が危険物に指定されている場合は、地域の法令等に沿った回収・保管・運搬方法を遵守してください。

 注意

高電圧バッテリーの修理、脱着、交換は、ASF 株式会社が承認した整備工場でのみ作業を行ってください。高電圧バッテリーの修理や脱着には専門知識と技術が必要です。ASF 株式会社が承認した整備工場でのみ作業が認められています。

充電

充電の注意事項



警告

- 植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を使用している方は、考えられる影響について医療機器メーカーや医師に相談の上、充電作業を行ってください。充電中の車内に入らないでください。
- 充電中の車両には、裸火、高温になる機器類、可燃性または爆発性物質、腐食性物質を近づけないでください。車両の近くで喫煙をしないでください。
- 万一の火災や感電から身を守るために、充電中の車内に留まることを控えてください。



高圧危険

- 破損部位があるなどメンテナンスの行き届いていない充電設備を使用しないでください。自宅等に設置した充電設備が故障、破損、腐食した場合は設備を施工した事業者に連絡してください。
- 充電作業を行う前に、充電ポートや充電プラグに異物、変形、腐食がないか点検してください。異常がある場合は充電を行わずに販売店に連絡してください。
- 充電ケーブルの絶縁被覆に傷や破れている箇所がある場合は使用しないでください。
- 充電ポートや充電に関する部品の分解や改造を行わないでください。正常に充電できなくなったり、車両火災の原因になります。



高圧危険

- ASF 株式会社が承認していないケーブルやアダプター類を使用しないでください。
- 濡れた手で充電プラグを抜き差ししないでください。
- 充電プラグを抜き差しするときなど、充電作業者の近くにお子さまを近づけないでください。
- 充電プラグと充電ポートに強い力を加えないでください。



注意

- 高温環境下に長時間駐車した直後や、気温が高い場所を高負荷で連續走行した直後など、バッテリーの温度が高いときは充電を控えることをお勧めします。バッテリー温度が高いと充電効率が下がり、満充電までの所要時間が長くなる傾向があります。また、バッテリーや周辺機器が過熱した場合、オーバーヒートにより損傷する原因になります。
- 暴風雨などの悪天候のときは充電作業を控えてください。充電ポートや充電設備が損傷する原因になります。降雨時に屋外で充電するときは、充電ポートに浸水しないように保護してください。
- 充電ケーブルを強く引っ張ったり足で踏むなど、雑に扱わないでください。

この車に搭載している動力用の高電圧バッテリーは、日常の使用において繰り返し充電することができます。

充電方法は「普通充電」と「急速充電」があります。

「普通充電」は、自宅などに設置した家庭用電源コンセント（100～200Vの交流電源）から給電する方法です。安全回路の設置など、充電設備の詳細については販売店にお尋ねください。

「急速充電」は、公共の充電ステーションなどを利用した充電方法です。急速充電にはさまざまな規格があり、車両の規格に合致している充電設備を使用しないと充電できなかったり、車両が損傷する原因になります。詳しくは販売店にお尋ねください。



高圧危険

- 充電ステーションの給電規格が、車両の急速充電の規格に合致していることを確認してから充電を行ってください。
- 充電ステーションの係員の指示に従ってください。

充電に問題が生じたときの診断と対処

不具合状況	考えられる原因	措置
	バッテリー温度異常	バッテリーが異常に高温または低温のときは、システムを保護するために充電を遮断します。適正温度になるまで待ってから充電してください。
	12Vバッテリーが過放電（バッテリーあがり）	12Vバッテリーがあがると、車両の充電制御システムが起動しないため動力用の高電圧バッテリーを充電できません。 12Vバッテリーを充電または交換してください。
充電ケーブルを接続しているが、充電できない	充電ケーブルの接続不良	メーターパネルの充電接続表示灯 が点灯しているか確認してください。 点灯していない場合は、充電ケーブルが正しく接続されているか再確認してください。
	充電設備に電力が供給されていない	<ul style="list-style-type: none"> 充電設備の電源が入っていることを確認してください。 充電設備の安全回路が作動して電力供給が遮断されていないか確認してください。
	充電設備のアースが接地していない	充電設備のアース回路が正しく接地しているか確認してください。
車両または充電設備の故障		<ul style="list-style-type: none"> メーターパネルの警告灯が点灯していないか確認してください。点灯している場合は充電を中止して、販売店に連絡してください。 充電設備に異常表示がある場合は、設備を施工した事業者に連絡してください。

不具合状況	考えられる原因	措置
充電が中断される	バッテリー過熱	充電中はバッテリーの温度が上がりります。充電中に異常な高温が検出されると、バッテリー保護のために充電が中断され、メーターパネルに警告が表示されます。温度が正常な範囲まで下がると、充電が再開されます。
	充電ケーブルの接続不良	充電ケーブルがしっかりと接続されていなかった場合や、何らかの理由で接続が外れたときは充電が中止されます。充電ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
	充電設備の電源がオフになった	安全回路の作動や停電などにより充電が中断されていないか確認してください。
	充電設備の故障	<ul style="list-style-type: none"> ● 充電設備を再起動してください。 ● 充電ケーブルをいったん切り離して再接続してください。 設備が故障したときは、設備を施工した事業者に連絡してください。
	車両の故障	販売店に連絡してください。

充電作業

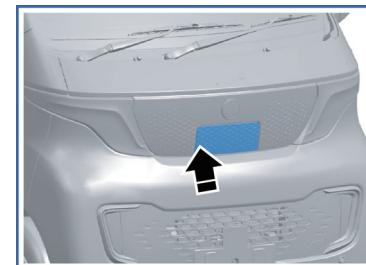
充電プラグ



1. 充電プラグ
2. 充電ケーブル

普通充電用の充電ケーブル（図を参照）をオプションで購入できます。ケーブルには、車両に接続するための充電プラグ、家庭用電源コンセントに接続するためのプラグ、充電制御装置が一体化しています。

充電ポート



充電ポートはボンネットの下方に配置されています。充電ポートカバーの左側を軽く押すとカバーが開きます。

充電ポートカバーを開くと、2種類の充電ポートがあります。

- 普通充電ポート (32A 240V AC)
- 急速充電ポート (125A 750V DC)

普通充電

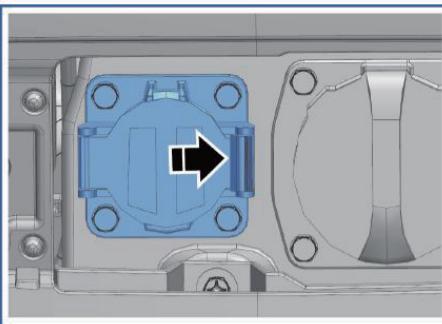
普通充電ポートを使い、家庭用電源コンセント（100V～200Vの交流電源）から給電することができます。



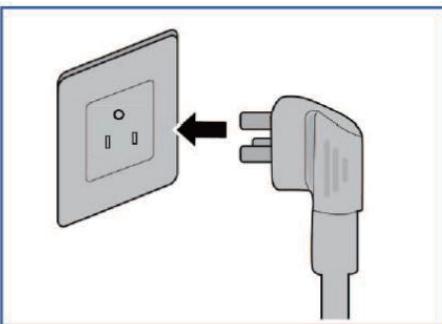
注意

- 充電中は、車が不意に動き出さないようにパーキングブレーキを確実に作動させてください。
- 充電中に車から離れるときは、必ず車両を施錠してください。

充電の手順



- 金具を矢印方向に外して、普通充電ポートの保護カバーを開けます。



- 充電ケーブルを家庭用電源コンセントに差し込みます。ケーブルの電源表示灯が点灯します。



- 充電中は、メーターパネルに充電状況が表示されます。

車両電源がオンのときの表示例



車両電源がオフのときの表示例



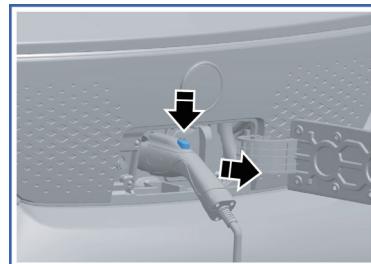
- 充電プラグのボタンを押して、車両の普通充電ポートに接続します。接続すると、ケーブルの電源表示灯が点滅に切り替わります。また、メーターパネルの充電接続表示灯 が点灯します。

メーターパネルの充電表示灯 が点灯します。

メーターパネルの充電表示灯 が点灯します。

充電の停止

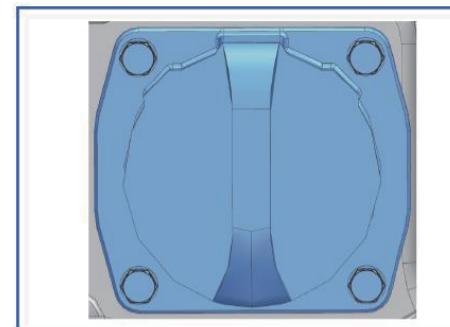
- 車両を解錠します。



- 家庭用電源コンセントから充電ケーブルを抜きます。
- 充電ポートの保護カバーを閉めます。
- 充電ポートカバーを閉めます。
- 充電ケーブルを車内の所定の場所に保管します。

- 充電プラグのボタンを押して、充電ポートからケーブルを抜きます。

急速充電



- 急速充電ポートの保護カバーを開けます。

- 急速充電ポートに、充電ステーションに設置してある充電ケーブルを接続します。
- 充電ステーションの操作指示に従って充電を開始します。メーターパネルの充電接続表示灯  が点灯します。
- 充電中は、メーターパネルに充電状況が表示されます。

車両電源がオンのときの表示例



メーターパネルの充電表示灯  が点灯します。

車両電源がオフのときの表示例



メーターパネルの充電表示灯  が点灯します。

5. 車から離れるときは施錠します。
6. 充電が完了したら、車両を解錠して充電ケーブルを抜きます。
7. 充電ポートの保護カバーを閉めます。
8. 充電ポートカバーを閉めます。

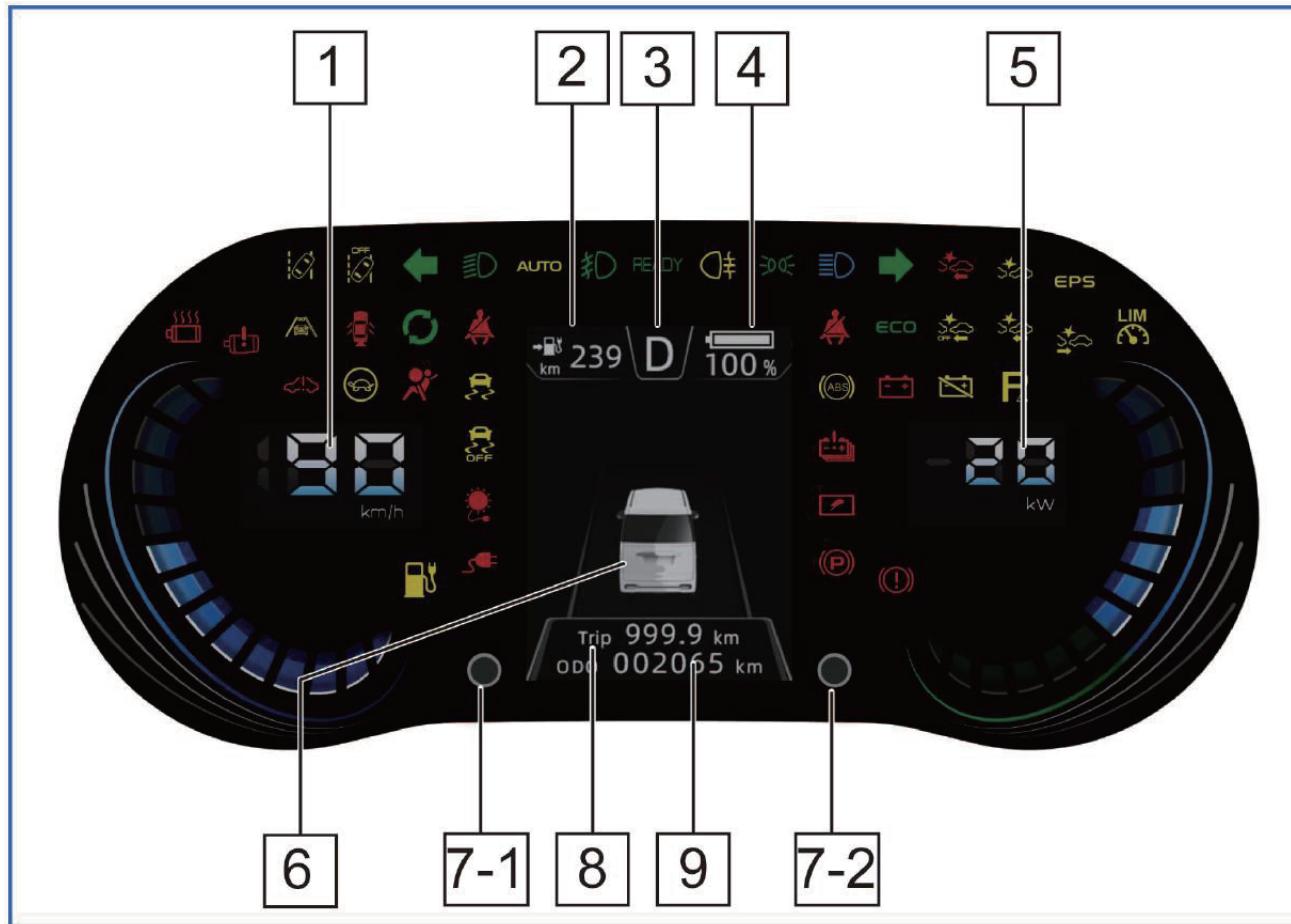


高压危険

- 充電ステーションの給電規格が、車両の急速充電の規格に合致していることを確認してから充電を行ってください。
- 充電ステーションの係員の指示に従ってください。

メーターパネル

メーターパネルの外観



1. スピードメーター
2. 航続可能距離
3. シフトポジション (P、N、R、D、E)
4. バッテリーの残量
5. ドライブシステムの現在の消費電力
6. 車両情報 (車両の状態や故障表示など)
- 7-1. 「確認」キー
- 7-2. 「戻る」キー
8. トリップメーター (区間距離計)
9. オドメーター (積算距離計)

メーターパネルの機能説明

1. スピードメーター

現在の走行速度を表示します。単位は km/h (キロメートル / 時) です。

2. 航続可能距離

動力バッテリーに蓄えられている電力で走行できる予想距離です。

知識

航続可能距離の表示値は、直近の運転条件による電力消費量（電費）をもとにコンピューターが計算した数値です。走行条件や運転の仕方、エアコンなど電装品の使用状況によって変わりますので、残距離の数値が小さくなってきたら早めに充電してください。

3. シフトポジション (P、N、R、D、E)

現在選択しているシフト位置です。

4. バッテリーの残量

動力バッテリーの残電力をバーグラフとパーセンテージで示します。20% 未満になると、充電を促すメッセージが約 5 秒間表示され、モーター出力が制限されます。10% 未満になると、車を動かすことはできますが、モーター出力が大幅に制限されます。すみやかに充電してください。

5. ドライブシステムの現在の消費電力

車両が消費している電力の現在の瞬間値です。例えばアクセルペダルを踏んで加速するときはプラス表示になり、電力を消費していることを示します。一方、惰性走行中や減速中の一定条件下でマイナス表示になります。このとき回生機能（運動エネルギーを電気エネルギーに変換する機能）が作動してバッテリーに電力を蓄えます。回生機能が作動すると、メーターパネルの回生機能の作動表示灯が点灯します。

6. 車両情報（車両の状態や故障表示など）

半ドア状態、充電状態、故障の有無など、車両のさまざまな情報が表示されます。

7. 操作キー

7-1.「確認」キー

停車中（速度が 0km/h のとき）に短く押すと設定画面が表示されます。長押しするとトリップメーター（区間距離計）の数値がリセットされます。

7-2.「戻る」キー

短く押すと設定画面が次の項目に切り替わります。長押しすると設定画面が終了します。

知識

例えばメーターパネルの明るさは次のように調整します。

1. 「確認」キーを 1 回押します。
2. 明るさ調整の項目になるまで「戻る」キーを押します。
3. 明るさ調整の項目になったら「確認」キーを押します。項目が確定されます。
4. 「戻る」キーを押してお好みの明るさに調整します。

8. トリップメーター（区間距離計）

リセット後の走行距離が表示されます。「確認」キーを長押しすると数値がリセットされます。

9. オドメーター（積算距離計）

この車の総走行距離が積算されます。オドメーターの数値はリセットできません。

メーターパネルの表示灯と警告灯

表示灯 / 警告灯の一覧

表示灯 / 警告灯	機能	表示灯 / 警告灯	機能
	ターンシグナル、左が作動		先行車発進通知機能の作動中に点滅
	ターンシグナル、右が作動		前方衝突被害軽減ブレーキ機能の作動中に点滅
	車幅灯が点灯		EPS 故障時に点滅または点灯
	ヘッドライト、ロービームが点灯		ブレーキ液不足またはブレーキシステム故障
	ヘッドライト、ハイビームが点灯		P ギア故障
	フロントフォグランプが点灯		パーキングブレーキ作動
	リアフォグランプが点灯		エアバッグシステム故障
	停車状態から発進可能		運転席シートベルト着用警告
	回生機能が作動		ABS/ ブレーキシステム故障
	エコモードがオン		ESC 作動中に点滅、ESC 故障時は常時点灯
	オートライト機能がオン		ESC 機能がオフ
	AEBS 機能の作動中に点滅		衝突被害軽減ブレーキ機能がオフ
	車線逸脱警報がオフ		AEBS 機能が故障
	車線逸脱警報の作動中に点滅、故障時は常時点灯		後方衝突被害軽減ブレーキ機能の作動中に点滅

表示灯 / 警告灯	機能	表示灯 / 警告灯	機能
	モーターシステム故障		低電圧システム故障
	絶縁システム故障		動力バッテリー故障
	モーター出力制限		充電ケーブル接続時に点灯
	動力バッテリー遮断		モーターシステム過熱
	助手席シートベルト着用警告		ソーラー充電故障
	ドアオープン警告 (半ドア警告)		スピードリミッター
	ドライブシステム故障		充電中に点灯

表示灯 / 警告灯の説明

◀ 表示灯：ターンシグナル、左が作動

左側のターンシグナル（ウインカー）に連動して点滅します。ハザードランプ作動時も点滅します。

▶ 表示灯：ターンシグナル、右が作動

右側のターンシグナル（ウインカー）に連動して点滅します。ハザードランプ作動時も点滅します。

⌚ 表示灯：車幅灯が点灯

車幅灯点灯時に点灯します。

✉ 表示灯：ヘッドライト、ロービームが点灯

ヘッドライトロービーム点灯時に点灯します。

✉ 表示灯：ヘッドライト、ハイビームが点灯

ヘッドライトハイビーム点灯時に点灯します。

☝ 表示灯：フロントフォグランプが点灯

フロントフォグランプ点灯時に点灯します。

🕒 表示灯：リアフォグランプが点灯

リアフォグランプ点灯時に点灯します。

READY 表示灯：停車状態から発進可能 (READY)

車両電源がオンで発進可能な状態のときに点灯します。

⌚ 表示灯：回生機能が作動

走行中にブレーキペダルを踏んで減速しているときなど、回生機能（運動エネルギーを電気エネルギーに変換する機能）の作動中に点灯します。

ECO 表示灯：エコモードがオン

エコノミーモードがオンのときに点灯します。

AUTO 表示灯：オートライト機能がオン

ライトスイッチレバーを AUTO 位置にすると点灯します。

⚠ 警告灯：ESC 作動中に点滅、ESC 故障時は常時点灯

走行中、ESC（電子式横滑り防止装置）が作動すると警告灯が点滅します。警告灯が常時点灯しているときは、ESC が正常に機能しない可能性があります。



警告

ESC 警告灯が常時点灯している場合は販売店で点検を受けてください。走行安定性が低下して、危険回避などの運転操作が困難になるおそれがあります。

⚠ 表示灯：ESC 機能がオフ

メーターパネルの右側に配置されたマルチファンクションスイッチに取り付けられている ESC オフスイッチを押すと、ESC 機能がオフになって表示灯が点灯します。スイッチを再度押すと、ESC 機能がオンになって表示灯が消灯します。



警告

通常は ESC をオフにしないでください。ぬかるみから脱出できない場合など、緊急時のみ ESC をオフにしてください。

⚠ 表示灯：衝突被害軽減ブレーキ機能がオフ

メーターパネルの右側に配置されたマルチファンクションスイッチに取り付けられている衝突被害軽減ブレーキオフスイッチを 2 回押すと、衝突被害軽減ブレーキ機能がオフになって表示灯が点灯します。スイッチを再度押すと、衝突被害軽減ブレーキ機能がオンになって表示灯が消灯します。

⚠ 警告灯：AEBS 機能が故障

前方衝突被害軽減ブレーキ (AEBS) の機能に異常が検出されると点灯します。



警告

AEBS 故障警告灯が点灯している場合は販売店で点検を受けてください。

表示灯：AEBS 機能の作動中に点滅

前方衝突被害軽減ブレーキ (AEBS) が衝突の危険を検出すると表示灯が点滅します。このとき警告音とともにドライバーに危険を知らせ、ブレーキによる減速を促します。

表示灯：後方衝突被害軽減ブレーキ機能の作動中に点滅

後方衝突被害軽減ブレーキが衝突の危険を検出すると表示灯が点滅します。このとき警告音とともにドライバーに危険を知らせて安全運転を促します。

表示灯：前方衝突被害軽減ブレーキ機能の作動中に点滅

前方衝突被害軽減ブレーキ (AEBS) の作動表示灯が点滅してもドライバーが反応せず、衝突の危険が切迫すると衝突被害軽減ブレーキがかかります。このとき衝突被害軽減ブレーキ作動表示灯が点滅し、警告音とともにドライバーに危険を知らせます。



警告

衝突被害軽減ブレーキ制御は、減速により衝突時の被害を軽減するためのシステムです。条件が整えば衝突を回避することもできますが、ドライバーの安全運転責任に代わるものではありません。また、危険の検知には限界があり、すべての状況で検知することはできません。



警告灯：車線逸脱警報の作動中に点滅、故障時は常時点灯

車線逸脱警報が走行区分線（車線）から逸脱しそうな状況を検出すると警告灯が点滅します。このとき警告音とともにドライバーに危険を知らせて安全運転を促します。車線逸脱警報の機能に異常が検出されると常時点灯します。



警告

車線逸脱警報の警告灯が点灯している場合は販売店で点検を受けてください。

表示灯：車線逸脱警報がオフ

メーターパネルの右側に配置されたマルチファンクションスイッチに取り付けられている車線逸脱警報オフスイッチを押すと、車線逸脱警報の機能がオフになって表示灯が点灯します。スイッチを再度押すと、機能がオンになって表示灯が消灯します。

表示灯：先行車発進通知機能の作動中に点滅

信号待ちなどで停車中、先行車が発進したことを検知すると表示灯が点滅します。このとき警告音とともにドライバーに知らせます。

警告灯：ブレーキ液不足またはブレーキシステム故障

車両電源がオンのときや走行中に警告灯が消灯しない場合は、ブレーキ液が不足しているか、ブレーキシステムに異常があります。すみやかに安全な場所に停車して販売店に連絡してください。



警告

ブレーキ警告灯が点灯したときは、直ちに販売店で点検を受けてください。

警告灯 : P ギア故障

P ギア故障警告灯が点灯したときは、P ギアが正常に作動しない可能性があります。すみやかに販売店で点検を受けてください。

表示灯 : パーキングブレーキ作動

車両電源がオンのときにパーキングブレーキを作動させると点灯します。

警告灯 : エアバッグシステム故障

エアバッグシステムの機能に異常が検出されると点灯します。警告音が鳴り、メーターパネルにメッセージが表示されます。すみやかに販売店で点検を受けてください。

警告灯 : ドライブシステム故障

ドライブシステムの機能に異常が検出されると点灯します。安全な場所に停車して販売店に連絡してください。

警告灯 : 運転席シートベルト着用警告

警告灯 : 助手席シートベルト着用警告

運転席と助手席の乗員がシートベルトを着用していない場合に点灯します。

- 車両電源がオンで速度が約 10km/h 以下のとき、シートベルトを着用するまで警告灯が点灯します。
- 速度が約 10km/h を超えると、警告灯がしばらく点滅した後、点灯状態になります。

警告灯 : ドアオープン警告 (半ドア警告)

車両電源がオンで P ギア以外のとき、いずれかのドアが完全に閉まっていないと警告灯が点灯するとともに警告音が鳴ります。

警告灯 : 低電圧システム故障

システムが正常であれば、車両電源をオンにすると警告灯が点灯して数秒後に消灯します。警告灯が消灯しない場合は低電圧 (12V) システムの異常が検出されています。すみやかに販売店で点検を受けてください。

警告灯 : 動力バッテリー故障

車両電源がオンのときに警告灯が常時点灯している場合、動力用の高電圧バッテリーの異常が検出されています。すみやかに安全な場所に停車して販売店に連絡してください。

表示灯 : 充電ケーブル接続時に点灯

充電ケーブルが正しく接続されると点灯します。

警告灯 : モーターシステム故障

モーターシステムの機能に異常が検出されると点灯します。すみやかに安全な場所に停車して販売店に連絡してください。

警告灯 : モーターシステム過熱

システムが正常であれば、車両電源をオンにすると警告灯が点灯して数秒後に消灯します。モーターの温度が異常に高いとき（オーバーヒート時）に点灯します。すみやかに安全な場所に停車してください。モーターの温度が正常な範囲まで下がると消灯します。警告灯が頻繁に点灯する場合は販売店で点検を受けてください。

警告灯 : 絶縁システム故障

車両電源がオンのときに警告灯が常時点灯する場合は、絶縁システムに異常がある可能性があります。すみやかに販売店で点検を受けてください。

警告灯 : ソーラー充電故障

車両電源がオンのときに警告灯が常時点灯する場合は、ソーラー充電システムに異常がある可能性があります。販売店で点検を受けてください。

 警告灯：動力バッテリー遮断

車両の機能に特定の異常が生じた場合、安全のために動力バッテリーの電源が遮断されて警告灯が常時点灯します。すみやかに販売店で点検を受けてください。

 警告灯：モーター出力制限

モーターシステムの保護機能によって出力が制限されると警告灯が点灯します。すみやかに安全な場所に停車してください。警告灯が消灯しない場合は販売店で点検を受けてください。

 警告灯：ABS/ブレーキシステム故障

システムが正常であれば、車両電源をオンにすると警告灯が点灯して数秒後に消灯します。機能に異常が検出されると警告灯が点灯します。メーターパネルに表示されるメッセージによって、ABS またはブレーキシステムのどちらに異常が検出されているのかがわかります。警告灯が点灯したときは、すみやかに販売店で点検を受けてください。

 表示灯：充電中に点灯

充電中に点灯します。

 警告灯：スピードリミッター

速度が約 105km/h を超えたときに点灯してドライバーに注意を促します。

 警告灯：EPS 故障時に点滅または点灯

ステアリング角度センサーの設定に異常があると点滅します。電動パワー・ステアリング (EPS) の機能に異常が検出されると点灯します。すみやかに販売店で点検を受けてください。

運転の前に

走行前の安全点検

車に乗り込む前に、次の機能を点検してください。

- 車両外観に異変がないか
- 灯火類（車幅灯、ヘッドライト、ブレーキランプ、ターンシグナル、後退灯など）が正常に機能するか
- タイヤ空気圧が規定値になっているか、タイヤに摩耗や亀裂などの損傷がないか、釘などの異物が刺さっていないか
- ホイールナットが緩んでいないか
- 車体の下に液漏れの痕跡がないか
- バッテリーケースに亀裂などの損傷がないか、バッテリーに接続されているコネクターに緩みがないか
- ブレーキ液、冷却液、ウィンドウウォッシャー液が適量か
- すべてのウィンドウに過度の汚れがなく、良好な運転視界が確保されているか

運転席に座って、次の機能を点検および調整してください。

- シートポジションが適切に調節されているか、ペダルをしっかりと踏み込めるか
- ステアリングホイールとペダルの可動範囲に、運転の邪魔になる物（例えばペットボトルや空き缶）がないか
- ルームミラーとサイドミラー（ドアミラー）の向きは適切か
- ライトスイッチレバー、ワイパーレバー、空調システムのデフロスター / デフォッガー機能など、運転に必要な装備が正常に機能するか
- メーターパネルの表示灯 / 警告灯が正常に機能しているか
- 走行に必要なバッテリー電力量が充電されているか

走行開始後の確認

運転を開始した後は、次の機能や状態に気を配ってください。

- メーターパネルの表示灯 / 警告灯に異常がないか（故障を知らせる警告灯が点灯していないか）
- いつもと違う異音や臭いが生じていないか

安全運転の心得

- 車間距離を十分に保ち、速度は控えめにしてください。「急」の付く運転を避けてください。
- 夕暮れ時は早めにヘッドライトを点灯してください。強雨や濃霧など、特に視界が悪い天候のときはフォグランプを使用してください。



注意

フォグランプを使用するときは、対向車や後続車の迷惑にならないように配慮してください。

- 運転中は電話の使用を控えてください。ハンズフリー機能を使用しても運転の集中力の低下は避けられません。
- 走行中は、ナビゲーションシステムなどマルチメディアシステムの画面を注視しないでください。
- 道路交通法を遵守するとともに、他の道路利用者に対するマナーを守ってください。



警告

疲労時は、視力、注意力、判断力が大きく低下します。事故を未然に防ぐため、疲労時や体調がすぐれないときは運転を控えてください。

乗車時の留意事項

運転者も同乗者も次の事項を守ってください。

1. 乗車する前に、車両とその周辺に違和感がないか、子どもや動物がいるか確認してください。
2. 走行を開始する前にシートベルトを着用してください。
3. 走行中は頭や腕を車外に出さないでください。

駐車時の留意事項

短時間の駐車でも次の事項を守ってください。

1. 路上駐車の際は、道路交通法を遵守するとともに、他の道路利用者の安全を確保してください。
2. バッテリーの電力を無駄に消費しないため、車両電源をオフにする前に、車内装備品の作動を停止してください。
3. すべてのウィンドウとドアを閉めます。貴重品や車両キーを車内に残さないでください。身の回り品を車内に残すときは、できるだけ車外から見えない場所に隠してください。
4. 車両を施錠して盗難防止システムを作動させます。

エコドライブ

エコドライブを心がけることは、航続可能距離だけではなく、車両の寿命を延ばすことにつながります。

車両の暖機

走行開始直後の数分間は、モーターやバッテリーが適正温度になっていません。通常以上に穏やかな走行を心がけて暖機してください。

「急」の付く運転をしない

急加速、急減速、急なステアリング操作を避けます。そのために車間距離を十分に確保して、赤信号では早めに減速を開始するなど先読みできる余裕を持ってください。

走行抵抗の低減

- タイヤ空気圧を定期的に点検してください（少なくとも1か月に1回）。
- 不要な荷物を積んだまま走行しないでください。車両重量の増加は車体の経年劣化を早める原因になります。
- エアコン（コンプレッサー）は大きな電力を消費します。必要時以外はオフにしましょう。
- ウィンドウを開けると風の巻き込みによって走行抵抗が増えます。特に高速道路では、安全確保のためにもウィンドウを閉めることをお勧めします。

悪条件下の運転に対するアドバイス

濃霧のとき

霧で見通しが悪く、路面が滑りやすいため、いつも以上に車間距離を確保する必要があります。濃霧で十分な運転視界を確保できないときは、他の道路利用者から自車を発見しやすいようにフォグランプを使用してください。速度を落として、前方の障害物に対処する時間を確保してください。

雨天のとき

降雨時は視界が遮られ、路面が滑りやすく、水はね音で周囲の危険を察知にくくなります。速度を落として車間距離を十分に確保してください。雨量に合わせてワイパーを適切な速さで作動させ、ヘッドライトやフォグランプで自車の存在を目立たせてください。急ブレーキや急ハンドルは走行姿勢を乱すことにつながるため、早めの操作ができるよう危険予知運転を心がけてください。タイヤがすり減っていたり速度が高いと、タイヤと路面の間に水膜ができるハイドロブレーニング現象が起きて、姿勢制御が困難になる可能性が高まります。

水たまりを通過するとき

深い水たまりを通過する際は、できるだけ波立てないように最徐行してください。水たまりの途中で停車させることなく通過してください。水面がホイールの中心高さまで到達する場所や、車体の底面が水につかる場所に進入しないでください。水たまりを通過した後は、後続車に注意しつつブレーキペダルを数回踏んで、ブレーキが効くことを確認してください。

夏季の備え

- タイヤのパンク

タイヤ空気圧は、気温や路面温度の変化に合わせて増減します。暑い日は空気圧が高くなり、パンクの確率が高まります。万一、走行中にパンクした場合は、ステアリングをしっかりと握ってブレーキペダルを慎重に踏み、徐々に減速させてください。急ブレーキと急ハンドルを行わないでください。

- 動力用モーターのオーバーヒート

暑い日はモーターが過熱しやすくなります。特に渋滞などで走行風が当たらないと、オーバーヒートの可能性が高まります。負荷が大きくなるような運転操作を避けてください。

- 熱中症の防止

ウィンドウを開けて換気する、エアコンを使用するなど、車内温度を適切に維持してください。短時間でも駐車中の車内に人や動物を残さないでください。



警告

直射日光の下に駐車すると、冬季でも車内は過酷な温度まで上昇します。熱中症や脱水症状を避けるため、特に小さなお子さまや身体の不自由な方を車内に残さないでください。

冬季の備え

寒い季節に備えて次の事項を守ってください。

- 車両を使用する地域の最低温度に合わせて、冷却液の凍結温度を確認してください。詳しくは販売店にお尋ねください。
- バッテリーあがりの可能性が高まるため、バッテリーが弱っていないか点検してください。
- ドアやウィンドウの凍結に備えて、解氷剤などを用意してください。
- ウィンタータイヤやスノーチェーンの状態を点検し、正常に使用できないと思われる場合は交換してください。

積雪路、凍結路での走行

- 路面が極めて滑りやすいため、急ブレーキと急ハンドルを避けてください。制動中はブレーキペダルを慎重に踏み、タイヤが滑っていないことを確かめるように踏み加減を調整してください。そのために車間距離を十分に確保してください。
- 車内外の温度差が大きいとウィンドウが曇りやすくなります。ウィンドウを開けての換気や空調システムの使用で曇りを防いでください。ウィンドウの汚れも曇りの原因になります。特に車内側のガラス表面を清掃してください。
- ワイパーやウォッシャーを使用する前に、凍結していないことを確認してください。凍結したまま使用するとモーターが破損する原因になります。
- チェーン規制等の通行制限を遵守し、降雪や凍結のおそれがあるときは必ずウィンタータイヤを装着してスノーチェーンを携行してください。急な降雪で渋滞したときの立ち往生に備えて、非常用携行品を準備しておくことをお勧めします。

慣らし運転

新車を慣らし運転することで、可動部品が馴染んで異常摩耗を回避でき、車両寿命を延ばすことにつながります。日常の消費電力を減らすことにもつながります。

新車購入時は、総走行距離が 5,000km に達するまで次の要領で慣らし運転することをお勧めします。

- 総走行距離が 150km になるまでは、特に急ブレーキを避けてください。
- 「急」の付く運転を避けます。急加速と急減速はモーターとブレーキシステムの寿命を縮めることにつながります。
- 急な坂道の走行ができるだけ避けて、車への負担を小さくしてください。ぬかるみや不整路の走行も避けてください。
- 一定の速度で長時間走行しないでください。安全な範囲で速度を増減させてください。

タイヤの慣らし運転

タイヤ交換後は、500km を走行するまで慣らし運転を行ってください。

ブレーキの慣らし運転

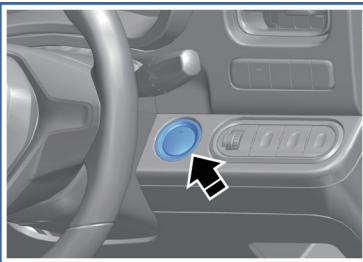
ブレーキ部品の交換後は、400km を走行するまで慣らし運転を行ってください。

注意

- 慣らし運転の方法について詳しくは販売店にお尋ねください。
- 慣らし運転の期間中は、いつも以上に慎重な運転を心がけて速度を控えめにしてください。
- 慣らし運転の期間中は長距離走行を控えてください。モーターの高負荷連続運転は異常摩耗の原因になります。
- ブレーキ部品の交換後は、各部品が馴染むまで制動力を十分に発揮できません。また、部品が馴染むまで制動時に音が出ることもあります。

運転操作と運転支援機能

車両電源オンと発進



メーターパネルの右下（ライトコントロールスイッチの左横）にスタートスイッチが配置されています。車内でリモコンキーが検知されると、スタートスイッチを使うことができます。スタートスイッチを押すと、車両電源のオンとオフが交互に切り替わります。

オフのときにブレーキペダルを踏んでスタートスイッチを押すと、READY（走行可能な状態）になります。または、ブレーキペダルを踏まずにスタートスイッチを押してオンにした後、ブレーキペダルを踏むとREADYになります。



警告

運転中はスタートスイッチを押さないでください。車両電源がオフになると、走行に影響を与える各種システムが作動しないため危険です。

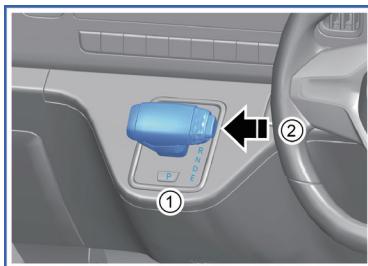
発進（前進）の操作

1. リモコンキーを携帯して乗車します。
2. シートベルトを着用します。
3. ブレーキペダルを踏んでスタートスイッチを押します。スタートスイッチのインジケーターが緑色になり、メーターパネルにREADYが表示されます。
4. ブレーキペダルを踏み、ギアセレクターレバーを操作して「D」または「E」ギア位置にします。
5. パーキングブレーキを解除し、ゆっくりとアクセルペダルを踏んで発進します。

車両電源がオンにならないとき

スタートスイッチを押したときに警報音が鳴り、メーターパネルに「有効なカギが見つかりません」のメッセージが表示されます。このメッセージは、車内にリモコンキーがないか、またはリモコンキーの電池が消耗していることを示しています。

ギアセレクターレバーの操作



1. P ギアスイッチ
2. レバーのロック解除ボタン

⚠ 注意

- ギアセレクターレバーは、ドアを閉めてシートベルトを着用した後に操作できます。
- ギアセレクターレバーを操作したときは、メーターパネルのシフトポジション表示を確認してください。

P (パーキング)

駐車時の位置です。車両電源がオンのときに、パーキングブレーキペダルを踏んで駐車した後、P ギアスイッチを押します。メーターパネルに「P」が表示されます。

ℹ 知識

車両電源がオフになると、自動的に P ギアに切り替わります。

⚠ 注意

駐車時は必ずパーキングブレーキをかけてください。また、信号待ちなどで P ギアにしてブレーキペダルから足を離した状態を維持しないでください。

P ギアだけで車両の静止状態を保持すると、ドライブシステムが破損するおそれがあります。

R (リバース)

後退時の位置です。

READY のときに、ブレーキペダルを踏んでギアセレクターレバーのロック解除ボタンを押してから、レバーを R ギア位置にします。

⚠ 注意

完全に停車した状態で R ギアに切り替えてください。

N (ニュートラル)

ドライブシステムの動力がタイヤに伝わらない位置です。

⚠ 注意

走行中は N ギアを選択しないでください。

D (ドライブ)

前進時の位置です。

READY のときに、ブレーキペダルを踏んでギアセレクターレバーのロック解除ボタンを押してから、レバーを D ギア位置にします。

E (エコモード)

ギアセレクターレバーを D ギア位置からさらに手前に動かすと、E ギアに切り替わります。メーターパネルの ECO が点灯します。

ℹ 知識

エコモードはバッテリーの電力を節約するような制御が行われます。

クリープ機能

READY でシフトポジションが「D/E/R」位置のいずれかにあり、ブレーキペダルから足を離すと低速で車が動きます。

ブレーキペダルを踏むと、クリープ機能が解除されます。

リンプモード

ドライブシステムの電子制御ユニットが故障した場合、リンプモードが実行されます。

車を動かすことはできますが、モーター出力が大幅に制限されます。モーター出力制限の警告灯  が点灯します。すみやかに販売店で点検を受けてください。

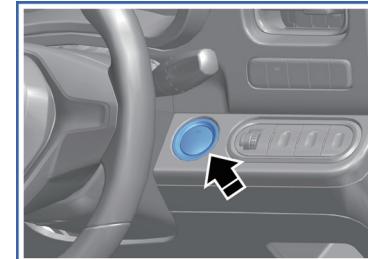


注意

電子制御ユニットの故障状況によっては、車を動かすことができません。

車両電源オフ

駐車後は次の手順で車両電源をオフにします。



1. 車両を完全に静止させます。
2. ブレーキペダルを踏み、P ギアスイッチを押します。
3. パーキングブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキを確実に作動させます。
4. ブレーキペダルから足を離してスタートスイッチを押すと、車両電源がオフになります。

強制シャットオフ

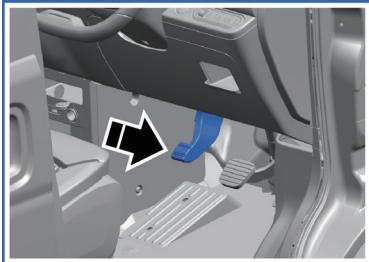
通常の操作で車両電源がオフにならない場合、スタートスイッチを 2 秒以内に 3 回連続で押します。これで車両電源が強制的にオフになります。



警告

- 走行中は車両電源をオフにしないでください。車両電源がオフになると、ブレーキとステアリングのパワーアシストが失われます。
- 走行中に強制シャットオフを行うと、ブレーキペダルとステアリングホイールの操作に大きな力が必要です。緊急の場面では、可能な限り減速してから強制シャットオフを行ってください。

パーキングブレーキ



この車は、足踏み式のパーキングブレーキを装備しています。左足の位置にパーキングブレーキペダルがあります。ペダルを踏むとパーキングブレーキがかかり、メーターパネルの表示灯 (P) が点灯します。

再度ペダルを踏み込むと、パーキングブレーキが解除されてメーターパネルの表示灯が消灯します。

⚠ 警告

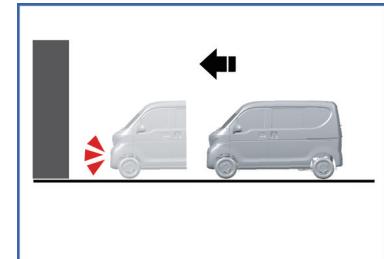
- メーターパネルの表示灯が点灯したことを確認してから、ブレーキペダルを踏む力を緩めてください。
- パーキングブレーキを解除しても表示灯が消灯しない場合は、安全な場所に停車して販売店に連絡してください。

⚠ 注意

- パーキングブレーキは停車中に操作してください。
- 駐車時は必ずパーキングブレーキをかけてください。
- ブレーキペダルを踏んだ状態で、パーキングブレーキを操作してください。坂道などで停車中にパーキングブレーキを解除すると、車が動き出して危険です。

駐車アシスト

障害物警報機能（前方）

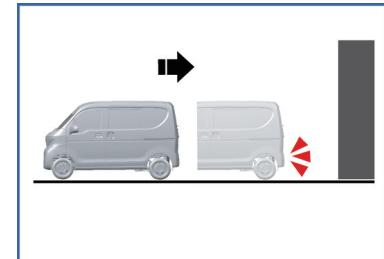
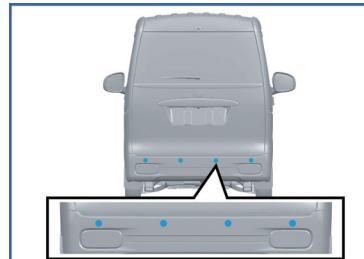


シフトポジションが「D/E」位置のとき、速度が約 10km/h 未満になるとフロントバンパーの 2 個の超音波センサーが自動的にオンになります。障害物を検知すると警告音が鳴ります。

障害物との距離が近づくにつれて、警告音の鳴り方が変化します。

警告の段階	障害物との距離	警告音
レベル 0	約 150cm 超	警告音なし
レベル 1	約 100cm 超、約 150cm 以下	短く鳴る
レベル 2	約 40cm 超、約 100cm 以下	早く鳴る
レベル 3	約 40cm 以下	長く鳴る

障害物警報機能（後方）



シフトポジションが「R」位置のとき、速度が約 10km/h 未満になるとリアバンパーの 4 個の超音波センサーが自動的にオンになります。障害物を検知すると警告音が鳴ります。

障害物との距離が近づくにつれて、警告音の鳴り方が変化します。

⚠ 注意

- 超音波センサーに汚れや水滴が付着すると、障害物を正しく検知できなくなります。
- 超音波センサーは、車両側方の障害物を検知しません。直進しない場合は注意してください。
- このシステムは運転を支援するものであり、安全確認と運転の責任はドライバーが負います。

駐車アシストのメーター表示

フロント / リア超音波センサーがオンになると、メーターパネルに警告が表示されます。



障害物の検知範囲は、図のように 6 つの領域に分かれています。各超音波センサー（フロント 2 個、リア 4 個）に対応するインジケーターがあり、この表示によって障害物の位置と距離を知ることができます。

ℹ 知識

駐車アシストは以下の特性があります。

超音波センサーが検知できない障害物

- 布や雪など、電波を吸収する素材
- 細い棒など鋭利な物体
- 路上の突起など、背が低い物体

ℹ 知識

超音波センサーが正常に機能しない状況

- 汚れや水滴、雪などの付着
- センサー表面にステッカーを貼るなど、覆われている
- 大きな音、超音波を発する物体がある
- 悪路、未舗装路、強い傾斜路を走行している

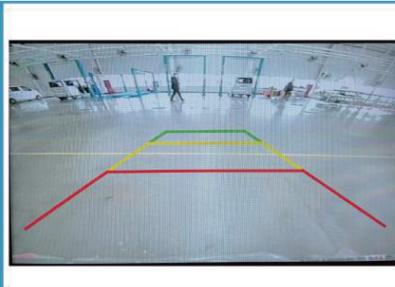
⚠ 注意

- センサー表面にステッカーを貼らないでください。塗装する場合は販売店に相談してください。
- センサー表面が汚れたときは、傷を付けないように柔らかい布を湿らせて拭き取ってください。
- センサーに蒸気や強い圧力の水をかけないでください。

バックカメラ

この車は、後退時の運転を支援するためのカメラを備えています。自車の後方のカメラ映像を画面に映します。

シフトポジションを「R」位置にすると、バックカメラが自動的にオンになります。R以外の位置にするとオフになります。



映像にはガイド線が重ねて表示されます。ガイド線は、ステアリングホイールの操作に合わせて車両の予想進路に向きを変えるため、後退時の運転操作が容易になります。

⚠ 注意

このシステムは運転を支援するものであり、安全確認と運転の責任はドライバーが負います。

車両接近通報装置

車両の接近を、歩行者や自転車などに知らせるための装置です。速度が約 20km/h 未満で走行中、疑似走行音を発して注意を促します。

⚠ 警告

車両接近通報装置が作動しない（疑似走行音が鳴らない）ときは販売店で点検を受けてください。

ESC（電子式横滑り防止装置）

ESC は、電子制御により走行姿勢を安定させるアクティブセーフティ機能です。

ドライバーの運転操作と車両の走行姿勢にズレが生じると作動します。ESC は、4 輪のブレーキを独立制御して、アンダーステアやオーバーステアと呼ばれる不安定な走行姿勢を抑制します。ESC が作動すると、メーターパネルの ESC 警告灯 が点滅します。

車両電源がオンになると ESC が機能の自己診断を行います。このとき ESC 警告灯 が数秒間点灯し、診断結果が正常であれば消灯します。

ESC 警告灯が消灯しない場合、ESC が正常に機能しないおそれがあります。運転の続行は可能ですが、走行安定性が損なわれている可能性があるため、すみやかに販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ESC は、ドライバーの運転を支援して走行安定性を維持しますが、機能には限界があります。安全運転はドライバーの責任です。

ESC オフスイッチ



ESC オフスイッチは、マルチファンクションスイッチに組み込まれています。スイッチを押すと ESC がオフになり、メーターパネルの ESC オフ表示灯 が点灯します。スイッチを再度押すと ESC がオンになり、表示灯が消灯します。

⚠ 警告

通常は ESC をオフにしないでください。

i 知識

以下のような特別な状況では、ESC をオフにすると走行性能を高めることができるものもあります。

- スノーチェーン装着時
- 積雪やぬかるみなど、滑りやすい路面
- スタック状態からの脱出時

これらの状況が解消されたら、すみやかに ESC をオンにしてください。

電動パワーステアリング (EPS)

この車は、電動式のパワーステアリングを備えています。

ステアリング機構に電気モーターが組み込まれており、走行速度、ステアリングホイールの回転角度、ステアリングホイールの操作力に応じてパワー・アシストを行います。

EPS の異常が検出されると、メーターパネルの EPS 警告灯 **EPS** が点灯します。警告灯が点灯したときは、すみやかに販売店で点検を受けてください。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

急制動時や、滑りやすい路面でブレーキをかけたときのホイールロックを防ぐ装置です。

ABS の作動によって、急ブレーキをかけたままステアリングを操作して危険を回避することや、後輪のロックで車両がスピンするリスクを低減できます。

車両電源がオンになると ABS が機能の自己診断を行います。このとき ABS 警告灯  が数秒間点灯し、診断結果が正常であれば消灯します。

ABS 警告灯が消灯しない場合、ABS が正常に機能しないおそれがあります。運転の続行は可能ですが、すみやかに販売店で点検を受けてください。



ABS の機能には限界があります。安全運転はドライバーの責任です。



急制動時はブレーキペダルを強く踏み込み、停車するか安全な速度になるまでペダル踏力を弱めないでください。



知識

ABS が作動すると、車体やブレーキペダルに振動を感じたり、断続的な音が聞こえます。これは ABS がブレーキ油圧を調整するときの正常な現象です。

制動力配分機能 (EBD)

ブレーキペダルを踏んで制動したときのブレーキ油圧を4輪に適切に配分するための機能です。この機能により、荷物の積載状態や走行条件に応じた制動力の配分が行われて車両の安定性を確保します。

センサーが4本のタイヤの接地力を個別に感知します。このセンサー情報をもとに制御装置が最適な制動力配分を計算します。

EBDに異常があるとメーターパネルのABS警告灯が点灯します。すみやかに販売店で点検を受けてください。

ヒルスタートアシスト（坂道発進サポート）

坂道での発進時、車両が思わぬ方向に動き出さないように静止させる機能です。

シフトポジションが「D/E」位置のときは上り坂、「R」位置のときは下り坂で作動します。

ドライバーがブレーキペダルから足を離した後、数秒間、車両がずり下がらないように保持します。



ヒルスタートアシスト（坂道発進サポート）は、パーキングブレーキの代わりではありません。



- ヒルスタートアシスト（坂道発進サポート）は、モーターの力で車のずり下がりを防ぐ機能です。ただし機能の特性上、作動時にわずかに車が動くことがあります。
- 急傾斜の坂道では、ヒルスタートアシスト（坂道発進サポート）が作動しても車両が思わぬ方向に動くことがあります。

前方衝突被害軽減ブレーキ（AEBS）

カメラとミリ波レーダーで先行車と歩行者を検知し、衝突の可能性があると認識したときは警告音とメーターパネルのAEBS作動表示灯（黄色）の点滅でドライバーに危険を知らせます。

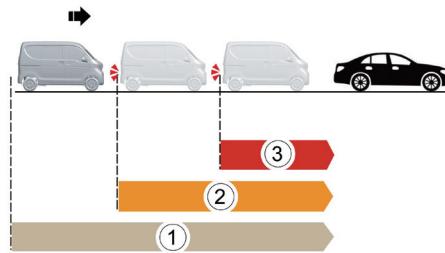
この通知にドライバーが反応せず、衝突の危険が切迫すると、自動的にブレーキをかけます。このとき衝突被害軽減ブレーキ作動表示灯（赤色）が点滅します。

ドライバーがブレーキペダルを踏むとAEBSの制御が中断されます。



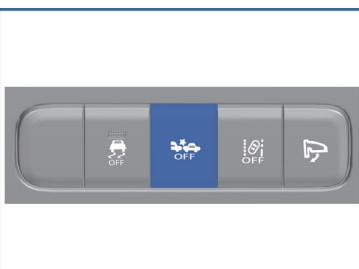
- AEBSが作動すると、減速により衝突時の被害を軽減することができますが、衝突を回避できない場合があります。また、先行車や歩行者の検知には機能の限界があり、すべての状況で検知することはできません。安全運転はドライバーの責任です。
- AEBSの衝突被害軽減ブレーキが作動した場合も、停車後の静止状態を保持したいときはブレーキペダルを踏んでください。
- AEBSは、速度が約10km/h～60km/hのときに作動します。

AEBSに異常があると、AEBS故障警告灯が点灯します。



1. AEBS が危険を認識してドライバーに通知
2. 衝突被害軽減ブレーキで減速
3. 最大の制動力で衝突被害を軽減

衝突被害軽減ブレーキオフスイッチ



衝突被害軽減ブレーキオフスイッチは、マルチファンクションスイッチに組み込まれています。スイッチを2回押すと衝突被害軽減ブレーキ機能がオフになり、メーターパネルの表示灯 が点灯します。スイッチを再度押すと衝突被害軽減ブレーキ機能がオンになります。表示灯が消灯します。

後方衝突被害軽減ブレーキ

後退中、車両後方の障害物に衝突する危険があると認識したとき、自動的にブレーキをかける機能です。

⚠ 警告

- 後方衝突被害軽減ブレーキが作動すると、減速により衝突時の被害を軽減することはできますが、衝突を回避できない場合があります。また、障害物の検知には機能の限界があり、すべての状況で検知することはできません。安全運転はドライバーの責任です。
- 後方衝突被害軽減ブレーキは、速度が0～約10km/hのときに作動します。

車線逸脱警報



前進走行中はカメラが前方の走行区分線（車線）を検出します。ターンシグナル（ワインカー）が作動していないにもかかわらず、車が走行区分線を逸脱しそうになった場合、警告音とメーターパネルの警告灯 の点滅でドライバーに危険を知らせます。

車線逸脱警報に異常があると、警告灯 が点灯します。

⚠ 警告

- 車線逸脱警報の機能には限界があります。安全運転はドライバーの責任です。
- 車線逸脱警報は、シフトポジションが「D」または「E」位置で速度が約40km/h以上のときに作動します。

⚠ 注意

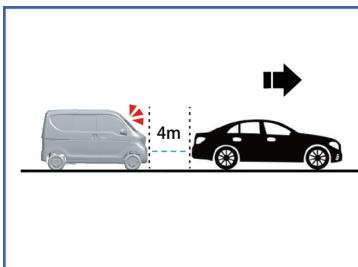
車線逸脱警報は、自車の左右両側の走行区分線（車線）を検出します。走行区分線を明瞭に検出できないときは機能が作動しません。

車線逸脱警報オフスイッチ



車線逸脱警報オフスイッチは、マルチファンクションスイッチに組み込まれています。スイッチを押すと機能がオフになり、メーターパネルの表示灯  OFF が点灯します。スイッチを再度押すと機能がオンになり、表示灯が消灯します。

先行車発進通知機能



停車時に前方車両との距離を検知し、前方車両が発進して約 4m 以上離れた場合に警告音で知らせます。

シフトポジションが「D」または「E」の位置でブレーキ操作による停車中に、前方車両の発進後の距離が約 4m 以上離れた場合に作動します。

⚠ 警告

- 先行車発進通知機能には限界があります。安全運転はドライバーの責任です。
- シフトポジションが「P」、「N」、「R」位置のときは作動しません。

自走事故防止機能

車両が **READY** の状態で、シフトポジションが「D/E/R」位置のとき、運転席シートベルトを外してドアを開けると、自動的に P ギアに切り替わります。

運転席と助手席のドアを閉めて、ドライバーがシートベルトを着用した後、ギアセレクターレバーの操作が可能になります。



注意

この機能はドライバーの運転を支援するものであり、駐車時は必ずギアセレクターレバーの操作で P ギアに切り替えてください。

ソーラー充電システム

ソーラー充電システム装備車は、車両電源がオンのときに太陽光で発電します。発電した電力は、動力バッテリーに充電されるか、またはモーターに直接供給されます。ソーラー充電システムによって航続可能距離が延び、充電にかかる電気代の節約にもつながります。



マルチインフォメーションディスプレイのホーム画面にソーラー充電のウィンドウが表示されており、ウィンドウをタップすると充電システムの作動状況や関連情報を確認することができます。

ソーラー充電システムに異常があると警告灯 が点灯します。販売店で点検を受けてください。



知識

ソーラー充電システムが作動していないときは、システムの電力消費はありません。

回生機能

回生機能の主な役割は、車両の運動エネルギーの一部を電気エネルギーに変えて動力バッテリーを充電することです。ドライバーがブレーキペダルを踏んだときに機能が働くことから「ブレーキエネルギー回生」とも呼ばれます。

回生機能は、ブレーキによる減速時だけではなく、ブレーキおよびアクセルペダルを踏まずに惰性走行するときも作動します。減速時や惰性走行中の車両の運動エネルギーを使って発電することで航続可能距離が伸びます。

回生機能は次の条件で作動します。

- 車両電源がオン (READY) で、シフトポジションが「D/E」位置
- 速度が約 15km/h 以上
- 動力バッテリーの充電レベルが 95% 以下 (バッテリー過充電からの保護)
- ドライバーがアクセルペダルを踏んでいない

次の条件のときは回生機能が作動しません。

- シフトポジションが「N」位置
- 速度が約 10km/h 未満
- 動力バッテリーの充電レベルが 95% 超
- 動力バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎる



注意

動力バッテリーの温度が高すぎる / 低すぎるときは、バッテリー保護のために回生機能の作動が制限されます。



警告

回生機能が働くとブレーキペダルを踏まなくても車両が減速します。ただし回生機能による減速の度合いは、走行条件やバッテリーの状態に応じて変化しますので、ドライバーはいつでもブレーキペダルを踏めるように備える必要があります。

一般注意事項

メンテナンスについて

定期的なメンテナンスは車両の寿命を延ばすだけではなく、環境を守ることにもつながります。本章の説明はいずれも重要であり、例えば油脂類の量やタイヤ空気圧の不足によって車両部品の負荷が大きくなれば耐用年数が短くなります。

お車のコンディションを長年にわたって良好に維持するため、定期的なメンテナンスを実施してください。油脂類や部品は、純正品またはASF株式会社が承認／推奨する製品を使用してください。

新車時は総走行距離が5,000kmのときに初回点検を受けてください。以降の定期的なメンテナンスは、次項の「メンテナンススケジュール」に沿ってください。



注意

- 純正品またはASF株式会社が承認／推奨する油脂類や部品を使用しないことに起因する車両の不具合は保証の対象外です。また、ASF株式会社が規定する定期的なメンテナンスを適切な時期に実施しなかった場合も保証の対象外になることがあります。
- 車両のメンテナンスには、お客様自身が実施する日常点検と、専門知識と設備が必要な定期点検があります。定期点検は危険が伴う作業が含まれるため、販売店またはASF株式会社が承認した整備工場に依頼してください。

シビアコンディション

車両の使用環境によってメンテナンスの頻度を変える必要があります。次の条件に該当する場合は、規定の時期よりも頻繁にメンテナンスを実施してください。詳しくは販売店にお尋ねください。

- 未舗装路、ぬかるみ、融雪剤がまかれた道路など、悪条件の道路を行く機会が多い。
- 砂塵が多い場所や空気が汚れている環境で使用している。
- 重い荷物を積載する機会が多い。
- トレーラー車両をけん引することがある。
- 高速／高負荷での連続走行を2時間以上続けることがある。

メンテナンススケジュール

項目	点検時期	距離および月数のうち、いずれか早く到達したときに実施											
		× 1,000km	-	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
	経過月数	1	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60	66
パワー システム	リアアクスルギアオイル	点検時期ごとに点検、2年 / 40,000km 毎に交換											
	エアコンフィルターエレメント	7,500km 毎に清掃、フィルターシールテープのシール不良時は交換 砂塵が多いなど空気が汚れている環境下では 3,000km 毎に清掃											
	ブレーキフルード	2年 / 40,000km 毎に交換											
	冷却液	5,000km 毎に点検および補充、2年 / 40,000km 毎に交換											
駆動と エネルギー システム	エアバッグモジュールおよび ECU、センサー	10年毎に交換											
	動力バッテリーのシールドカバーの状態	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	動力バッテリーケースと車体を接続するボルト	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	動力バッテリーの防爆弁（損傷、変形等）	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	ブラケット接続ボルトの締め具合	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	高電圧ケーブルおよび各高電圧部品の配線接続状態	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	動力用モーターのギアオイル	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	高電圧部品の通信用配線とコネクターの接続状態	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	電気配線とコネクターの接続状態	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	灯火類の作動、ヘッドライト高さ調整機能の作動	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T

項目		点検時期	距離および月数のうち、いずれか早く到達したときに実施											
			× 1,000km	-	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
		経過月数	1	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60	66
車体	ホイールナットの緩み	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	ホイールアライメント	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	/
	タイヤの摩耗と損傷、回転状態	/	/	G	/	G	/	G	/	G	/	G	/	/
	ブレーキ配管の状態、フットブレーキ / パーキング ブレーキの効き具合、ブレーキシステムの可動部の 調整 / 給脂、ブレーキペダルの遊び	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	ブレーキパッド / シュー、ブレーキディスク / ドラム の状態	/	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G
	ブレーキの負荷が大きい（高速走行が多い、高積載、山岳路等での運転が多いなど）場合は、 ブレーキパッド / シューおよびブレーキディスク / ドラムの点検と交換を早めに実施													
	接続ボルトの締め具合（規定トルク）	/	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	前後ダンパーの作動状態	/	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G
	前後コイルスプリング、スタビライザーバーの状態	/	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G
	フロントサスペンションストラットのラバーマウント とペアリング	/	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G	J/G
空調および エアコン システム	車体フレームの損傷、溶接部位の状態	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/
	車体可動部の接続ボルトの緩み	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/
	フロントドアストッパーの清掃とグリース塗布	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	冷媒充填量	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	/
	冷媒配管と継手	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	J.T	/	/
	バッテリー	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T	J.T
	コンデンサー	5,000km 毎に清掃												

表記 「G」：交換 「J.T」：点検および調整 「J/G」：点検および交換

定期点検

定期的なメンテナンス

お車のコンディションを維持し、安全かつ快適に運転するために定期的なメンテナンスを実施してください。メンテナンス時期は、前項の「メンテナンススケジュール」でご確認ください。また、法令に基づく定期点検を併せて実施する必要があります。詳しくは販売店にお尋ねください。

⚠ 注意

- ASF 株式会社が規定する定期的なメンテナンスを適切な時期に実施しなかった場合は保証の対象外になることがあります。
- 車両のメンテナンスには、お客様自身が実施する日常点検と、専門知識や設備が必要な定期点検があります。定期点検は危険が伴う作業が含まれるため、販売店または ASF 株式会社が承認した整備工場に依頼してください。

車体の腐食防止

車体が腐食する原因

- 泥汚れ、氷雪の堆積、アルカリ性物質の付着
 - 湿度が高い環境での長期間の使用や、車体のすき間に入り込んだ水滴
 - 飛び石やボディを擦ったときに生じる塗装面の下地の損傷
- 腐食（錆）による車体の損傷を防ぐために日常のメンテナンスが重要です。
- 融雪剤が散布された道路、アルカリ性物質を含む土壌、海辺に近い場所で車両を使用するときは、少なくとも 1 か月に 1 回の頻度で車体の下回りを水洗いしてください。
 - ボディ塗装面に飛び石などの打痕、擦り傷、ひび割れがないか点検してください。損傷箇所はすぐに修復してください。
 - ホイールハウスの内側や車体底面に、泥汚れや砂利、植物などが堆積していないか点検し、取り除いてください。

- タール / ピッチ、鉄粉、セメント、虫の死骸、鳥の糞、樹液などは車体に有害です。付着したときは早めに水洗いしてください。頑固な汚れは専用クリーナーで除去してください。詳しくは販売店にお尋ねください。
- ホイールハウスの内側やサスペンション部品、ドアとバックドアの開口部のすき間、ワイパーーム取り付け部など汚れが堆積しやすい部位は、湿気が残りやすくなります。泥や落ち葉などで排水口が塞がっていないか、湿気が溜まっているか定期的に点検してください。
- 未舗装路を頻繁に走行する車両は、ボディや車体の下回りを保護するプロテクターの装着も有効です。

ボディの清掃

ボディを保護するために定期的な洗車とワックスかけをお勧めします。

i 知識

- 日差しが強いときは屋外での洗車を避けるようにしましょう。ボディ表面に付着した水滴がレンズのように作用して塗装を傷めます。
- 炎天下に駐車してボディ表面が熱くなっているときの洗車も避けるべきです。
- 研磨剤を含むクリーナーやワックスは使用しないでください。繰り返し使用すると塗装が傷んで、色あせやくすみの原因になります。

タール / ピッチ、鉄粉、セメント、虫の死骸、鳥の糞、樹液などの付着は、塗膜が損傷する原因になります。頻繁な洗車で早めに取り除いてください。

⚠ 警告

洗車するときは車両電源をオフにしてください。思わぬ事故の原因になります。

手洗い洗車の推奨方法

- 車体の上から下に向けて、多めの水で汚れを洗い流します。
- 柔らかい布やスポンジを使って、ボディ表面の汚れをやさしく取り除きます。必要に応じて洗車用の洗剤を使用します。ドアのすき間やホイールハウスの内側など、手が届きにくい部位は毛先が柔らかい洗車ブラシの使用がお勧めです。
- 多めの水で、汚れと洗剤をしっかりと洗い流します。
- 乾いた布で水分を拭き取ります。

 注意

- 洗車時は、地面が平らな場所に駐車してパーキングブレーキをかけてください。
- 灯油やガソリン、シンナーなどでボディを擦らないでください。強酸性、強アルカリ性の溶剤を使用しないでください。
- 毛先が硬いブラシや、スクレーパーなどボディを傷付けるような道具を使用しないでください。
- ボンネットを開けたまま洗車しないでください。ボンネット内に大量の水が入ると部品が損傷する原因になります。
- 洗車後の水分を吹き飛ばすために高圧エアを使用しないでください。部品が破損するおそれがあります。
- 凍結のおそれがある時期に洗車するときは、特にドア周りやワイパー可動部の水分をしっかりと取り除いてください。

洗車機の使用

洗車機メーカー や洗車場サービススタッフの指示に従って安全を確保してください。

 注意

- ポンネットが閉まっていることを確認してください。ドアやウィンドウが完全に閉まっていることを確認してください。サイドミラー（ドアミラー）を格納してください。
- 洗車機の種類によっては、サイドミラー（ドアミラー）やワイパーを破損する可能性があります。洗車機メーカー や洗車場サービススタッフの指示に従ってください。

高圧洗車

高圧洗車ノズルを使用するときは、必ず洗車機メーカー や洗車場サービススタッフの指示に従ってください。

 注意

- ドアやウィンドウのすき間、ワイパーに高圧ノズルを近づけないでください。
- ボンネット内やホイールハウスの内側を高圧で洗車しないでください。電装品やセンサー類が破損するおそれがあります。

樹脂製部品の清掃

水洗いしつつ柔らかい布で汚れを拭き取ります。頑固な汚れは溶剤を含まないプラスチック製品用のクリーナーを使って取り除きます。

クロムメッキ部品の清掃

水洗いの後、柔らかい布で水分を拭き取って表面を磨きます。クロムメッキ用の保護剤を薄く塗ることも鏽の防止に効果的です。強力な溶剤は使用しないでください。



注意

クロムメッキの表面を強く擦らないでください。

ウィンドウとサイドミラーガラスの清掃

水洗いしつつ柔らかい布で汚れを拭き取ります。頑固な汚れは自動車用のガラスクリーナーで取り除いてください。



注意

- ガラスクリーナーを使用した後は、乾いた布でしっかりと拭き取ってください。ガラスにワックスをかけないでください。運転視界が遮られる可能性があります。
- ガラスを硬い物で擦らないでください。傷付きの原因になります。

車内の清掃

樹脂製部品の清掃

水で湿らせた柔らかい布で汚れを拭き取ります。頑固な汚れは溶剤を含まないプラスチック製品用のクリーナーを使って取り除きます。

カーペットの清掃

長毛のソフトブラシで大まかに汚れを掃き出した後、掃除機で吸い取ります。



注意

カーペットクリーナーなどを使用したときは、換気を良くして完全に乾かしてください。湿ったまま放置するとカビや雑菌の繁殖による異臭の原因になります。

ファブリックと革製品の清掃

長毛のソフトブラシで大まかに汚れを掃き出した後、掃除機で吸い取ります。素材に適したクリーナーを使用して汚れを取り除いた後、水で湿らせた柔らかい布で拭き上げます。最後に、乾いた柔らかい布で水分を取り除きます。

シートベルトの清掃

シートベルトをいっぱいまで引き出して保持し、ソフトブラシや中性洗剤で汚れを取り除きます。洗剤を使った場合は、水で湿らせた柔らかい布で拭き取ります。シートベルトが完全に乾いたら、巻き取らせます。



注意

- シートベルトの清掃に漂白剤や染色剤、溶剤入りのクリーナーを使用しないでください。シートベルトの強度が低下する原因になります。
- シートベルトが湿った状態で巻き取らせないでください。巻き取り装置が故障する原因になります。

お客様自身にできるメンテナンス

注意事項

安全のために次の注意事項を守ってください。

- 平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをかけて車が動き出さないようにしてください。
- 車両電源をオフにした後、動力用モーターやブレーキ部品の温度が下がるまで待ってください。



警告

- 車両電源がオンのときは電気回路に高電圧・高電流が作用しています。誤って触れると感電して生命への危険や重大な傷害を負うおそれがあります。橙色の配線に触れないでください。
- 裸火やライターをバッテリーに近づけないでください。喫煙したまま作業しないでください。
- ボンネット内の作業時は、回転部品に衣服が巻き込まれないようにしてください。ネクタイや腕時計、宝飾品は外してください。保護眼鏡や軍手などで身体を保護してください。
- 液類の漏れや、漏れた痕跡がある場合は触れずに、販売店で点検を受けてください。
- ブレーキ液、冷却液、バッテリー液を扱うときは、目に入らないように保護してください。万一目に入ったときは、多量の水で洗い流した後、医師の診察を受けてください。手や身体に付着したときも多量の水で洗い流してください。ボディ塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。

日常の点検

車両を安全に運行することが、車の所有者と運転者に義務付けられています。これには運行前の日常点検が含まれます。

点検項目については、この取扱説明書の「運転操作」章の「運転の前に」項に記載しています。

車両を長期保管するとき

長期にわたって車両を使用しないときは、次の準備を行ってください。

- 油脂類を交換して規定量を入れます。
- 車内外を清掃して、完全に乾かしてください。ドアとバックドアのラバーストリップに保護剤を塗ります。
- 直射日光が当たらず、風通しの良い場所に駐車します。
- 車内の身の回り品を整理して、変質や劣化のおそれがある物は残さないようにしてください。
- タイヤ空気圧を規定値に調整します。空気圧は定期的に点検し、必要に応じて補充してください。
- 動力バッテリーの充電レベルを半分程度にします。1か月に1回の頻度でバッテリーを定期的に充電し、充電レベルを60%程度に回復させてください。長期間放置すると過放電になり、バッテリーが正常に機能しなくなることがあります。
- 12Vバッテリーのマイナス端子を外します。
- メカニカルキーで車両を施錠します。

ボンネットの開閉

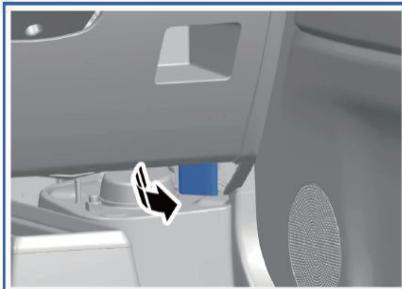
ボンネットを開ける

ボンネットの開閉レバーは運転席足元のダッシュボード右下にあります。

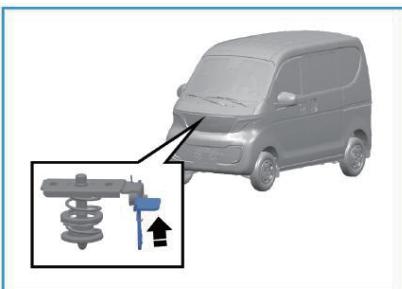


警告

車両電源をオフにしてからボンネットを開けてください。



1. 開閉レバーを引いて、ボンネットのロックを解除します。



2. ボンネットのすき間から手を差し入れ、中央の奥にあるリリースハンドルを引き上げてからボンネットを持ち上げます。

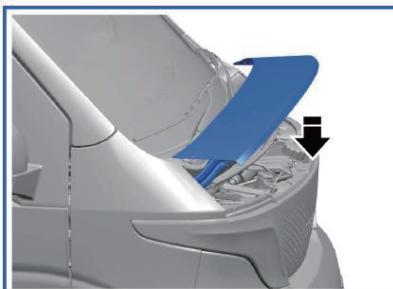


注意

走行直後はリリースハンドルが熱くなっています。火傷に注意してください。



ボンネットを閉める



3. ステーをボンネットの溝に差し込んで、ボンネットが開いた状態を保持します。

1. ボンネットを手で支えて、ステーを元の位置に収納します。
2. ボンネットを図の位置まで下げてから、手を離して自然落下でボンネットを閉めます。
3. ボンネットを持ち上げて、ロックされていることを確認します。



警告

- ボンネットが確実にロックされていることを確認した後、走行を開始してください。
- 運転中はボンネットの開閉レバーに触れないでください。



注意

ボンネットをロックするために、強い力で押さないでください。ボンネットが変形または破損するおそれがあります。

i 知識

ボンネットから手を離して閉めるときに、下方に落とすように手を離すと閉まりやすくなります。

ワイパープレードの点検と交換

ワイパープレードの点検

ワイパーゴムに異物が付着すると払拭性能が低下します。中性洗剤と水で湿らせた柔らかい布で定期的に拭いて、汚れを取り除いてください。

ワイパーを作動させたときに、振動や異音がないか確認してください。

ワイパーゴムにひび割れ、欠損、硬化がある場合は、ガラスを傷付ける原因になるため早めにワイパープレードを交換してください。

通常の使用では、半年から1年毎にワイパープレードを交換してください。

⚠ 注意

- ワイパーゴムを清掃するときは、ゴム素材に悪影響がある溶剤等を使用しないでください。
- ガラスに撥水剤などを使用すると、ワイパー作動時にびりりが発生することがあります。その場合はガラスをしっかりと拭いてください。

フロントワイパープレードの交換

1. ワイパーアームを持ち上げて、直立させます。



4. 新品のワイパープレードをワイパーアームに差し込みます。

5. ワイパープレードがアームに固定されたことを確認し、ワイパーームを元の位置に戻します。

⚠ 注意

ワイパーームを直立させたまま走行しないでください。ワイパー やガラスが破損するおそれがあります。

リアワイパープレードの交換



リアワイパープレードの交換手順は、フロントワイパーと同じです。ただし、ワイパーームからワイパープレードを脱着するときの向きが異なります。図の矢印を参照してください。

ワイパーゴムを長持ちさせるヒント

- ワイパーゴムとガラスを定期的に清掃して、汚れを放置しないでください。特に虫の死骸、鳥の糞、樹液などはゴム素材を劣化させる原因になります。
- ガラスが乾いている状態や、汚れが付着したままワイパーを作動させないでください。ワイパーゴムが劣化するだけではなく、ガラスを傷付けるおそれがあります。
- 凍結したときはワイパーを無理に動かさないでください。
- ワイパーをしばらく使用しなかったときは、堆積した汚れを取り除いてからワイパーを作動させてください。
- 直射日光はゴム素材を劣化させます。可能であれば直射日光が当たらない場所に駐車してください。

タイヤの保守

タイヤの保守管理は、安全な運行と消費電力の節約に極めて重要です。

次の点検を実施してください。

- タイヤの接地面（トレッド）に異常摩耗、欠損、変形（局部的に膨らみがあるなど）、異物の挟み込みがないか点検します。
- タイヤの接地面が均一に摩耗しているか、一部でもスリップサインに達するまで摩耗していないか点検します。
- タイヤの側面（サイドウォール）に変形や擦り傷がないか点検します。

タイヤ空気圧の管理

少なくとも 1 か月に 1 度は空気圧を点検・調整してください。空気圧の点検・調整は、タイヤが冷えているときに実施してください。タイヤが温まっていると空気圧を正しく計測できません。空気圧の管理について、詳しくは販売店にお尋ねください。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧は常に規定値を維持してください。空気圧が規定値を外れるとパンクの可能性が高まります。また、車体やタイヤの寿命を縮めることにつながります。
- 過積載や、偏った重量物の積み方はタイヤの損傷につながります。
- 高速道路を走行するときや、長距離を運転する前に空気圧を点検してください。
- 季節の変わり目など温度差が大きくなる時期は、空気圧点検を頻繁に実施してください。

⚠ 注意

- タイヤバルブに異物が入らないように注意してください。
- タイヤバルブのキャップが破損したり紛失したときは、販売店で新しいバルブキャップ入手してください。

タイヤ摩耗インジケーター（スリップサイン）

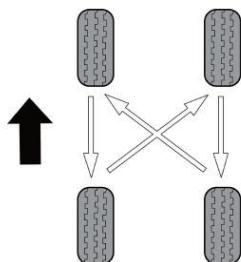


タイヤの接地面（トレッド）に、摩耗限度を示すスリップサインがあります。1か所でもスリップサインが露出したタイヤは使用しないでください。

⚠ 警告

- タイヤの残り溝深さが 1.6mm を下回ったタイヤは法律で使用が禁止されています。
- スリップサインが出ていても、すり減ったタイヤは排水性が低下しています。雨天の使用は事故のリスクが高まるため、早めの交換をお勧めします。
- ウインターフィーダーはスリップサインの他に、雪道での使用限度を示すスノープラットフォームがあります。詳しくは販売店にお尋ねください。

タイヤのローテーション



4輪のタイヤの摩耗状態を均一にして交換サイクルを延ばすために、定期的なタイヤローテーションをお勧めします。タイヤローテーションは、通常は図のパターンで実施します。

⚠ 警告

- 装着しているタイヤの銘柄によってはローテーションの方法が異なる場合があります。詳しくは販売店にお尋ねください。
- タイヤ空気圧モニタリングシステム装備車は、システムの再設定など追加の作業が必要な場合があります。ローテーション作業は販売店に依頼してください。

タイヤを長持ちさせるヒント

- 空気圧を定期的に点検して規定値に調整します。
- 車両重量はタイヤの寿命に影響を及ぼします。不要な荷物を積まないようにしましょう。
- タイヤの状態を点検し、異常があればすみやかに補修してください。
- タイヤを定期的にローテーションしてください。
- 新車出荷時はホイールバランスが調整されていますが、使用に伴い狂いが生じることがあります。タイヤローテーションのタイミングなど、定期的にバランス調整することをお勧めします。
- 長期間車両を動かさないと接地部が平らになります（フラットスポット）。軽微なフラットスポットは走行により解消することがありますが、長い時間をかけて生じた場合は元に戻らなくなります。少なくとも2週間に1回はタイヤの接地部を変えてください。

タイヤチェーンの使用

タイヤチェーンは駆動輪に装着して使用します。装着時は次の事項を守ってください。

- タイヤチェーンはメーカーの指示を守って使用してください。使用に際しては地域の法令等を遵守してください。
- タイヤサイズに合ったチェーンを使用してください。サイズが合っていないと走行中に外れたり、タイヤ周辺の部品が損傷するおそれがあります。
- タイヤチェーンの脱着は安全な場所で行ってください。他の道路利用者から見えやすい場所に三角表示板を設置するなど、作業中の事故を防いでください。
- タイヤチェーンを装着したら短時間だけ走行し、安全な場所でチェーンの取り付け具合を点検してください。走行中にタイヤチェーンから異音が生じたときは、すみやかに安全な場所に停車して原因を確認してください。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧が不足している場合はタイヤチェーンを装着しないでください。
- 応急用タイヤ（標準装着のタイヤとサイズが異なるタイヤ）にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンを装着しているときは、速度が30km/hを超えないようにしてください。タイヤチェーンメーカーの指定速度が30km/h以下の場合は指示に従ってください。
- タイヤチェーンを装着した状態では走行安定性が低下します。「急」の付く運転を避けてください。悪路走行を避けてください。

空調システムの保守

空調システムを定期的に清掃して、快適な運転環境を維持してください。

- エアコンフィルターエレメントを定期的に清掃または交換してください。
- 送風口に溜まった埃や汚れを取り除いてください。
- A/C ボタンをオンにしてエアコンコンプレッサーを定期的に作動させてください。エアコンシステムに充填されている冷媒を定期的に循環させることで、システムの寿命を延ばすことができます。

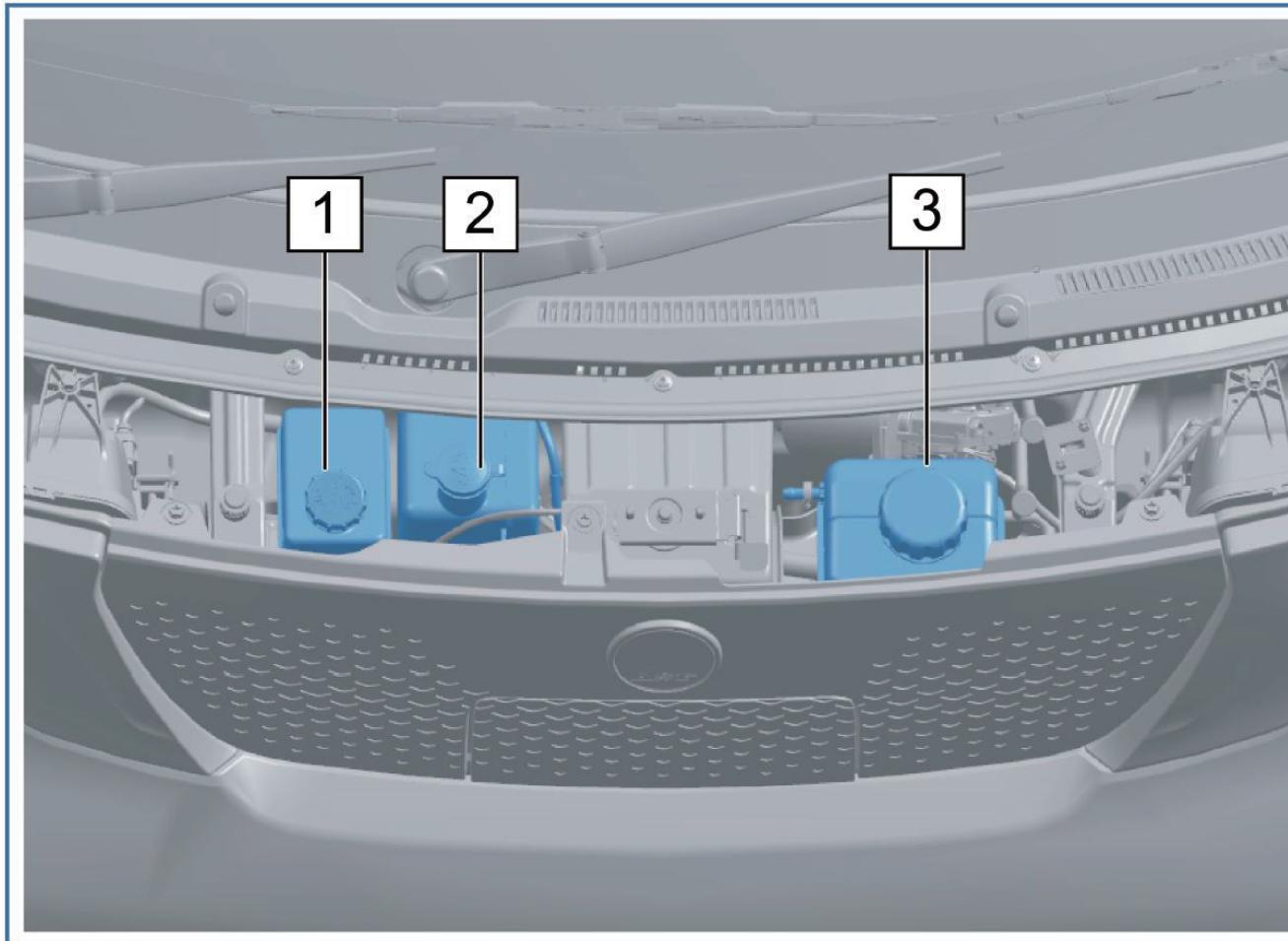


注意

冷房能力の低下を感じたときなど、空調システムの点検と整備は販売店に依頼してください。

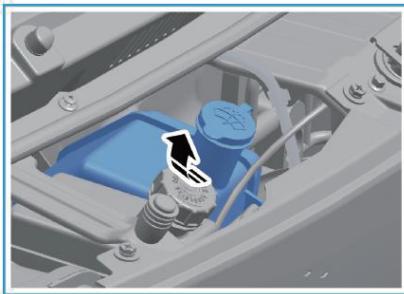
点検と整備

ボンネット内の点検箇所



1. ブレーキ液リザーバータンク
2. ウィンドウウォッシャー液タンク
3. 冷却液リザーバータンク

ウィンドウウォッシャーシステム



ウォッシャー液量を定期的に点検し、必要に応じて補充してください。ウォッシャー液は ASF 株式会社が承認または推奨する製品を使用してください。不適切な製品を使用した場合、ウォッシャーモーターの固着やウォッシャーノズルの詰まりなど、システムが故障する可能性があります。

ウォッシャー液タンクのキャップは矢印の方向に回すと開きます。

⚠ 警告

車両電源をオフにしてからウォッシャー液を補充してください。ウォッシャー液に含まれるアルコール成分が飛び散って車両の発熱部品にかかると発火するおそれがあります。

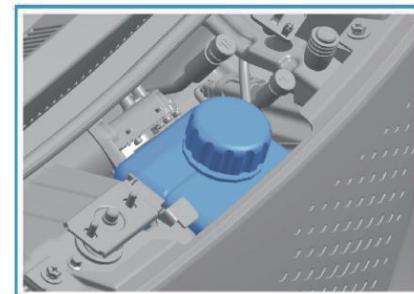
⚠ 注意

- 水道水をそのまま使用しないでください。長期の使用で水が腐敗したり、気温が低いときに凍結するおそれがあります。
- 飲料用のミネラルウォーターなどを使用しないでください。ミネラル成分によってシステムが故障する原因になります。

冷却システム

冷却液は、システムの冷却作用の他に、凍結防止や腐食防止の役割があります。新車出荷時に注入されている冷却液は、極低温になる環境を除いて通年で使用できます。

冷却液リザーバータンク



冷却液量は、ボンネット内のリザーバータンクで点検します。タンクの側面に MAX、MIN の表示があり、液面が表示の間にあれば正常です。

液面が MIN よりも低いときは、次の手順で冷却液を補充します。

- 車両が冷えていることを確認します。
- 厚手の布などをキャップに被せて飛散防止をしてからキャップをゆっくりと開けます。
- MAX の表示を超えない範囲で冷却液を補充します。
- キャップを確実に閉めます。

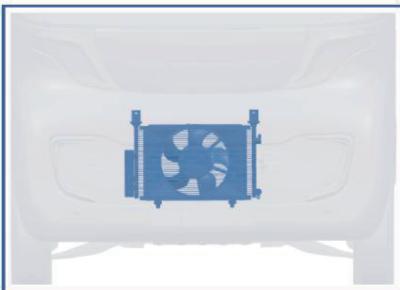
⚠ 警告

走行直後など車両が暖機されているときは、リザーバータンクのキャップを開けないでください。冷却液が飛散して火傷するおそれがあります。

⚠ 注意

- 冷却液は ASF 株式会社が承認または推奨する製品を使用してください。
- 冷却液をこぼさないでください。こぼれた場合はすぐに拭き取ってください。
- 冷却液が不足したまま走行を続けると、車両に深刻な損傷が生じるおそれがあります。

ラジエーターとコンデンサー



ボンネット内に冷却システムのラジエーターとコンデンサーがあります。汚れや虫の死骸などが付着すると性能が低下するため、清掃する必要があります。

⚠ 注意

ラジエーターなどの部品清掃は販売店に依頼してください。

ブレーキシステム

ブレーキ液は吸湿性があり、長期の使用で空気中の水分を吸収して制動性能の低下を招きます。ブレーキ液は定期交換が必要です。

ブレーキ液の点検



ブレーキ液量は、ポンネット内のリザーバータンクで点検します。タンクの側面に MAX、MIN の表示があり、液面が表示の間にあれば正常です。液面が MIN よりも低いときは、ブレーキシステムの点検とブレーキ液の補充を行います。

- ブレーキパッド / シューやブレーキディスク / ドラムの摩耗に伴って液面が下がります。これらの部品の摩耗度合いを点検し、使用限度が近づいているときは交換してください。
- ブレーキシステムの漏れが原因で液面が低下した場合は、漏れがある部位の修理が必要です。
- ブレーキ液が変色して黒ずんでいるときは交換が必要です。詳しくは販売店にお尋ねください。

⚠ 注意

ブレーキ液量が減っているときは販売店で点検を受けてください。

ブレーキ液の補充

ブレーキ液量が不足しているシステムに問題がない場合は、ブレーキ液を補充します。

車両が冷えていることを確認し、ブレーキ液リザーバータンクのキャップを開けて MAX の表示を超えない範囲でブレーキ液を補充してください。補充後はキャップを確実に閉めてください。

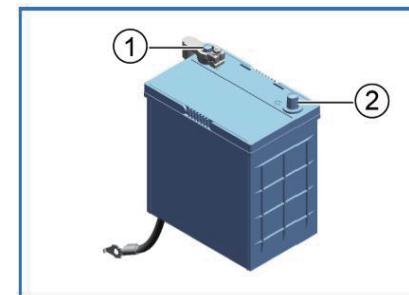


- ブレーキ液は人体に有害です。ブレーキ液を扱うときは、目に入らないように保護してください。万一目に入ったときは、多量の水で洗い流した後、医師の診察を受けてください。手や身体に付着したときも多量の水で洗い流してください。ボディ塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。
- ブレーキ液が入った容器は、お子さまが触れない場所に保管してください。
- ブレーキ液が不足したまま走行を続けないでください。ブレーキが効かなくなるなど非常に危険です。

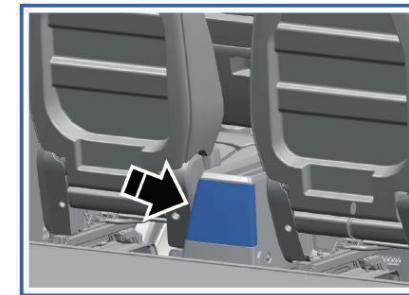


- ブレーキ液は ASF 株式会社が承認または推奨する製品を使用してください。
- ブレーキ液をこぼさないでください。こぼれた場合はすぐに拭き取ってください。

12V バッテリー



1. マイナス端子
2. プラス端子



この車は 12V バッテリーを搭載しています。12V バッテリーは運転席と助手席の間にあるセンターコンソールの後部下に収納されています。センターコンソール後部の点検カバーを取り外すと 12V バッテリーが見えます。

12V バッテリーは車両の低電圧システムに電力を供給します。



- バッテリーの寿命は、車両の使用環境や運転スタイルの影響を受けます。
- 車両を長期間使用しないときは、バッテリーマイナス端子を切り離してください。再使用する前にバッテリーの充電レベルを点検し、必要に応じて充電してください。

12V バッテリーの点検

バッテリーを定期的に点検してください。必要に応じて販売店で点検を受けてください。

- バッテリーがしっかりと固定されていることを確認してください。
- バッテリー端子に汚れの堆積や腐食があるときは、きれいに清掃してください。端子に専用グリースを塗布して腐食を防いでください。
- バッテリー端子が緩んでいないか点検してください。
- バッテリーケースにひび割れや膨らみがないか点検してください。

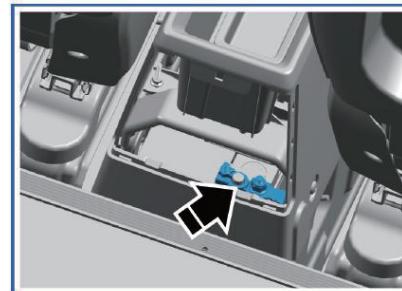


警告

- バッテリーに火気を近づけないでください。
- プラス / マイナスの端子間に工具など導電性の物を接触させて短絡(ショート)させないでください。

12V バッテリーのマイナス端子の切り離し

1. 車内のすべての電装品を作動停止して、車両電源をオフにします。
2. センターコンソール後部の点検カバーを取り外します。必要に応じてセンターコンソール全体を取り外します(4本のネジで固定されています)。



3. 12V バッテリーのマイナス端子を切り離します。



警告

- バッテリー液を扱うときは、目に入らないように保護してください。万一目に入ったときは、多量の水で洗い流した後、医師の診察を受けてください。手や身体に付着したときも多量の水で洗い流してください。ボディ塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。
- 直射日光が当たる場所や高温になる場所に 12V バッテリーを放置しないでください。
- バッテリーに貼り付けられている警告ラベルの内容を守ってください。不適切な取り扱いは傷害を負うおそれがあります。

12V バッテリーの警告ラベル

12V バッテリーには取り扱い上の注意事項を記したラベルが貼り付けられています。ラベルには、さまざまなシンボルマークが記されています。

シンボル マーク	意味
	バッテリーに火気を近づけないでください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用して、バッテリー液から保護してください。
	お子さまがバッテリーに近づかないようにしてください。
	バッテリーはゴミとして廃棄せずに、資源として回収してリサイクルします。
	バッテリー液には強い腐食性がある酸性物質が使用されています。
	バッテリーを処分するときは取扱説明書の指示に従ってください。
	バッテリーからは爆発性ガスが出ることがあります。火気を近づけるなど不適切な取り扱いは破裂の危険があります。
	バッテリーには鉛を含む有害物質が使用されています。地域のルールに沿って処理してください。

タイヤの交換

次の場合はタイヤを交換してください。タイヤ交換は販売店に依頼してください。

- スリップサインが現れたとき
- 異常摩耗や損傷があるとき
- タイヤがパンクして、修理ができないとき
- 空気漏れがあるとき（正常なタイヤも空気は徐々に漏れますか、異常に漏れる場合は内部構造の損壊等が考えられます。）

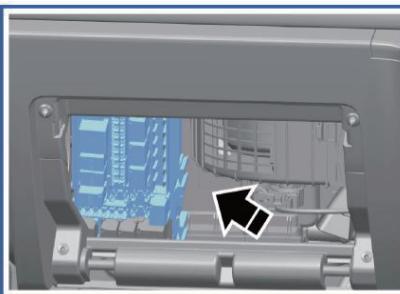


注意

- タイヤは ASF 株式会社が承認または推奨する製品を使用してください。
- 4 輪のタイヤは同一銘柄の同一規格品を使用してください。

ヒューズ

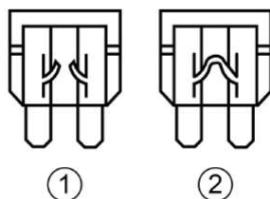
ヒューズボックスの位置



ヒューズボックスは助手席のグローブボックスの奥に取り付けられています。グローブボックスを取り外すと、ヒューズボックスの作業を行うことができます。

ヒューズの点検と交換

ヒューズの役割は、車両のさまざまな電気回路に過大な電流が流れたときに、回路と電気部品を保護することです。各ヒューズのケースの中に、ヒューズエレメントと呼ぶ可溶部（溶断する部分）があって、断線したことが目に見える構造になっています。ヒューズに過大な電流が流れると、ヒューズエレメントが溶断して回路を遮断します。



1. ヒューズエレメントが溶断した状態
2. 正常なヒューズエレメント

ヒューズは次の手順で点検および交換します。

1. 車内のすべての電装品を作動停止して、車両電源をオフにします。
2. 12V バッテリーのマイナス端子を切り離します。
3. ヒューズ取り外し具でヒューズの頭部を挟み、引き抜きます。
4. ヒューズが溶断しているかどうかを目視で点検します。
5. 正常なヒューズを元の位置に差し込みます。

警告

- ヒューズを交換するときは、同一アンペア数のヒューズだけを使用してください。アンペア数を変更すると、電気回路の過負荷により車両火災の原因になります。
- 溶断したヒューズを修理しないでください。

ヒューズボックス内のヒューズの配置

ヒューズボックスに取り付けられている各ヒューズの割り当て（どのヒューズが何の回路を保護するのか）は、車両の仕様や装備によって異なります。

グローブボックスの裏面に、ヒューズの割り当てが記されています。

故障時の措置

ドアの解錠 / 施錠ができない

キーの紛失

リモコンキーを紛失すると、車両の解錠と起動ができなくなります。直ちに販売店に連絡して、リモコンキーを作成する必要があります。

ドアを解錠 / 施錠できない

1. リモコンキーが車内に残されていないか確認してください。
2. リモコンキーの電池残量が不足していないか点検してください。
3. 車両の付近に強い電磁波を発生させる建造物がないか確認してください。電磁波の影響で、リモコンキーが正常に機能しないことがあります。強い電磁波を発生する建造物の例として、TV電波塔、発電所、無線局、飛行場、大画面ディスプレイなどがあります。また、携帯ラジオや無線機などを所持している場合も電波干渉が生じる可能性があります。

後部スライドドアが開かない



ロックスイッチがロック位置になっていないか確認してください。

リモコンキーの電池交換

注意

- リモコンキーの電池残量が不足したときなど、メカニカルキーを使用して運転席ドアの解錠と施錠ができます。メカニカルキーはリモコンキーに収納されており、リモコンキーの裏にあるロックを解除して引き抜きます。
- リモコンキーの電池交換は販売店に依頼してください。

リモコンキーの電池は次の手順で交換します。

1. メカニカルキーを引き抜きます。
2. 細いマイナスドライバーをリモコンキーの溝に差し込んで、カバーをこじ開けます。
3. 電池を取り出します。
4. 新品の電池を取り付けます。プラスマイナスの極性の向きに注意してください（プラス側が上になります）。
5. キーカバーを元の状態に戻します。
6. リモコンキーの動作を確認します。

注意

- 濡れた手で電池を交換しないでください。
- キーカバー内の部品に触らないでください。

車両電源が入らない

1. 動力バッテリーの電力残量が不足している可能性があります。車両の充電が必要です。
2. 12V バッテリーがあがっていて、制御システムが起動しない可能性があります。12V バッテリーを充電してください。



注意

この車は、押しがけによる車両の起動ができません。車両が損傷する原因になります。

3. リモコンキーの電池残量が不足している可能性があります。リモコンキーの電池を交換してください。

ディスプレイの電源が入らない（ブラックアウト）

車両電源をオンにする操作を行ってもディスプレイに何も表示されないときは、12V バッテリーがあがっている可能性があります。

12V の電力残量があってもディスプレイがブラックアウトしたままのときは、販売店で点検を受けてください。

走行中に車両電源が落ちた

走行中に意図せず車両電源がオフになった場合は、次の要領で安全を確保して販売店に連絡してください。

1. ステアリングホイールを両手でしっかりと握り、走行姿勢を安定させてください。
2. ハザードランプを作動させ、慌てずに速度を下げてください。
3. 路肩の安全な場所に停車してください。
4. 緊急停止したことが他の道路利用者にわかるように三角表示板などで知らせてください。臭いや煙で車両火災の疑いを感じたら、直ちに停車してパーキングブレーキを作動させ、車両電源をオフにして車外に脱出してください。
5. 車両の再起動を試みても電源が入らない場合は、販売店に連絡してください。

車両電源が落ちる不具合は、次の原因が考えられます。

- 12V バッテリーがあがったときや、12V バッテリーの端子が外れるなど電源がオフになることがあります。
- 配線、ヒューズ、リレーの断線や溶断によって電源がオフになることがあります
- ヒューズボックス本体やヒューズボックスに接続されている配線のコネクターの接点に問題が生じた可能性があります。
- 盗難防止システムの誤作動が考えられます。

ジャンプスタート（他車の電力で起動）

12V バッテリーがあがって車両電源をオンにできない場合は、他車の 12V バッテリーの電力でジャンプスタートすることができます。



警告

ジャンプスタートの手順の誤りや 12V バッテリーの不適切な取り扱いは、爆発や火傷（化学熱傷を含む）の危険があります。

- バッテリーに火気を近づけないでください。
- プラス / マイナスの端子間に工具など導電性の物を接触させて短絡（ショート）させないでください。
- バッテリー液を扱うときは、目に入らないように保護してください。万一目に入ったときは、多量の水で洗い流した後、医師の診察を受けてください。手や身体に付着したときも多量の水で洗い流してください。ボディ塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。
- バッテリーに貼り付けられている警告ラベルの内容を守ってください。不適切な取り扱いは傷害を負うおそれがあります。



注意

- 自車と救援車両のボディが接触していない（電気が通る状態になっていない）ことを確認してください。ブースターケーブルを接続するときに短絡（ショート）して、車両が損傷するおそれがあります。
- 押しがけはできません。押したり引いたりして車両の起動を試みないでください。
- ブースターケーブルの接続順序を守ってください。手順を誤ると車両の損傷や傷害を負うおそれがあります。

ジャンプスタートの手順

1. 救援車両の 12V バッテリーの搭載位置を確認し、両車の 12V バッテリーをブースターケーブルで接続できる距離に駐車します。
2. 接触事故を起こさないために、両車のパーキングブレーキを確実に作動させます。
3. 両車のすべての電装品を作動停止して、車両電源（イグニッションスイッチ）をオフにします。
4. センターコンソールを取り外します（4 本のネジで固定されています）。
5. 自車の 12V バッテリーのプラス端子に、プラス用ブースターケーブルの一端を接続します。
6. プラス用ブースターケーブルの反対側を、救援車両の 12V バッテリーのプラス端子に接続します。
7. 救援車両の 12V バッテリーのマイナス端子に、マイナス用ブースターケーブルの一端を接続します。
8. マイナス用ブースターケーブルの反対側を、自車の車体の金属部分に接続します。



警告

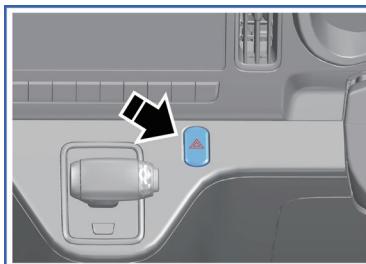
- マイナス用ブースターケーブルを自車の 12V バッテリーに直接接続しないでください。
 - ジャンプスタートの作業中にブースターケーブルが外れたり、プラスマイナスのケーブルが接触して短絡（ショート）しないように確実に固定してください。
9. 救援車両の主電源をオンにします。エンジン搭載車の場合はエンジンを始動して、アイドル回転数を少し高めで維持します。
 10. 自車の電源をオンにします。電力が不足しているときは、少し待ってから再度電源をオンにします。

11. 自車の電源がオンになったら、救援車両の主電源（イグニッションスイッチ）をオフにします。

12. ブースターケーブルを接続時と逆の順序で外します（自車のマイナス側→救援車両のマイナス側→救援車両のプラス側→自車のプラス側）。

ハザードランプの使用

車両故障などで路上に緊急停車する場合、ハザードランプを作動させて他の道路利用者に知らせます。



ハザードランプスイッチを押すと前後左右のすべてのターンシグナル（ウインカー）が点滅し、メーターパネルの表示灯も点滅します。スイッチを再度押すと作動が停止します。

⚠ 注意

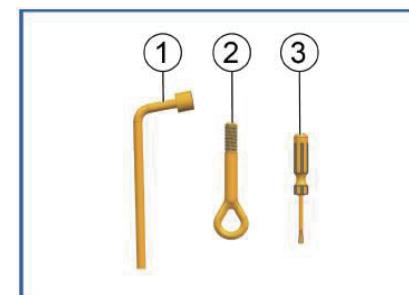
- ハザードランプは道路交通法を守って正しい用途で使用してください。ヒューズ切れなどでハザードランプが作動しない場合は、道路交通法に準拠した別の方法により周囲に注意喚起してください。
- 駐車中にハザードランプを長時間作動させると 12V バッテリーがあがる原因になります。

ℹ 知識

衝突による強い衝撃を受けたときやエアバッグが作動すると、状況に応じてハザードランプが自動的に作動します。

車載工具セット

助手席シートの下に工具セットがあります。工具セットの袋には、次の工具が収納されています。



1. ホイールナットレンチ
2. ねじ込み式のけん引フック
3. コンビネーションドライバー

⚠ 警告

やむを得ず路上で工具を使用する場合、衝突事故を防ぐための安全措置を怠らないでください。同乗者は車から降りて、安全を確保できる場所に退避してください。

⚠ 注意

車載工具を使用後は、汚れを拭き取って元の場所に戻してください。

ℹ 知識

万一の路上故障に備えて、反射材が付いた安全ベストを準備しておくことをお勧めします。

発炎筒

故障や事故などで路上に緊急停車したとき、他の道路利用者に危険を知らせる目的で使用してください。

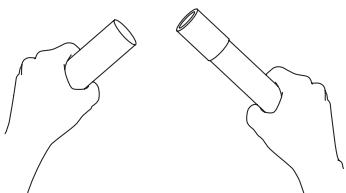


- 可燃物の近くで使用しないでください。引火のおそれがあります。
- トンネル内など閉鎖された空間で使用しないでください。煙で視界が遮られて事故を誘発する原因になります。
- 着火した発炎筒を人に向けないでください。
- お子さまが触らないように注意してください。

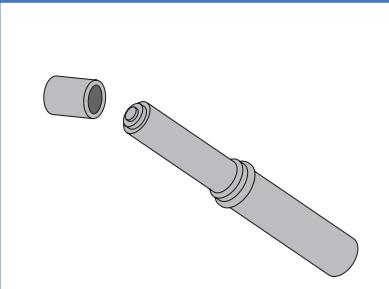


- 発炎筒は車への装備が義務付けられています。
- 発炎筒は有効期限があります。期限が切れる前に交換してください。

使い方



- ケースをひねって、発炎筒本体からケースを引き抜きます。
- 本体の後ろにケースを差し込んで持ち手にします。



- 先端のキャップを外します。
- キャップのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。

緊急時の措置

浸水したとき

深い水たまりを通過しなければならないときは次の要領で運転します。

- できるだけ波立てないように最徐行してください。
- 水たまりの途中で停車させることなく通過してください。
- 水面がホイールの中心高さまで到達する場所や、車体の底面が水につかる場所に進入しないでください。
- 水たまりを通過した後は、後続車に注意しつつブレーキペダルを数回踏んで、ブレーキが効くことを確認してください。



- 渡河のようなオフロード走行をしないでください。
- 水たまりを通過中に車両が動かなくなった場合は、車両電源をオフにして安全を確保できる場所に退避し、救援を呼んでください。
- 完全に浸水した車両は、見た目の損傷がなくても電気装備に問題が生じていて、車両電源をオンにすると深刻な事態に陥る可能性があります。点検のために高電圧システムの遮断が必要な場合もありますので、車を動かそうとせずに救援を依頼するか、販売店に連絡してください。

⚠ 注意

- 深い水たまりの中を走行したときは、車体やタイヤ、電気装置に損傷がないか、車体下部に異物が絡まっているか点検してください。
- 塩分が含まれている水たまりを走行したときは、下回りを中心に洗車して汚れをしっかりと落としてください。

発火したとき

- 臭いや煙で車両火災の疑いを感じたら、直ちに停車してパーキングブレーキを作動させ、車両電源をオフにして車外に脱出してください。
- 出火した場合など、危険を感じたら身の安全を最優先して退避してください。
- 特定の積荷から煙が出たときなど、出火原因と出火場所が明らかで消防手段がある場合のみ、消火活動を行ってください。出火原因や出火場所が不明なときや、車体から出火した場合は、直ちに車から離れてください。

⚠ 警告

車両火災を消そうとしないでください。退避するときは車体に触れないでください。

衝突事故のとき

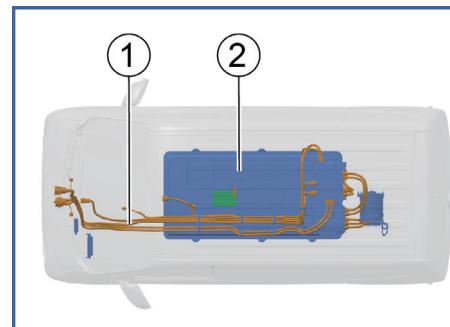
- 衝突事故が起きたときは救助を最優先してください。
- 車両電源をオフにしてください。
- ボディが少し凹む程度の軽微な衝突事故を除いて、現場で損傷の程度を確認することは控えてください。
- 自走が可能に見える状況でも、車両電源をオンにすると深刻な事態に陥る可能性があります。お客様自身で判断ができないときは、車から離れて救援を依頼してください。

- 動力バッテリーの損傷が見受けられるときや、車両から液類が漏れているときは火災の危険があるため直ちに退避してください。

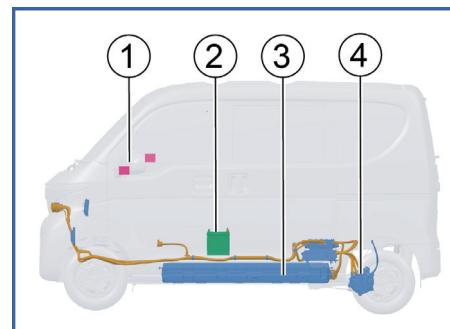
⚠ 警告

- 火傷（化学熱傷を含む）を防ぐため、車両から漏れた液類に触れないでください。
- 救援活動であっても高電圧システムに触れないでください。

重要なシステム部品の配置



1. 高電圧システムの配線（橙色）
2. 動力バッテリー



1. エアバッグモジュール（運転席／助手席）
2. 12V バッテリー
3. 動力バッテリー
4. 動力用モーターと減速機

タイヤのパンク

走行中にタイヤがパンクすると、走行抵抗が増加してふらつくおそれがあります。

1. ステアリングホイールを両手でしっかりと握り、走行姿勢を安定させてください。
2. ハザードランプを作動させ、慌てずに速度を下げてください。
3. 路肩の安全な場所に停車してください。
4. 緊急停止したことが他の道路利用者にわかるように三角表示板などで知らせてください。
5. 安全な場所に退避して救援を呼んでください。

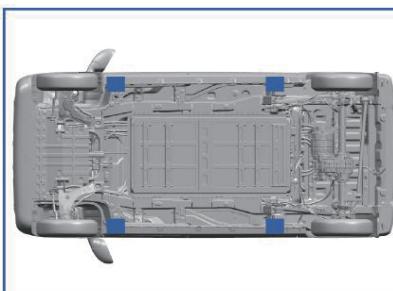
⚠️ 警告

タイヤ空気圧が大きく低下した状態で走行を続けると、タイヤが発熱してパンクや破裂の危険があります。

ジャッキアップ

⚠️ 警告

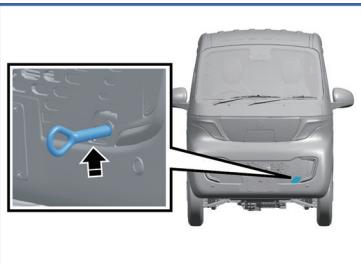
- ジャッキアップするときは平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをかけて車が動き出さないようにしてください。
- 持ち上げる部位の対角線位置にあるタイヤに輪止めをしてください。(例えば右後輪を持ち上げるときは、左前輪に輪止めをします。)
- ジャッキを設置する場所の地面が硬いことを確認してください。柔らかいときは車両重量を支えることができる板などを敷いてください。
- 車両電源をオフにした後、動力用モーターやブレーキ部品の温度が下がるまで待ってください。
- ジャッキで持ち上げた車両の下に身体を入れないでください。



ジャッキポイントは図の4か所です。

1. 持ち上げる部位に最も近いジャッキポイントの直下にジャッキを設置します。
2. ジャッキの接地面が安定していることを確認します。
3. ジャッキを展開して、先端を車両のジャッキポイントに密着させます。
4. 車体を少し持ち上げて、ぐらつきがないことを確認します。
5. タイヤ接地面が地面から離れるまで慎重に車体を持ち上げます。

車両のけん引と搬送



フロントバンパーの図の位置に、車載工具のけん引フックを取り付けることができます。取り付け部のカバーを外して、けん引フックをねじ込みます。

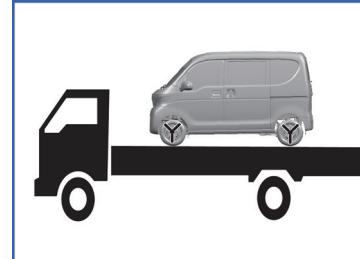
車載工具のホイールナットレンチをフックの丸穴に通して、フックを締め込んでください。

⚠ 注意

- けん引フックは、車両積載車で搬送できない場合の緊急用です。坂道や悪路での使用を避けてください。
- けん引中は低速を維持し、近距離の移動に留めてください。
- けん引フック以外の方法でけん引しないでください。
- 他車を救援するためのけん引には使用しないでください（側溝に落ちた他車を引き上げるなど）。

⚠ 警告

- けん引時は道路交通法を遵守し、ハザードランプを作動させてください。
- シフトポジションを「N」位置にしてください。他のシフトポジションでけん引するとモーターが破損し、事故につながるおそれがあります。



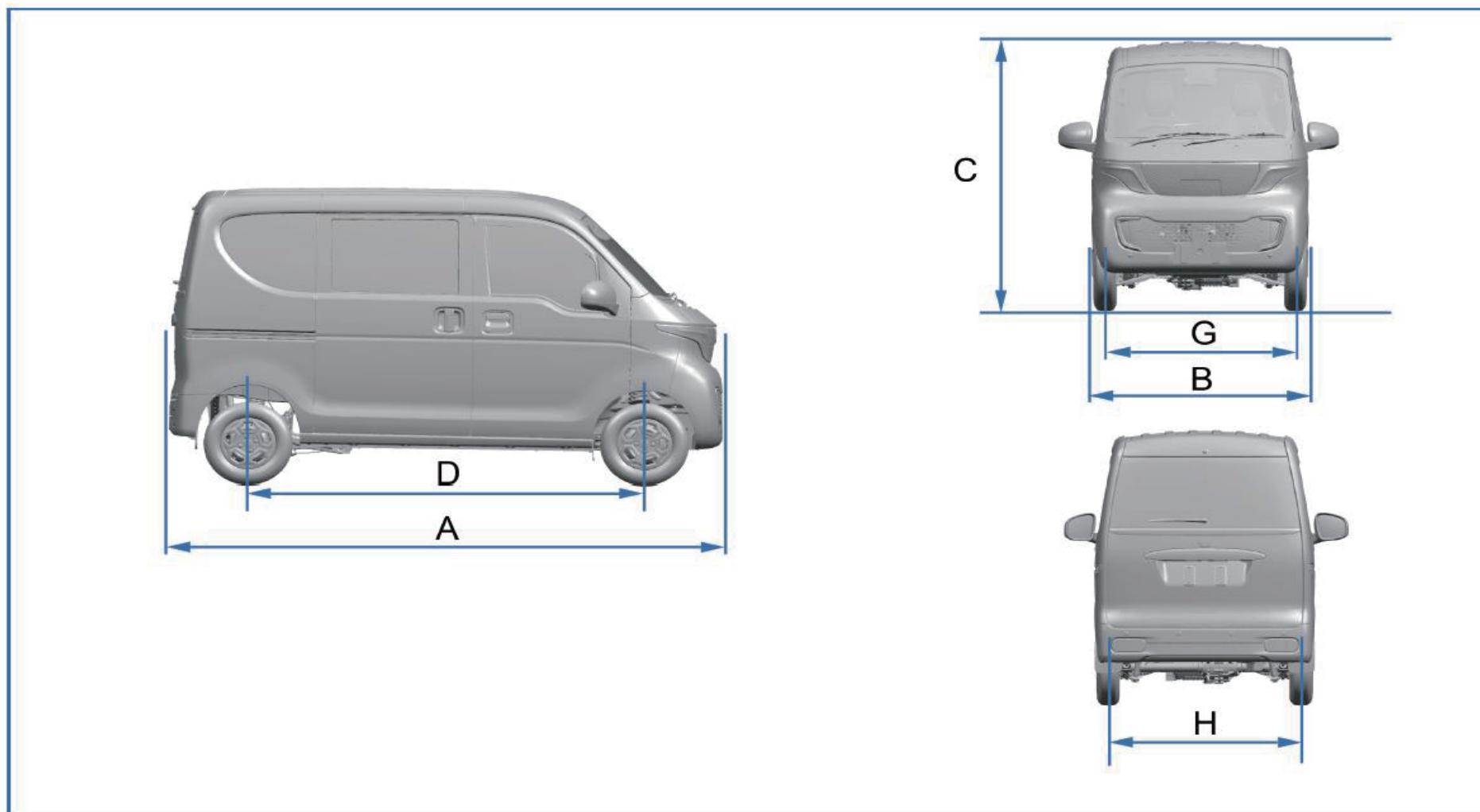
車両搬送は、できるだけ車両積載車を使用してください。

⚠ 注意

- 前輪または後輪が接地した状態で車両を搬送すると、動力用モーターなどに負荷がかかって損傷する原因になります。
- 車両積載車に積み込むときは、フロントバンパーのけん引フックを使用しないでください。
- 車両積載車で搬送時は、シフトポジションを「P」位置にしてparkingブレーキを作動させてください。
- 車両積載車で搬送中は、必ず車両電源をオフにしてください。
- サスペンション部品やホイールにロープをかけて車両を固定しないでください。

テクニカルデータ

車両寸法



各部の寸法と諸元

項目	単位	数値
車両寸法	mm	全長 (A) 3395
		全幅 (B) 1475
		全高 (C) 1950
荷室寸法	mm	長さ 1690
		幅 1340
		高さ 1230
トレッド	mm	前輪 (G) 1300
		後輪 (H) 1290
ホイールベース (D)	mm	2430
最小回転半径	m	4.4
最低地上高	mm	130
アプローチアンダル	°	32
ディバーチャーアンダル	°	36



- 全幅の数値にサイドミラー（ドアミラー）は含まれません。
 ● 表の数値は車両設計値であり、認証の届出数値ではありません。

項目	単位	数値
乗車定員	名	2
車両重量	kg	1130
前軸荷重（空車時）	kg	585
後軸荷重（空車時）	kg	545
車両総重量	kg	1590
前軸荷重（最大積載時）	kg	715
後軸荷重（最大積載時）	kg	875
最大積載量	kg	350

動力用モーター

項目	単位	仕様、数値
型番	—	TZ155X030
タイプ	—	永久励磁同期モーター
定格電圧	V	320
定格トルク	Nm	40
最大トルク（ピーク時）	Nm	120
定格出力	kW	15
最大出力（ピーク時）	kW	30
定格回転数	r/min	4775
最高回転数	r/min	11000

動力バッテリー

項目	単位	仕様、数値
電力量	kWh	30
タイプ	—	リチウムイオン電池
定格容量	Ah	96
定格電圧	V	309.12
重量	kg	237.5

動力性能

項目	単位	数値
航続可能距離	km	243
最大登坂能力	%	27
最高速度	km/h	100
最高出力	kW	30
最大トルク	Nm	120

油脂類

項目	仕様	充填量
冷却液	エチレングリコール型	6L
ブレーキ液	DOT4	0.7L
リアアクスルギアオイル	GL-575W/90	1.0 ± 0.05L
ウォッシャー液	-15°C	1L
エアコン冷媒	HFO-1234YF	250g
エアコンコンプレッサー油	RL68H	120ml

ホイールアライメント

項目	数値
前輪キャンバー角	30' ± 45'
前輪トータルトー角	0° 13'
キングピン傾斜角	9° 09' ± 1°
キングピンキャスター角	5° 19' ± 45'
後輪キャンバー角	0°
後輪トータルトー角	0°

ホイール / タイヤ

項目	単位	仕様、数値
タイヤサイズ、構造	前輪	—
	後輪	—
標準空気圧	前輪	kPa
	後輪	kPa
ホイールサイズ	前輪	—
	後輪	—

その他

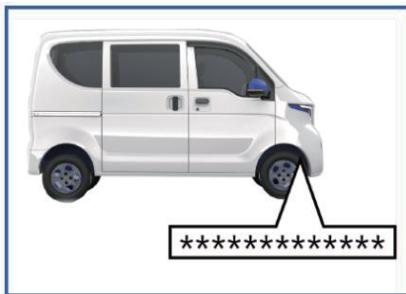
項目	数値
ホイールバランス（ダイナミックバランス）の限度値	片側 10g 以下

ラベル / プレートの貼付位置

VIN (車台番号)



VIN プレートはフロントウィンドウの右下隅に貼り付けられています。

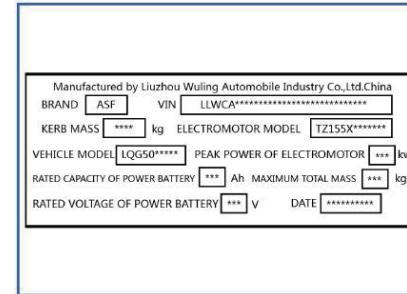


VIN は右前輪ホイールハウス内のサイドメンバーに刻印されています。

車両情報



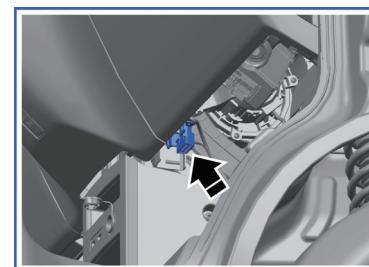
車両情報を記したプレートは、右側 B ピラーに貼り付けられています。



プレートには次の情報が掲載されています。

- 製造者名
- 車両識別番号
- ブランド
- 製造年月
- 車両の型番
- 動力用モーターの型番
- 動力バッテリーの定格電力 (Ah) / 定格電圧 (V)
- 最大重量
- 動力用モーターのピーク出力

OBD 診断機の接続端子



運転席足元のステアリングコラムの近くに OBD 診断機を接続するコネクターがあります。

警告ラベル



1. エアバッグの警告ラベル
2. 動力バッテリーの警告ラベル

エアバッグの警告ラベル

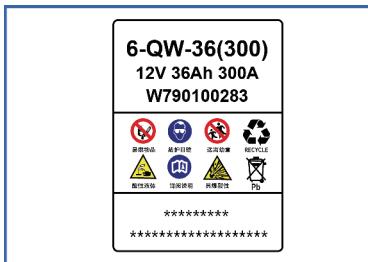


助手席のサンバイザーにエアバッグの警告を表示しています。警告ラベルには、エアバッグが装備されている助手席に後ろ向きチャイルドシートの取り付けを禁止する意味のシンボルが記されています。



警告
チャイルドシートの取り扱いを誤ると生命への危険や重大な傷害を負うおそれがあります。

12V バッテリーの警告ラベル



12V バッテリーに取り扱い上の注意を記した警告ラベルが貼り付けられています。



警告
12V バッテリーの点検と交換は販売店に依頼してください。バッテリーの取り扱いを誤ると重大な傷害を負うおそれがあります。

高電圧システムのケーブルの識別



高電圧・高電流が流れる配線は、規格により橙色になっています。この配線には触れないでください。

専門知識を有する技能スタッフだけが高電圧システムの取り扱いを認められています。

警告ラベル	ラベルのシンボルマーク	説明
高電圧、感電注意		高電圧が作用します。 感電の危険があります。
一般注意		安全に気をつけてください。
取扱説明書、修理書を参照		取扱説明書や修理書の指示に従ってください。 専門技能を有しない場合は作業を禁止します。
感電注意		感電の危険があります。 取り扱いには十分注意してください。

高電圧システムの警告ラベル、パターン 1



- 内部に高電圧が作用します。
- 取扱説明書や修理書の指示に従ってください。
- 感電の危険があります。取り扱いには十分注意してください。

高電圧システムの警告ラベル、パターン 2



- 安全に気をつけてください。
- 内部に高電圧が作用します。
- 感電の危険があります。取り扱いには十分注意してください。

こんなときは？

車両の異常を発見したとき

次のいずれかの現象を発見した場合は、車両の点検または修理が必要です。すみやかに販売店で点検を受けてください。

目に見える現象

- 車の下に液体が漏れている。(エアコンの使用時 / 使用後に水が滴下するのは正常です。)
- タイヤの空気が抜けている。
- タイヤが均一に摩耗していない(偏摩耗)。
- メーターパネルの警告灯が点灯している。または故障警告が表示されている。

聞こえる現象

- モーターの作動音が異常である。
- カーブを曲がるときなどにタイヤから異音がする。
- サスペンションの周辺から異音がする。

操作に関する現象

- 動力が明らかに低下している。
- ブレーキをかけたときに車体が振動する。または左右にふらついて安定しない。
- 平坦路を走行中に大きくふらつく。
- ブレーキが効かない。ブレーキペダルを踏んだときの感触が柔らかい。ブレーキペダルがいつもより奥まで入る。

側溝などに脱輪したときの救援

⚠️ 警告

救援が不慣れな場合は自力での脱出を試みないでください。不適切な作業によって重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠️ 注意

- 無理に脱出しようとしないでください。
- タイヤ以外の車体の一部が地面に接触しているときは、自力での脱出を試みないでください。
- 他車に引いてもらうときは、前後方向にできるだけ真っ直ぐに引いてください。車両を横方向に引っ張らないでください。
- 脱出時にタイヤを空転させると、動力用モーターなどに負荷がかかって損傷する原因になります。

メーターパネルに故障が表示されたとき

メーターパネルの警告灯が点灯したときや、故障警告のメッセージが表示されたときは販売店で点検を受けてください。

故障警告のメッセージ	説明
充電中	充電が正常に行われているときに表示されます。
充電終了	充電が正常に終了すると表示されます。
電気量が不足していますから、直ちに充電してください	動力バッテリーの充電レベルが低下しています。すみやかに動力バッテリーを充電してください。
充電故障です	充電が正常に行われない場合に表示されます。販売店に連絡してください。
安全運転の為、運転席シートベルトを装着してください	直ちに安全な場所に停車して、シートベルトを着用してください。
安全運転の為、助手席シートベルトを装着してください	助手席乗員にシートベルトの着用を促してください。
有効なカギが見つかりません	リモコンキーを車内で検出できない場合に表示されます。鞄などに入れている場合は取り出して、ドライバーの近くに置いてください。
ドアが開いており、Pギアにありません	運転席ドアを開けたときにPギアになっていないと表示されます。ドアを閉めてPギアに入れてください。
ブレーキを踏んで電源ONしてください	発進操作が適切でない場合に表示されます。ブレーキペダルを踏んでから、発進操作を行ってください。
スマートライトが消灯されていません	ライトの消し忘れを防ぐ表示です。ライトスイッチレバーの操作で消灯してください。
キーの電気量が低いです	リモコンキーの電池残量が低下しています。リモコンキーの電池交換を販売店に依頼してください。
次のお手入れまで 500km未満ですので、できるだけ早くお手入れをしてください	期日が到来するまでに販売店で点検を受けてください。

故障警告のメッセージ	説明
メンテナンス期間を過ぎている為、メンテナンスを依頼してください	すみやかに販売店で点検を受けてください。
ブレーキ油不足、ブレーキ油を追加してください	ブレーキ液リザーバータンクの液面が下がると表示されます。すみやかにブレーキ液を補充してください。
警告！修理工場でメンテナンスを受けてください	電源系統のシステムに異常があります。直ちに販売店で点検を受けてください。
危険！ゆっくりと車両を停車してください	電源系統のシステムに異常があります。安全な場所に停車してください。販売店に連絡してください。
ABS システム故障です	アンチロックブレーキシステム(ABS)に異常があります。ABSが正常に作動しない可能性があります。ただし油圧ブレーキシステムは機能します。急ブレーキを避けて慎重に運転してください。直ちに販売店で点検を受けてください。
EBD 故障	制動力配分機能(EBD)に異常があります。安全な場所に停車してください。販売店に連絡してください。
起動スイッチ故障です	スタートスイッチの機能に異常があります。すみやかに販売店で点検を受けてください。
エアバッグ故障です	エアバッグシステムやシートベルトシステムに異常があります。安全な場所に停車してください。販売店に連絡してください。

ASF 株式会社